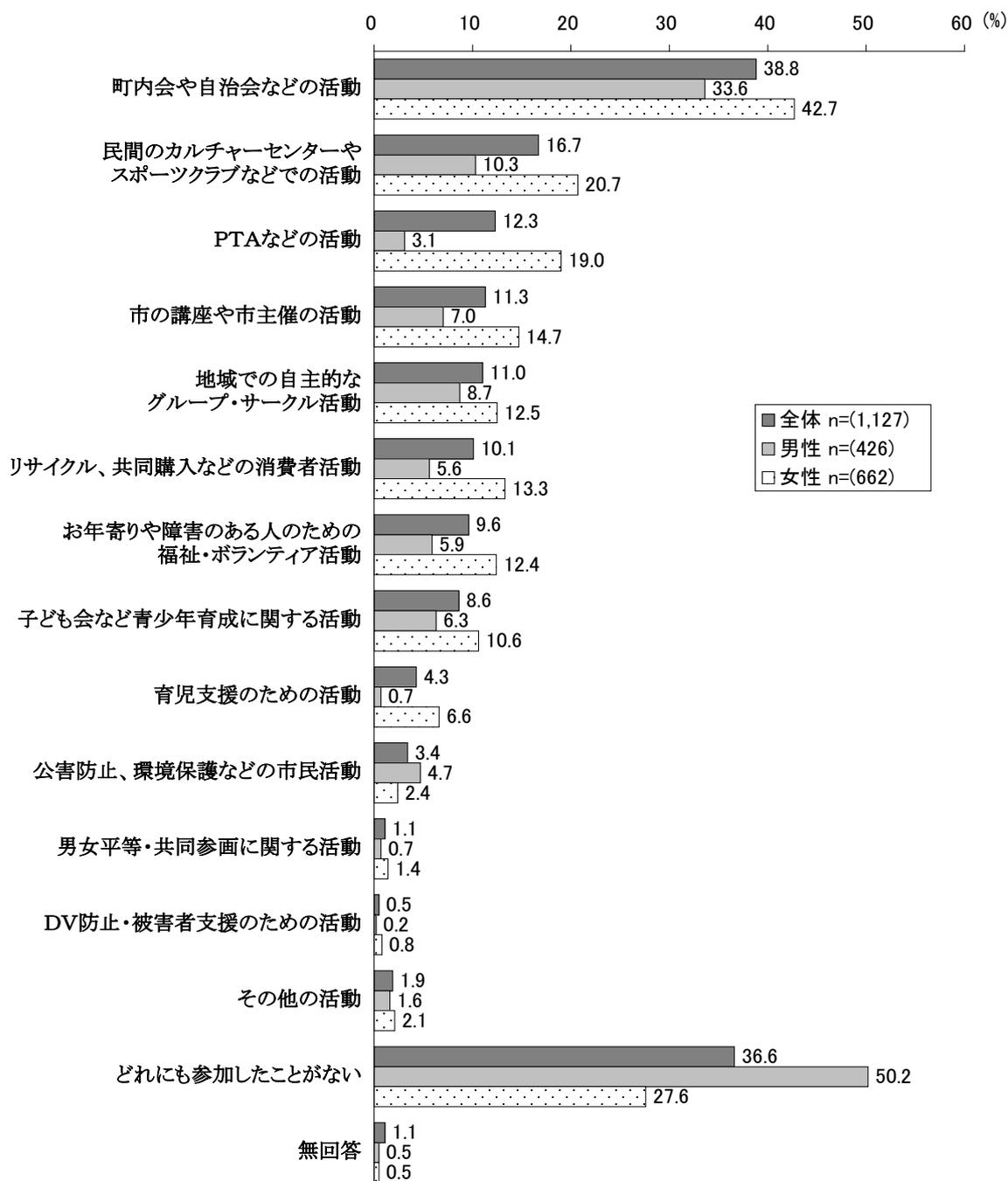


D 社会参画について

(1) 地域活動への参加経験、参加をしていない理由

■参加経験

Q15 あなたはこの1～2年の間に、以下のような活動に参加したことがありますか。あてはまるものをすべてお選びください。



この1～2年の間の地域活動への参加経験は、「町内会や自治会などの活動」が全体38.8%、女性42.7%、男性33.6%でそれぞれ最も高い。また、「公害防止、環境保護などの市民活動」を除く活動す

第2章 調査結果の詳細

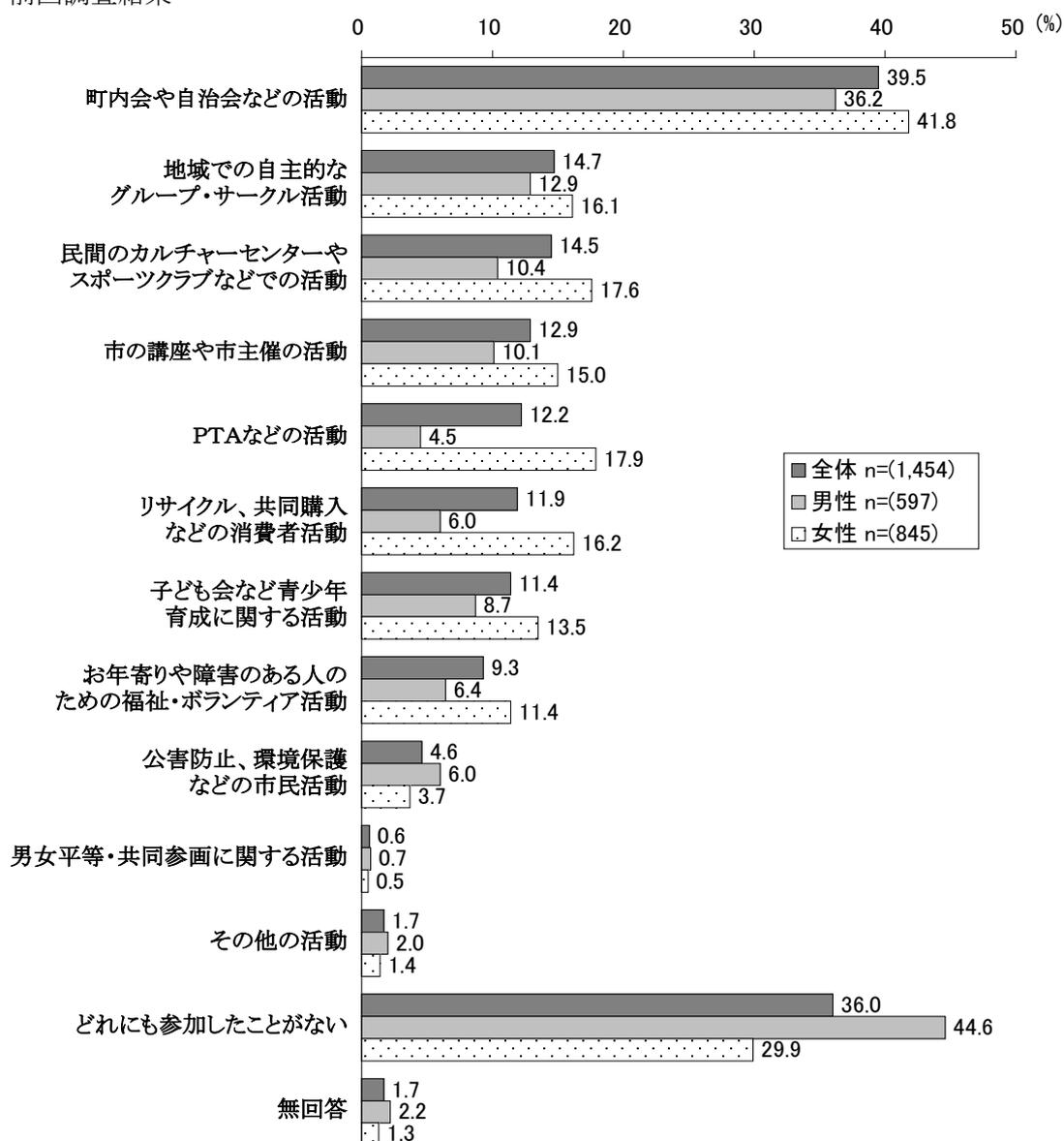
べてで、女性の回答割合が高く、「PTAなどの活動」は女性19.0%、男性3.1%で女性の方が15.9ポイント高くなっている。一方、「どれにも参加したことがない」は全体36.6%、男性50.2%、女性27.6%で男性は5割と高くなっている。

性年代別

	全体	子ども会など青少年育成に関する活動	PTAなどの活動	育児支援のための活動	町内会や自治会などの活動	リサイクル、共同購入などの消費者活動	公害防止、環境保護などの市民活動	福祉・ボランティア活動	お年寄りや障害のある人のための	地域での自主的なグループ・サークル活動	民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなどの活動	市の講座や市主催の活動	男女平等・共同参画に関する活動	DV防止・被害者支援のための活動	その他の活動	どれにも参加したことがない	無回答
全体	1,127	8.6	12.3	4.3	38.8	10.1	3.4	9.6	11.0	16.7	11.3	1.1	0.5	1.9	36.6	1.1	
男性／20歳未満	11	9.1	-	-	-	9.1	-	18.2	9.1	9.1	-	-	-	-	63.6	-	
20代	37	-	-	2.7	13.5	2.7	2.7	5.4	5.4	8.1	2.7	2.7	-	-	67.6	-	
30代	56	1.8	-	1.8	23.2	5.4	-	5.4	12.5	8.9	7.1	-	-	-	55.4	-	
40代	91	12.1	7.7	1.1	30.8	4.4	4.4	7.7	7.7	7.7	3.3	-	1.1	-	54.9	-	
50代	83	8.4	7.2	-	33.7	9.6	4.8	3.6	4.8	12.0	7.2	1.2	-	2.4	49.4	-	
60代	148	4.7	-	-	46.6	4.7	7.4	5.4	10.8	12.2	10.8	0.7	-	3.4	40.5	1.4	
女性／20歳未満	14	7.1	-	-	14.3	-	-	35.7	7.1	-	-	-	-	-	57.1	-	
20代	69	8.7	-	7.2	10.1	8.7	-	15.9	4.3	5.8	4.3	1.4	2.9	1.4	55.1	-	
30代	122	12.3	24.6	12.3	36.9	11.5	1.6	4.1	11.5	13.9	10.7	1.6	-	1.6	31.1	-	
40代	164	20.7	43.9	6.7	46.3	15.2	3.7	10.4	8.5	20.1	11.0	1.2	-	3.0	22.6	0.6	
50代	129	5.4	16.3	4.7	45.7	17.8	2.3	15.5	13.2	29.5	17.8	2.3	2.3	3.1	24.0	-	
60代	164	4.3	1.8	4.3	57.3	12.2	3.0	14.6	20.7	27.4	24.4	0.6	-	1.2	18.9	1.2	

性年代別では、「町内会や自治会などの活動」は女性60代57.3%が最も高く、男性60代46.6%、女性40代46.3%、女性50代45.7%となっている。男女とも年代が上がるにしたがい「町内会や自治会などの活動」の割合は増加する傾向にある。「PTAなどの活動」は全ての年代で女性の割合が高く、女性40代で4割台前半、30代で2割台前半となっているが、男性は40代、50代で1割未満である。一方、「どれにも参加したことがない」は男女とも20代が最も高く、男性67.6%、女性55.1%、次いで男性30代55.4%、40代54.9%、50代49.4%と高くなっている。

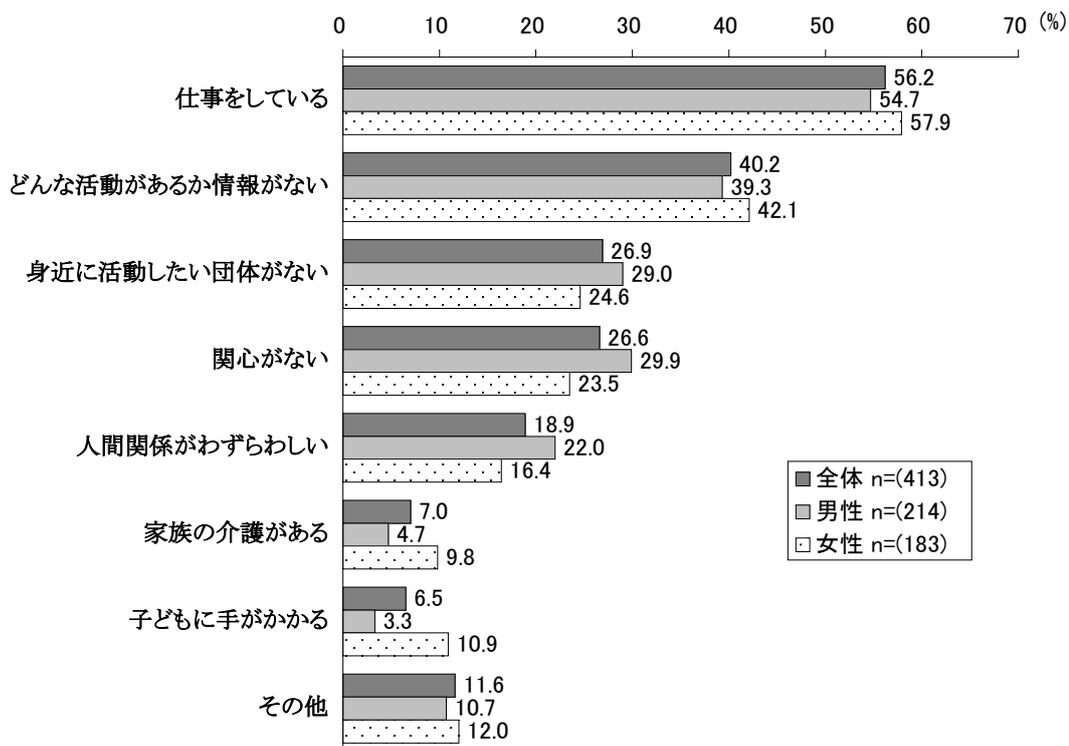
【参考】 前回調査結果



前回は、全体では「町内会や自治会などの活動」、「地域や自主的なグループ・サークル活動」「民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなどでの活動」の順となっている。「民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなどでの活動」は女性の活動率が上がり、順位が上がっている。「どれにも参加したことがない」は男性では増加したが、女性は減少している。

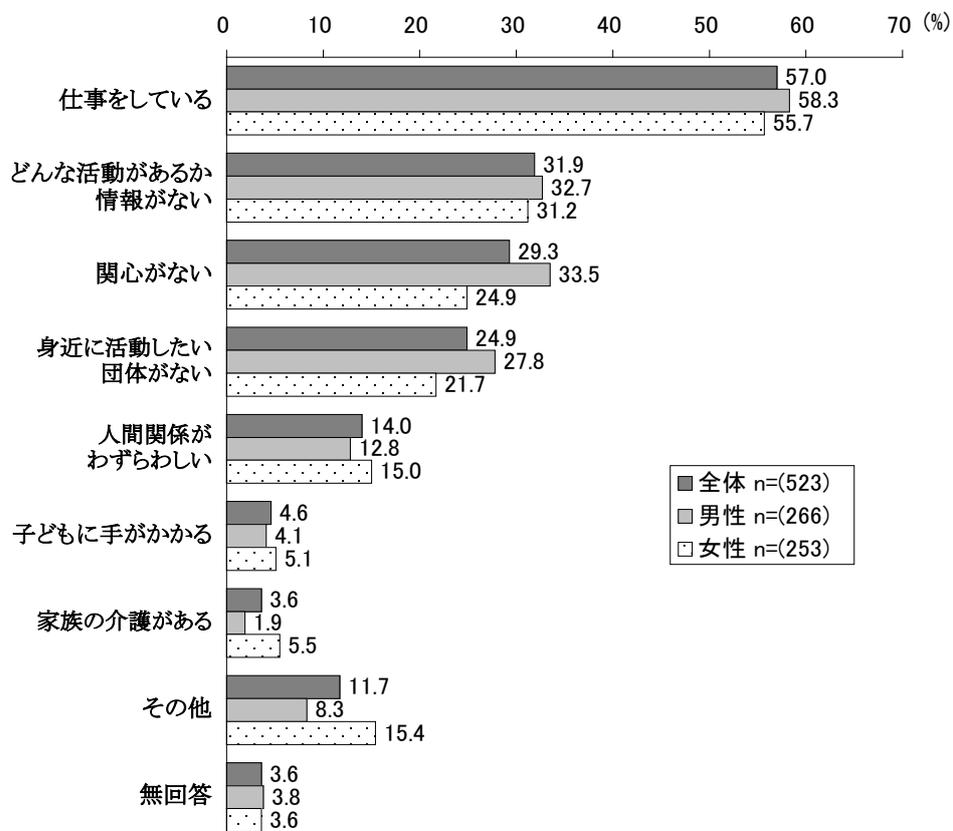
■参加していない理由

Q15-1 Q15で「14. どれにも参加したことがない」とお答えの方におたずねします。あなたが活動をしていない理由は、どのようなことでしょうか。おもな理由を3つまでお選びください。



地域活動のどれにも参加していない理由は、「仕事をしている」が全体56.2%、女性57.9%、男性54.2%とそれぞれ最も高い。次いで「どんな活動があるか情報がない」が全体40.2%、女性42.1%、男性39.3%となっている。

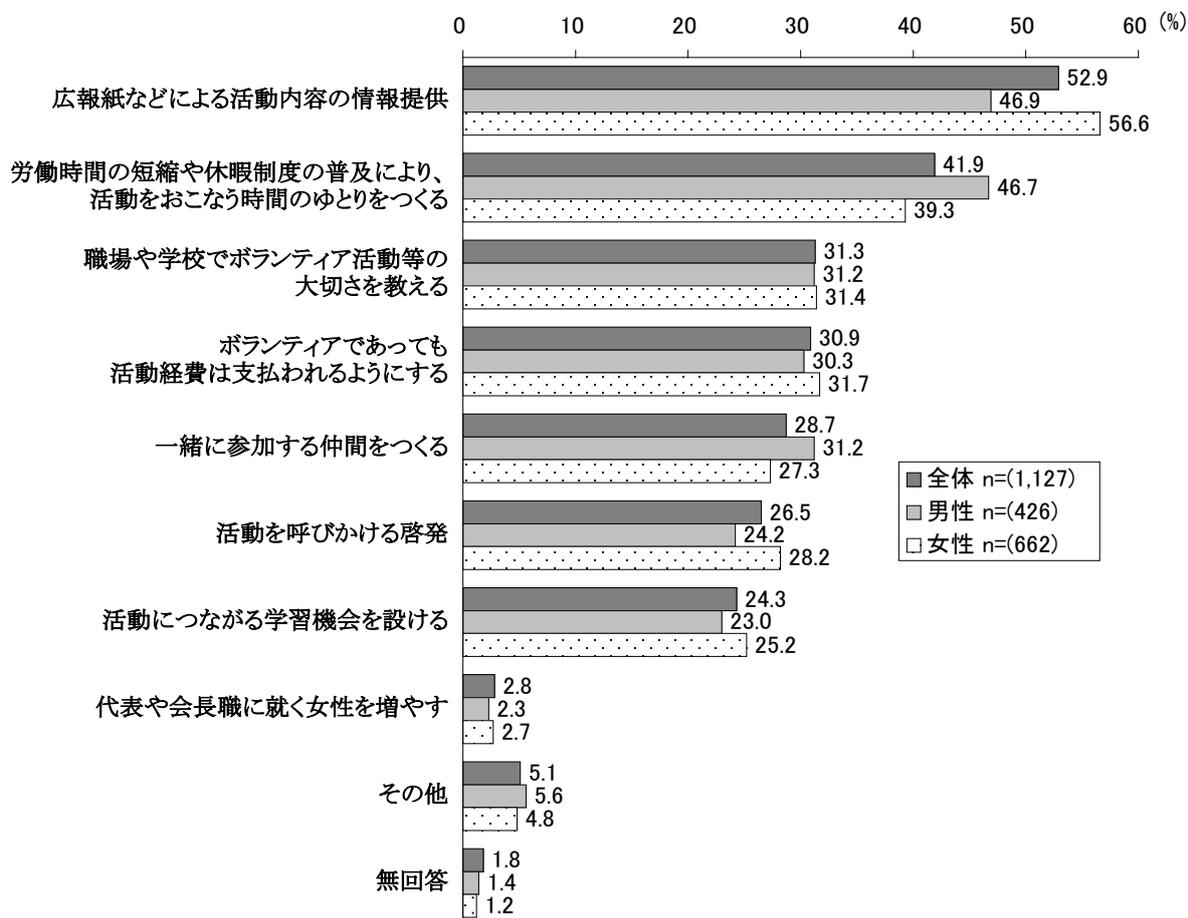
【参考】前回調査結果



前回は、「仕事をしている」が全体57.0%、男性58.3%、女性55.7%となっているが、女性は増加し、男性は減少している。「どんな活動があるか情報がない」は男女ともに増加している。一方で、「関心がない」は男女ともに減少している。

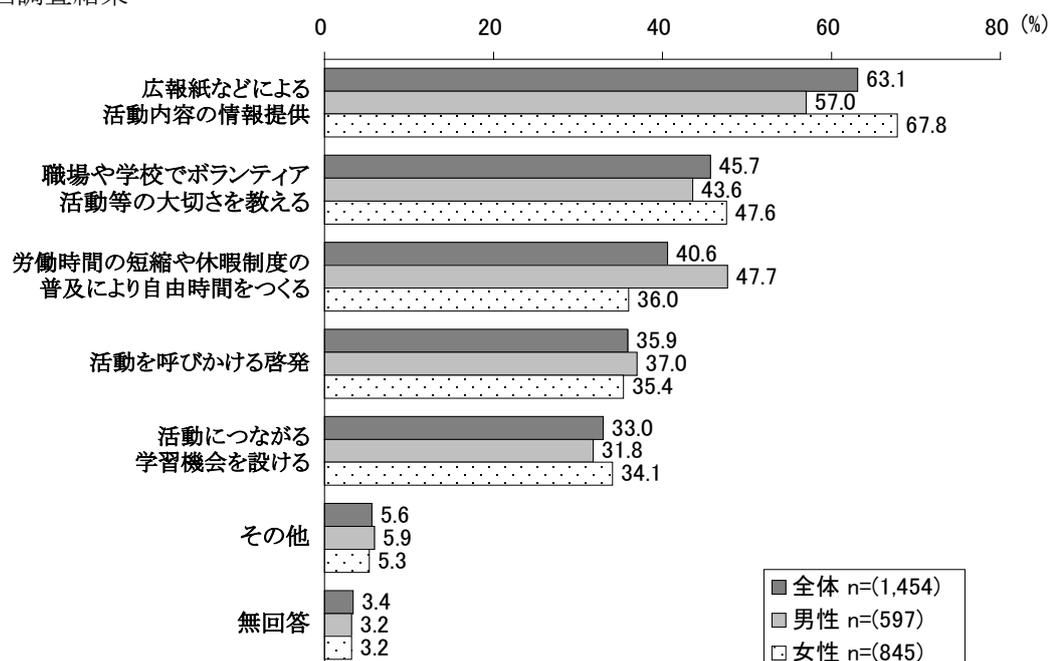
(2) ボランティア活動や地域活動の市民参加率向上のために必要なこと

Q16 今日の社会は、さまざまなボランティア活動や地域活動により支えられていますが、これらの活動にさらに多くの市民が参加するには、何が必要だと思いますか。3つまでお選びください。



さまざまなボランティア活動や地域活動にさらに多くの市民が参加するために必要なことは、「広報紙などによる活動内容の情報提供」が全体で52.9%、女性56.6%、男性46.9%で最も高く、次いで「労働時間の短縮や休暇制度の普及により、活動を行う時間のゆとりをつくる」が全体41.9%、男性46.7%、女性39.3%となっている。

【参考】 前回調査結果

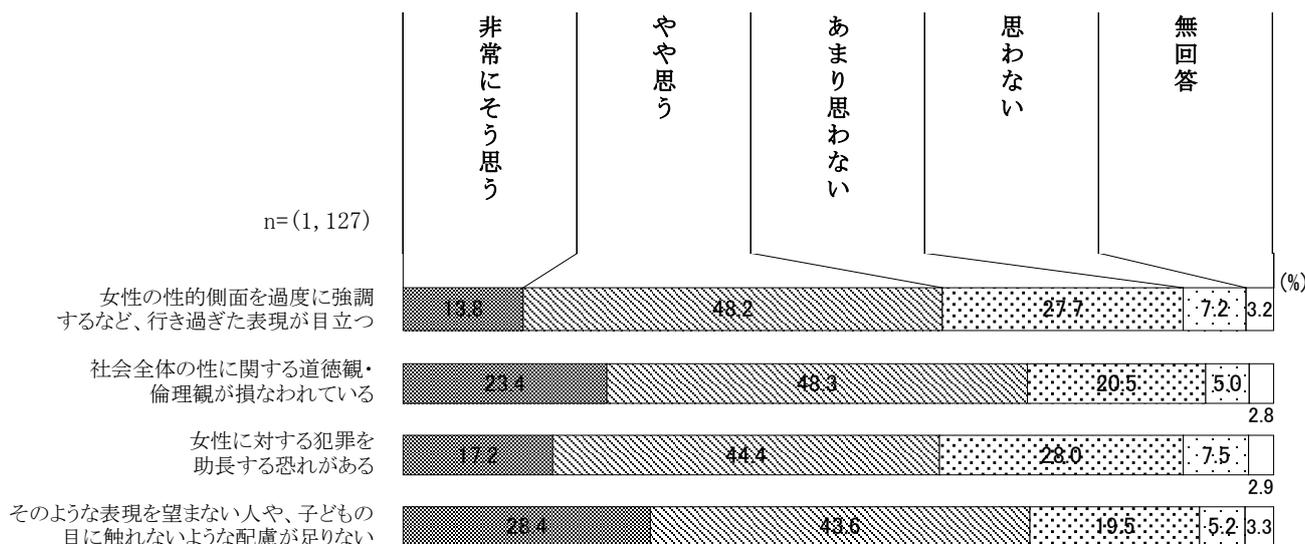


前回は、「広報紙などによる活動内容の情報提供」が全体で63.1%、男性57.0%、女性67.8%で最も高くなっているが、今回は男女ともに大きく減少している。また、「職場や学校でボランティア活動等の大切さを教える」も男女ともに大きな減少となっている。一方で、今回選択肢として追加した「ボランティアであっても活動経費は支払われるようにする」「一緒に参加する仲間をつくる」は3割前後となり、必要な要素として捉えられていることが分かる。

E 男女の人権について

(1) メディアにおける性表現・暴力表現について

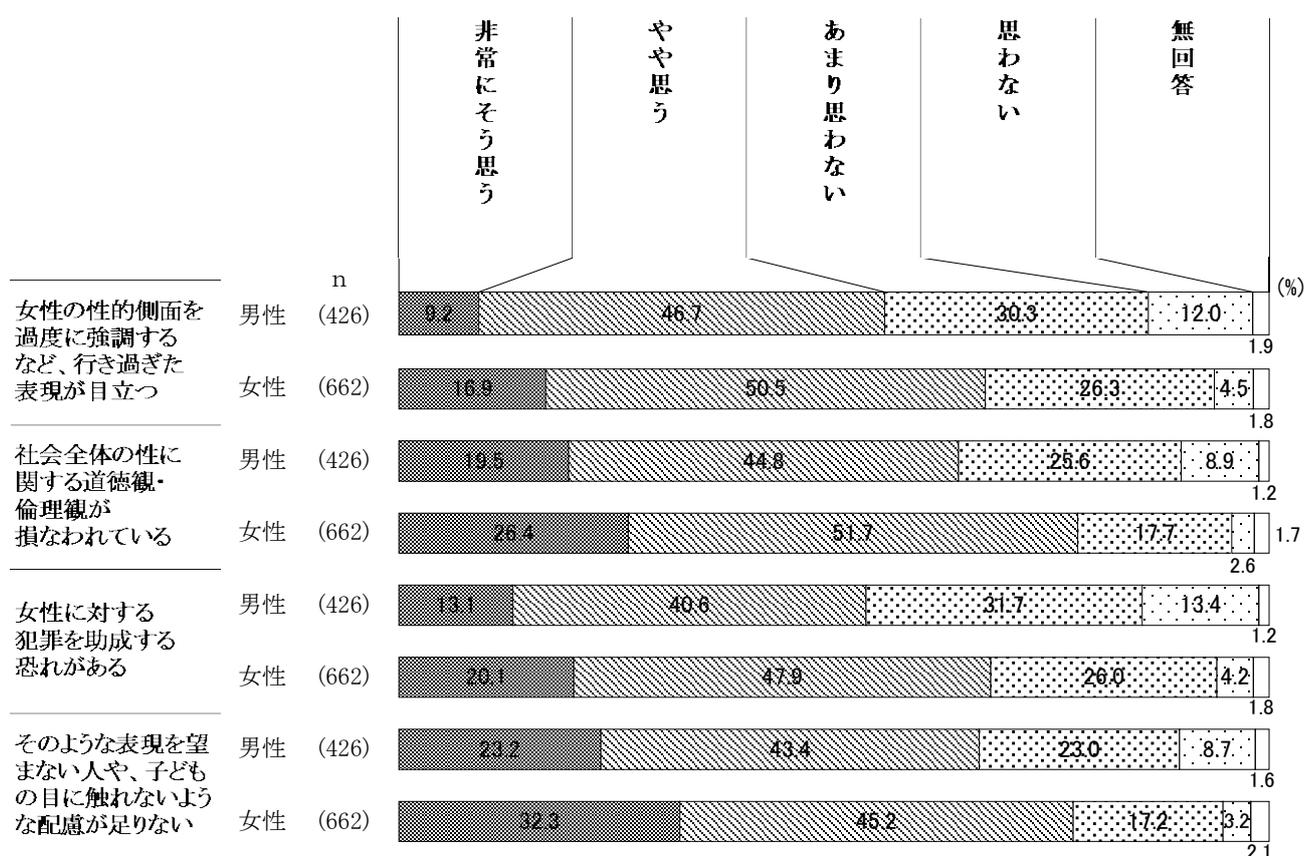
Q17 テレビ、新聞、雑誌などのメディアにおける性表現・暴力表現について、あなたはどうにお考えですか。(1)～(4)の各項目につき1つずつ選び、○をお付けください。また、その他にご意見がありましたら、(5)の欄にご記入ください。



【その他に記入された意見】

意見	件数
マス・メディアに責任がある	13
テレビの放送内容や時間に規制を設けるべき	7
社会全体の道徳観・倫理観が損なわれている	6
インターネット上の情報に問題がある	5
メディアリテラシーなどの教育が必要	4
子どもの目に触れないような配慮が足りない	3
積極的な道徳観・倫理観醸成の取組が必要	3
雑誌等の電車内広告や店頭の配架に規制を設けるべき	3
情報の取捨選択は個人に任せるべき	3
児童ポルノ対策が必要	2
価値観の多様性を認めるべき	1
表現の自由を尊重すべき・規制に反対	1
その他	15

メディアにおける性表現・暴力表現については、全体では、「非常にそう思う」「やや思う」は、『そのような表現を望まない人や、子どもの目に触れないような配慮が足りない』が72.0%、『社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている』が71.7%、『女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ』が62.0%、『女性に対する犯罪を助長する恐れがある』が61.6%となっている。一方、「あまり思わない」「思わない」は、『女性に対する犯罪を助長する恐れがある』が35.5%、『女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ』が34.9%、『社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている』が25.5%、『そのような表現を望まない人や、子どもの目に触れないような配慮が足りない』が24.7%となっている。

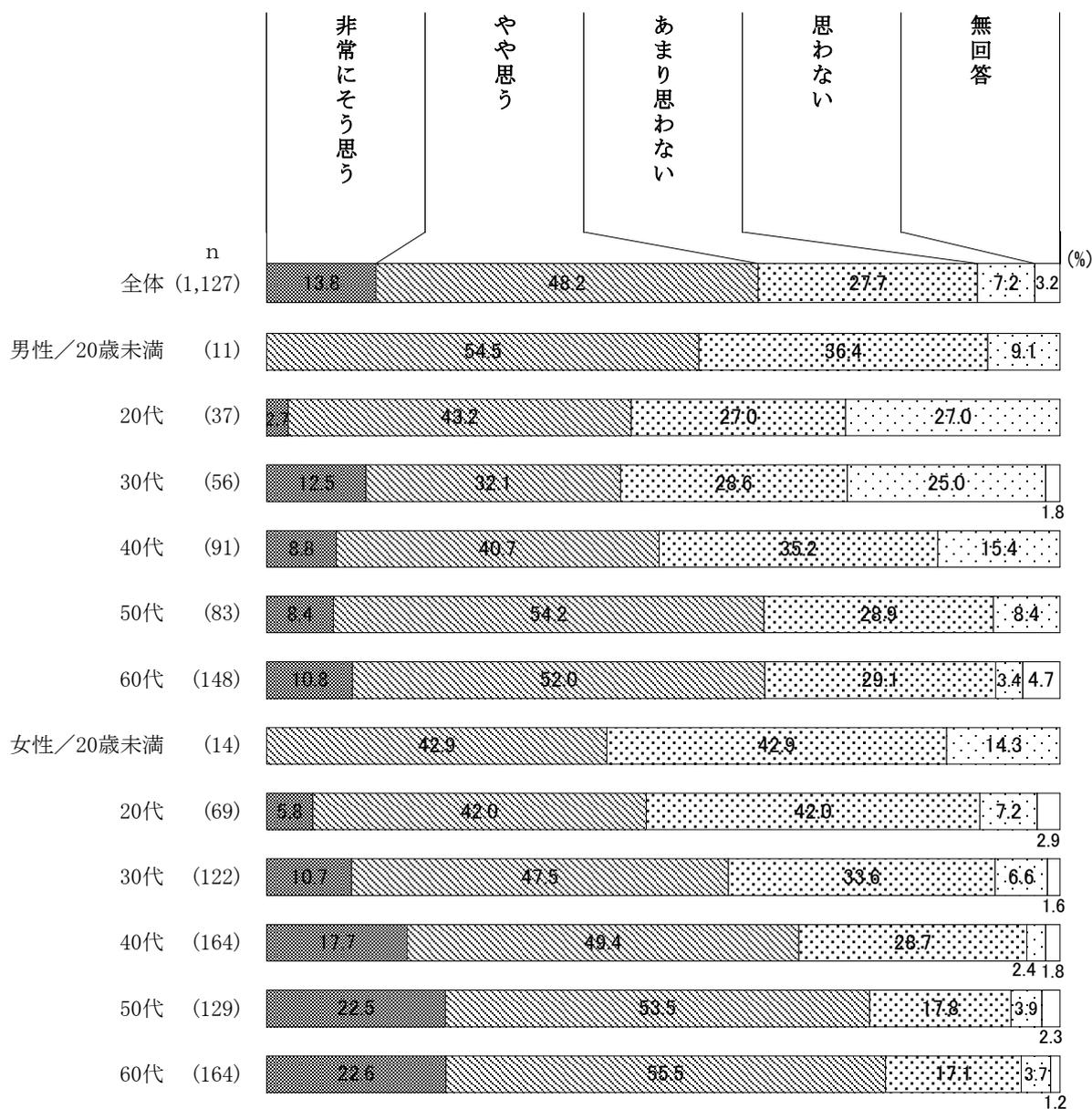


性別では、「非常にそう思う」「やや思う」は、『女性に対する犯罪を助長する恐れがある』女性68.0%、男性53.7%、『社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている』女性78.1%、男性64.3%、『女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ』女性67.4%、男性55.9%、『そのような表現を望まない人や、子どもの目に触れないような配慮が足りない』女性77.5%、男性66.6%で、いずれも女性の方の割合が10ポイント以上も高くなっている。

第2章 調査結果の詳細

性年代別

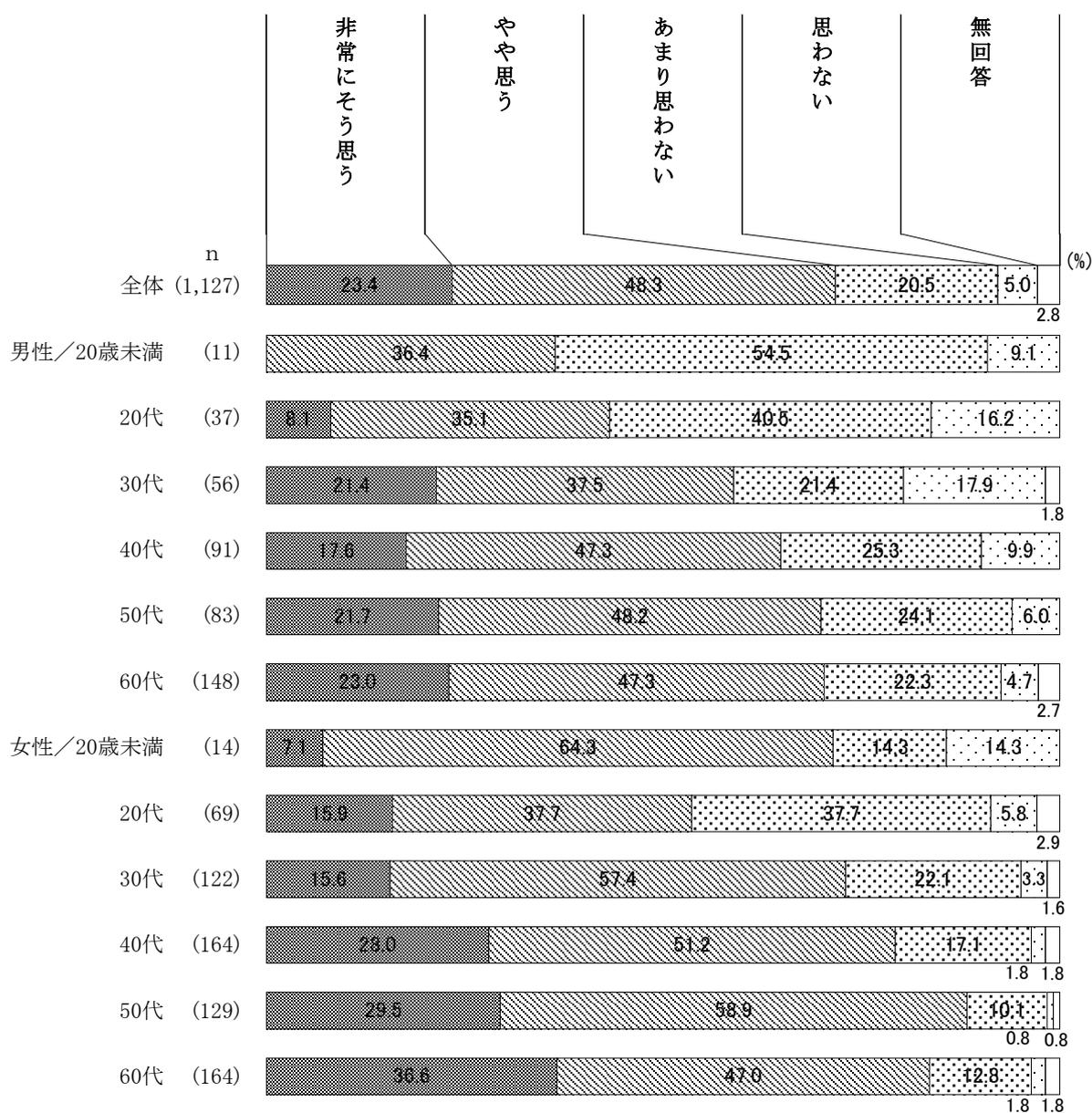
女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ



性年代別では、男性の20～40代、女性の20代で「非常にそう思う」「やや思う」が低く、「思わない」「あまり思わない」が5割前後と高くなっている。一方、男女ともに50～60代では「非常にそう思う」「やや思う」が高く、特に女性で7割以上となっている。

性年代別

社会全体の性に対する道德観・倫理観が損なわれている

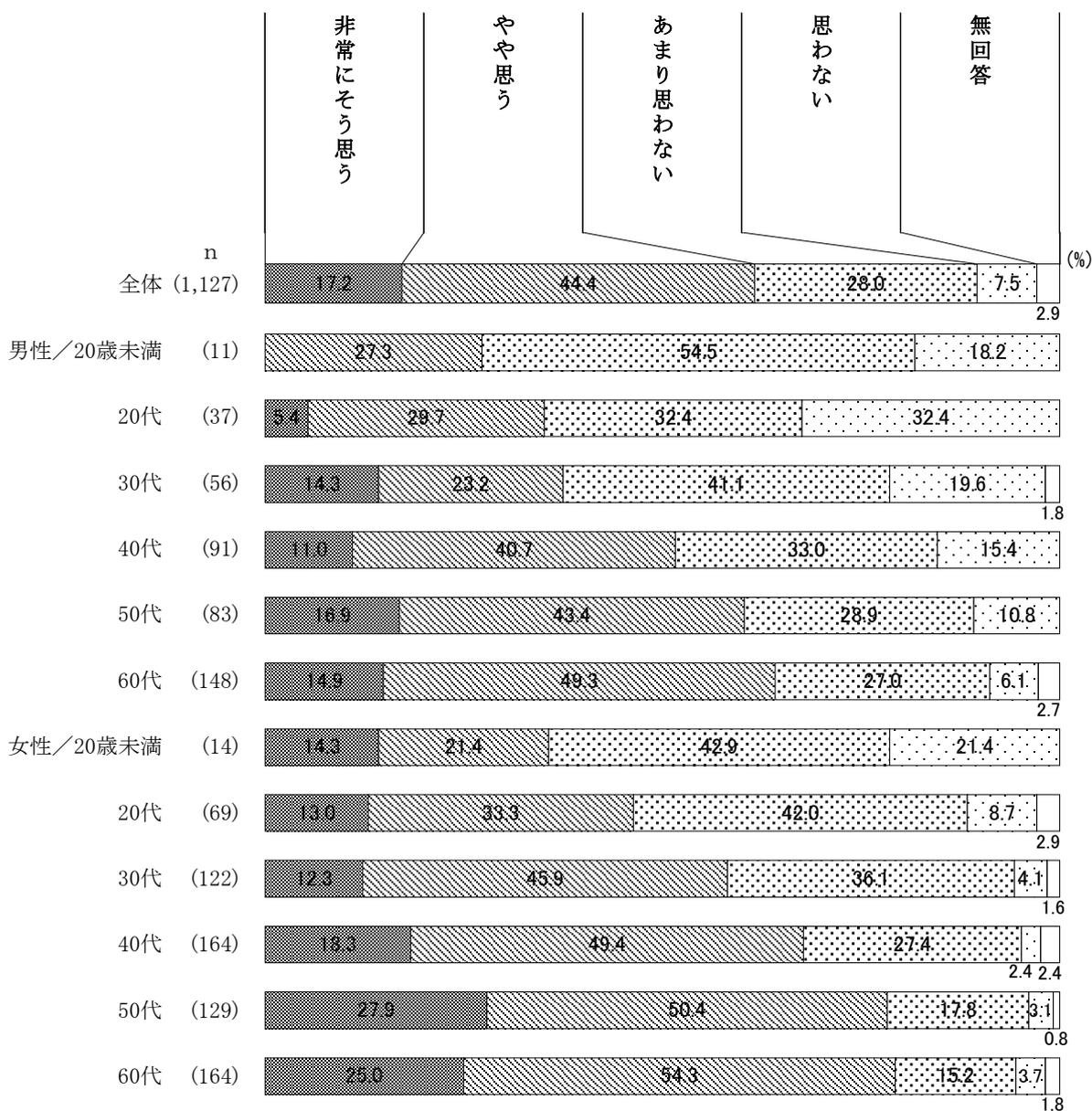


性年代別では、男女ともに20代で「非常にそう思う」「やや思う」が低く、「思わない」「あまり思わない」が男性で56.7%、女性で43.5%と高くなっている。一方、女性の30～60代では「非常にそう思う」「やや思う」が7割以上と高くなっている。

第2章 調査結果の詳細

性年代別

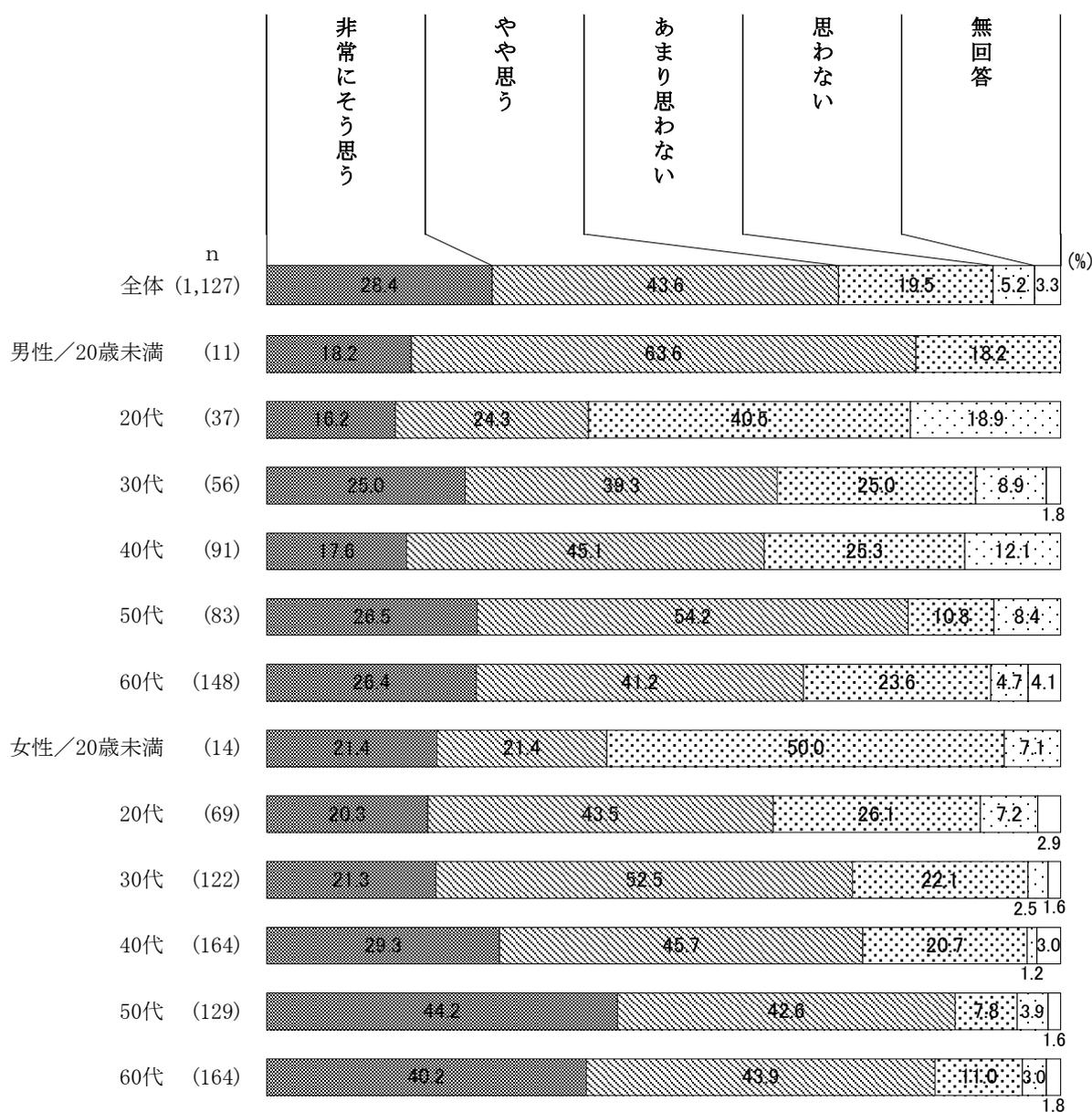
女性に対する犯罪を助長する恐れがある



性年代別では、男性の20～30代、女性の20代で「非常にそう思う」「やや思う」が低く、「思わない」「あまり思わない」が男性で6割以上、女性で約5割と高くなっている。一方、男女ともに50～60代では「非常にそう思う」「やや思う」が高く、特に女性で7割以上となっている。

性年代別

そのような表現を望まない人や、子どもの目に触れないような配慮が足りない

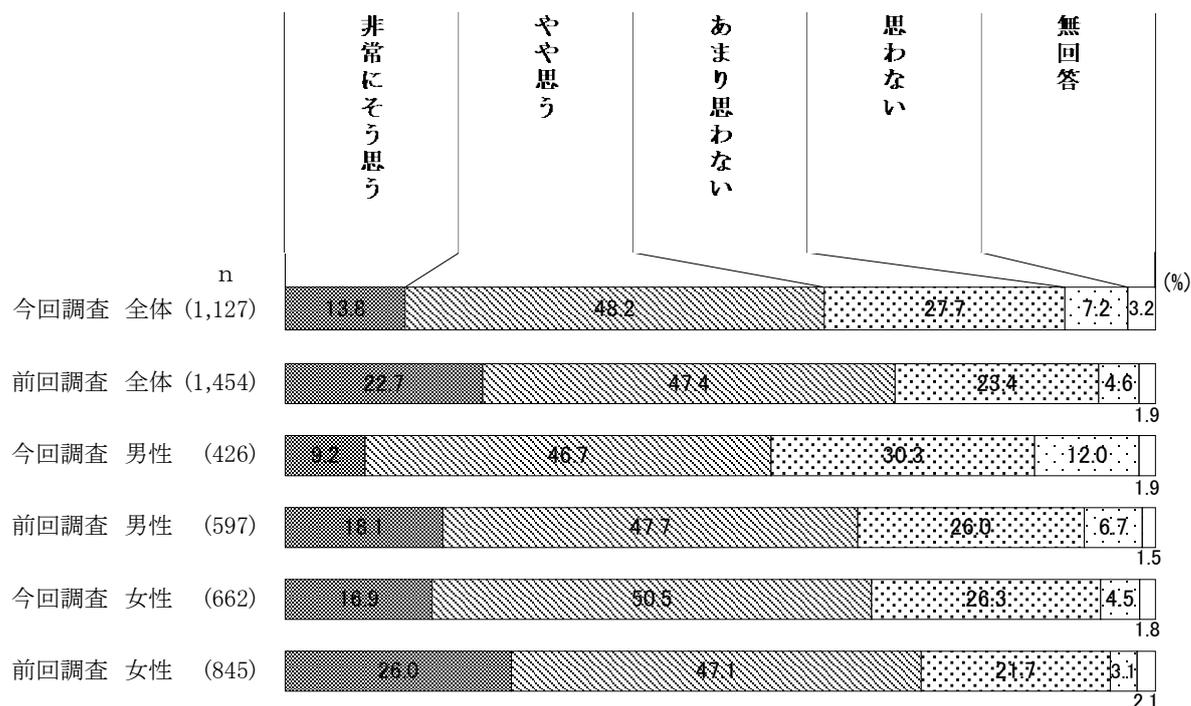


性年代別では、男性20代で「非常にそう思う」「やや思う」が低く、「思わない」「あまり思わない」は男性20代で59.4%と高くなっている。一方、男性の50代、女性50～60代では「非常にそう思う」「やや思う」が8割以上と高くなっている。

第2章 調査結果の詳細

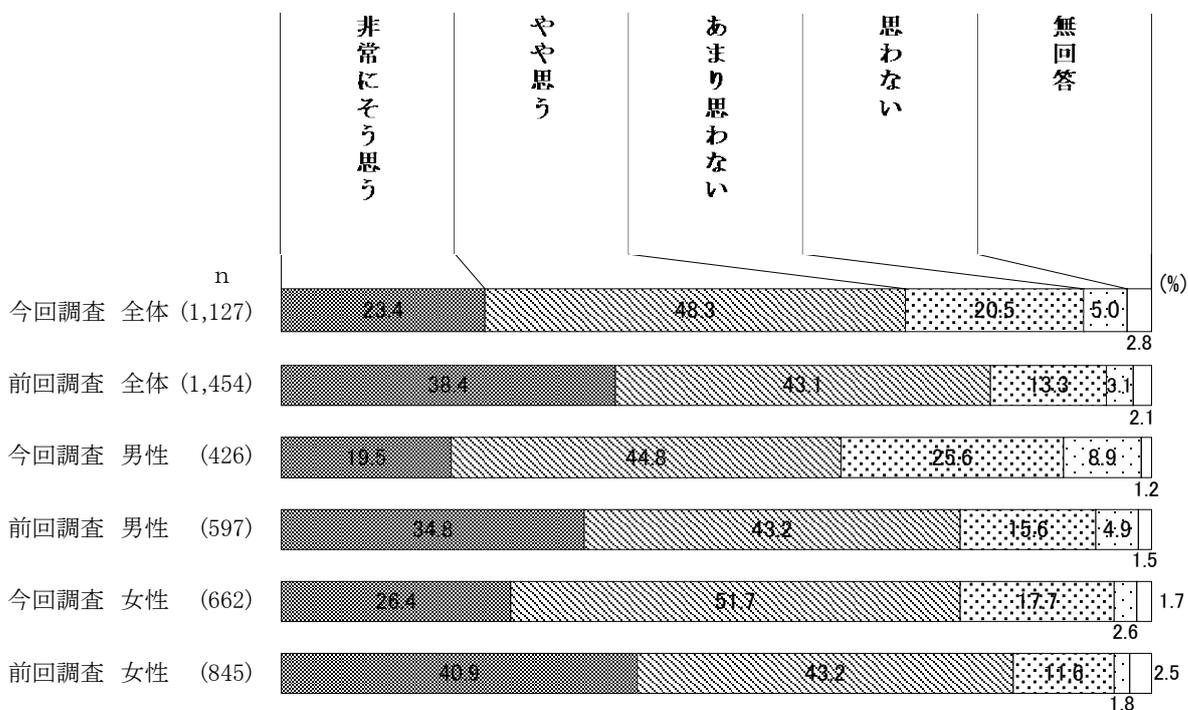
経年比較

女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ



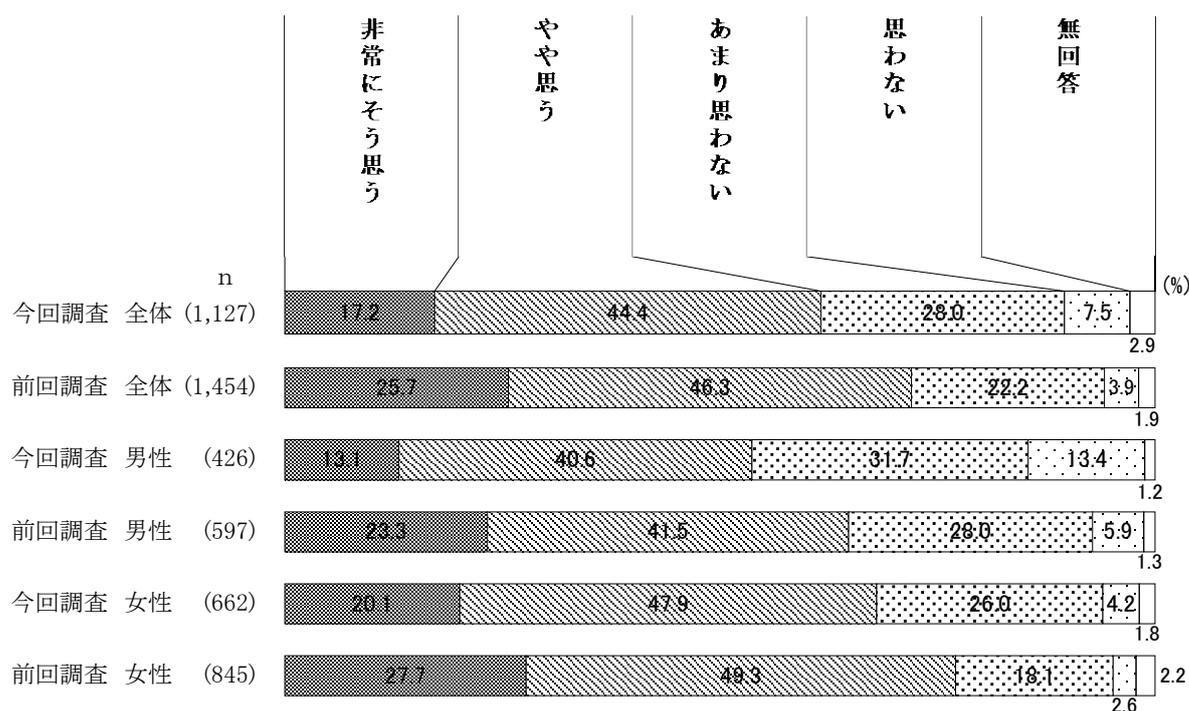
前回調査と比較すると、全体では「非常にそう思う」「やや思う」は8.1ポイント減少しており、男性で9.9ポイント、女性で5.7ポイントの減少となっている。

社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている



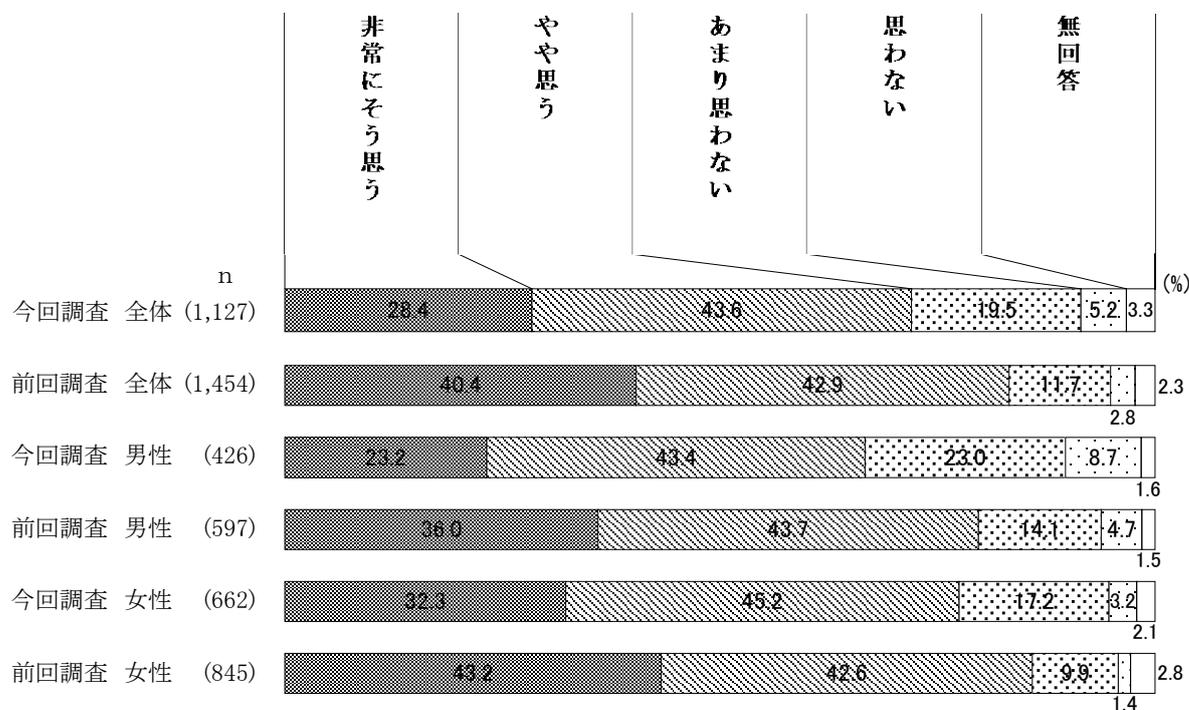
前回調査と比較すると、全体では「非常にそう思う」「やや思う」は9.8ポイント減少しており、男性で13.7ポイント、女性で6.0ポイントの減少となっている。

女性に対する犯罪を助長する恐れがある



前回調査と比較すると、全体では「非常にそう思う」「やや思う」は10.4ポイント減少しており、男性で11.1ポイント、女性で9.0ポイントの減少となっている。

そのような表現を望まない人や、子どもの目に触れないような配慮が足りない



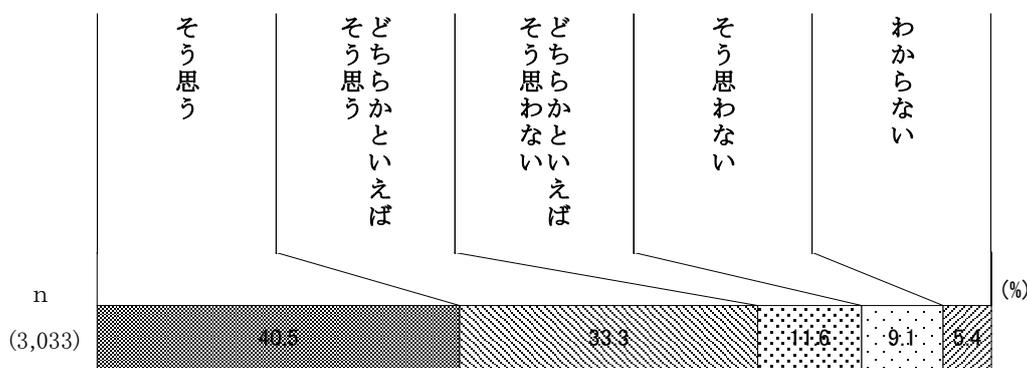
前回調査と比較すると、全体では「非常にそう思う」「やや思う」は11.3ポイント減少しており、男性で13.1ポイント、女性で8.3ポイントの減少となっている。

第2章 調査結果の詳細

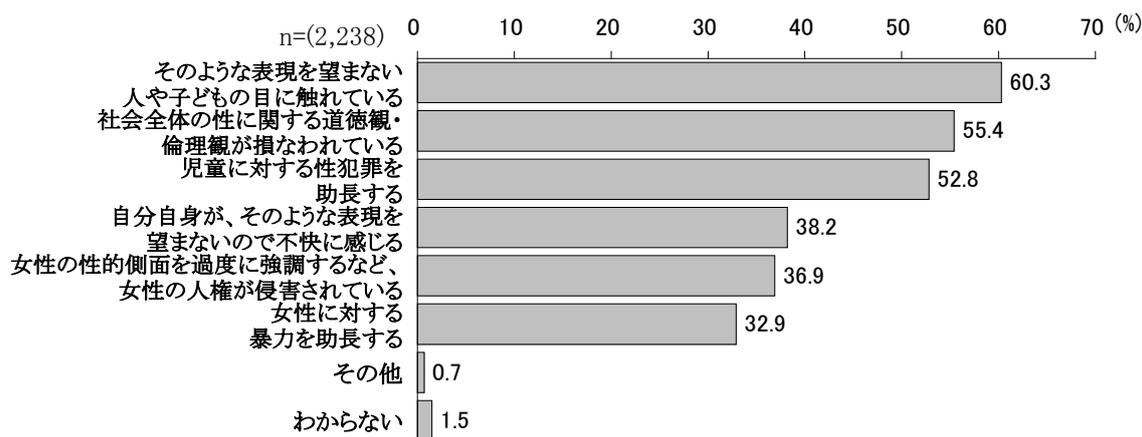
【参考】国の調査結果

メディアにおける性・暴力表現に対する考え方

(テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピュータゲームなどのメディアにおける性・暴力表現について、問題があると思うか)



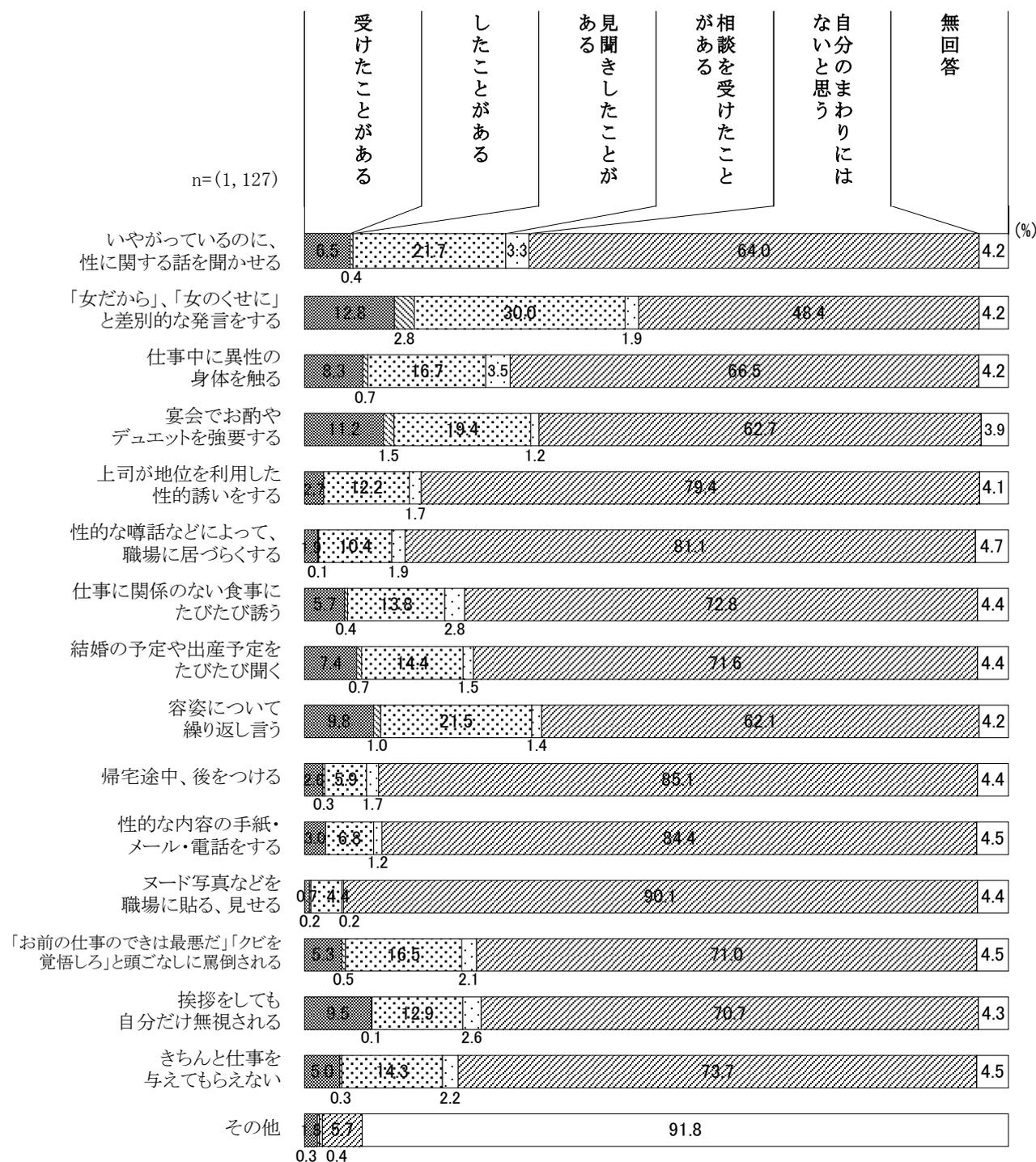
メディアにおける性・暴力表現による問題点



国（内閣府）の調査において、テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピュータゲームなどのメディアにおける性・暴力表現について、問題点があるかとたずねたところ、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は全体で73.8%となっている。また、具体的な問題点としては、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れている」が60.3%で最も高く、次いで「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」が55.4%、「児童に対する性犯罪を助長する」が52.8%となっている。

(2) セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの経験

Q18 あなたは職場・地域・学校などで、セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントを受けたり、あるいはしたり、身近で見聞きしたことがありますか。(1)～(15)の各項目について1から5のうち1つずつ選び、○をお付けください。また、その他の行為についてご経験がありましたら、(16)の欄にご記入ください。

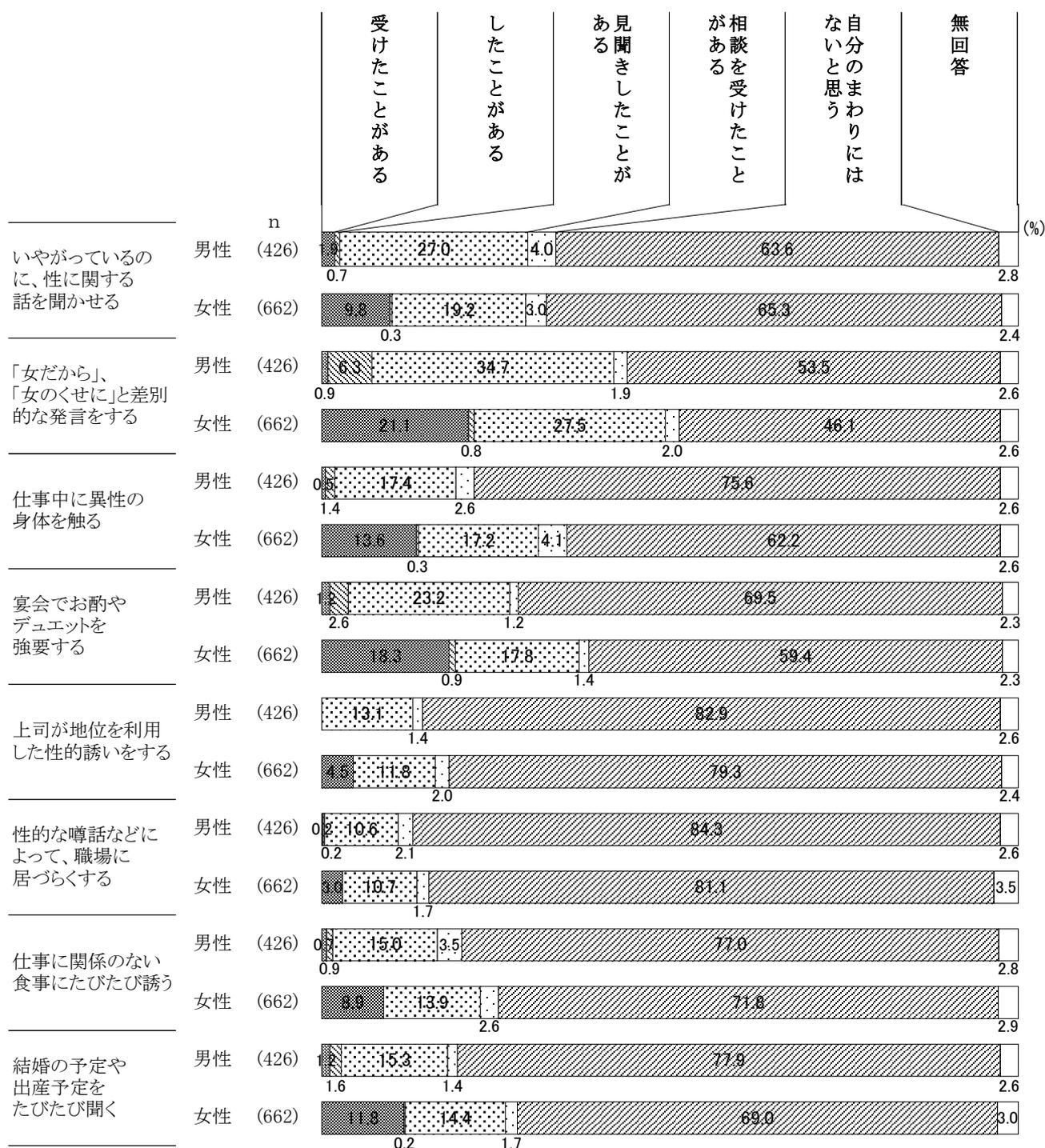


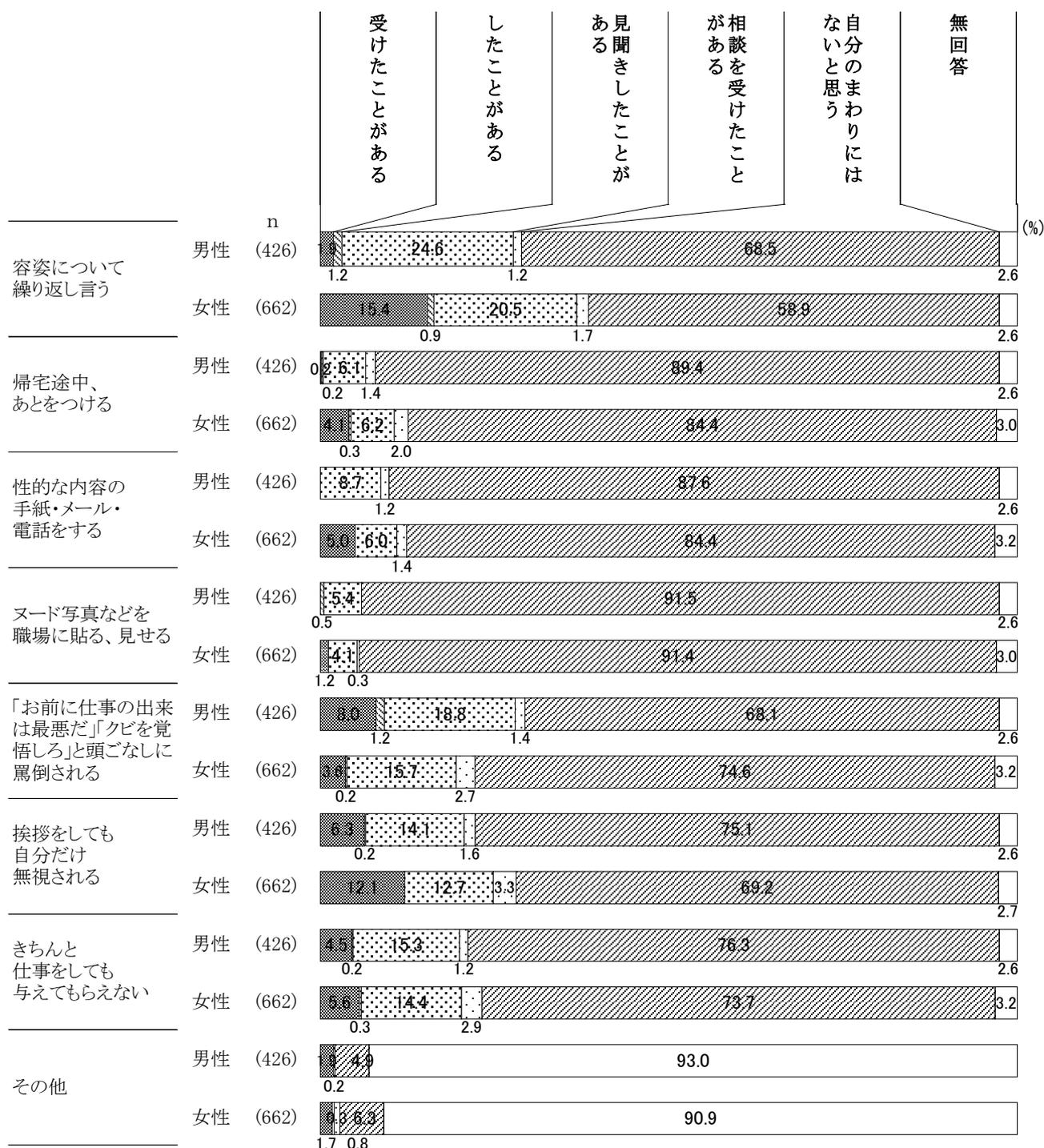
セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの経験については、全体では、「自分のまわりにはないと思う」が『その他』以外の項目では最も高くなっており、特に『ヌード写真などを職場に貼

第2章 調査結果の詳細

る、見せる』で90.1%、『帰宅途中、後をつける』で85.1%、『性的な内容の手紙・メール・電話をする』で84.4%、『性的な噂話などによって、職場に居づらくする』で81.1%となっている。

一方、具体的な経験としては、「受けたことがある」は、『「女だから」、「女のくせに」と差別的な発言をする』で12.8%、『宴会でお酌やデュエットを強要する』で11.2%、『容姿について繰り返し言う』で9.8%、『挨拶をしても自分だけ無視される』で9.5%、「見聞きしたことがある」は、『「女だから」、「女のくせに」と差別的な発言をする』で30.0%、『いやがっているのに、性に関する話を聞かせる』で21.7%、『容姿について繰り返し言う』で21.5%、『宴会でお酌やデュエットを強要する』で19.4%となっている。



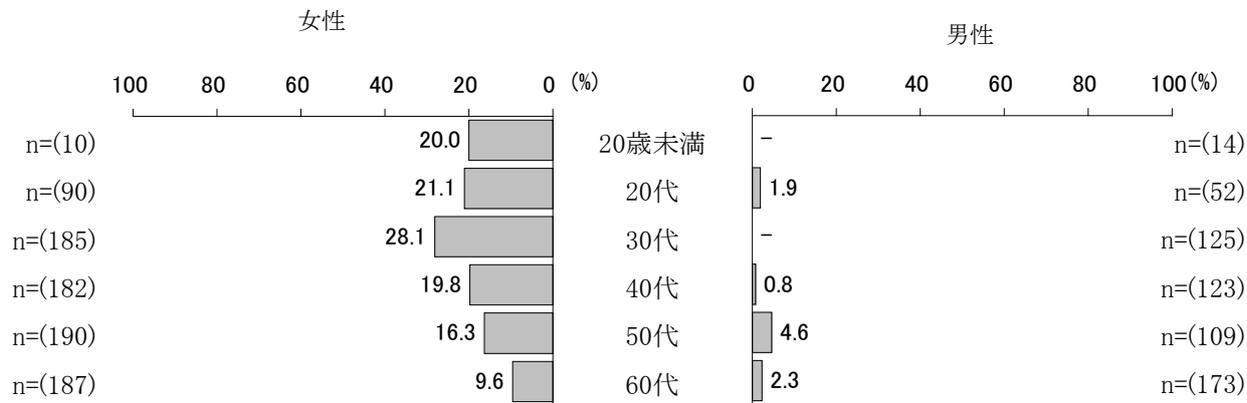


性別では、全体と同様、男女ともに「自分のまわりにはないと思う」が『その他』以外の項目で最も高くなっている。一方、具体的な経験としては、「受けたことがある」は、女性では『「女だから」、「女のくせに」と差別的な発言をする』で21.1%、『宴会でお酌やデュエットを強要する』で18.3%、『容姿について繰り返す言う』で15.4%、『仕事に異性の身体を触る』で13.6%、『結婚の予定や出産予定をたびたび聞く』で11.8%となっており、男性よりも10ポイント以上高くなっている。また、『挨拶をしても自分だけ無視される』は女性で12.1%、男性で6.3%と男女ともに高い。「見聞きしたことがある」は、『「女だから」、「女のくせに」と差別的な発言をする』で男性34.7%、女性27.5%、『いやがっているのに、性に関する話を聞かせる』で男性27.0%、女性19.2%、『宴会でお酌やデュエットを強要する』で男性23.2%、女性17.8%と、それぞれ男性の方が5ポイント以上高い。

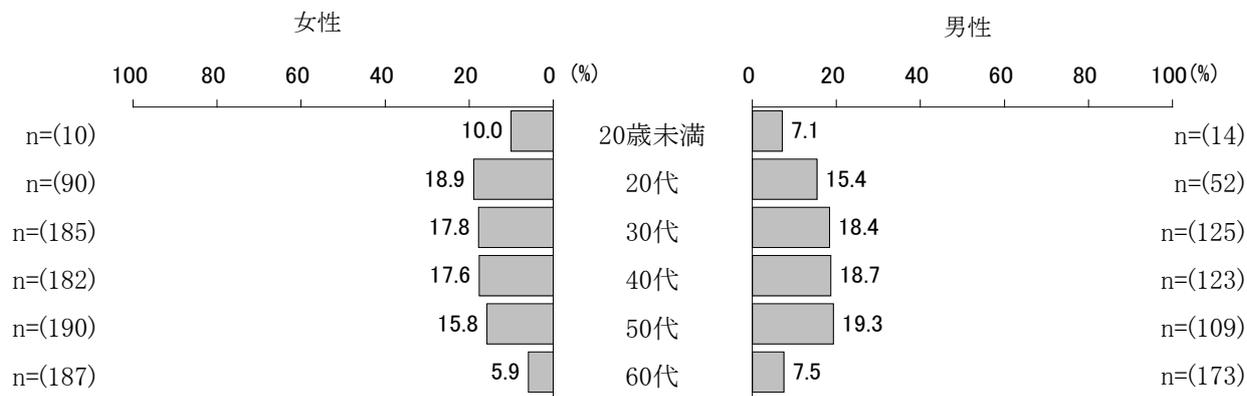
第2章 調査結果の詳細

【参考】 前回調査の結果

セクハラを受けた経験



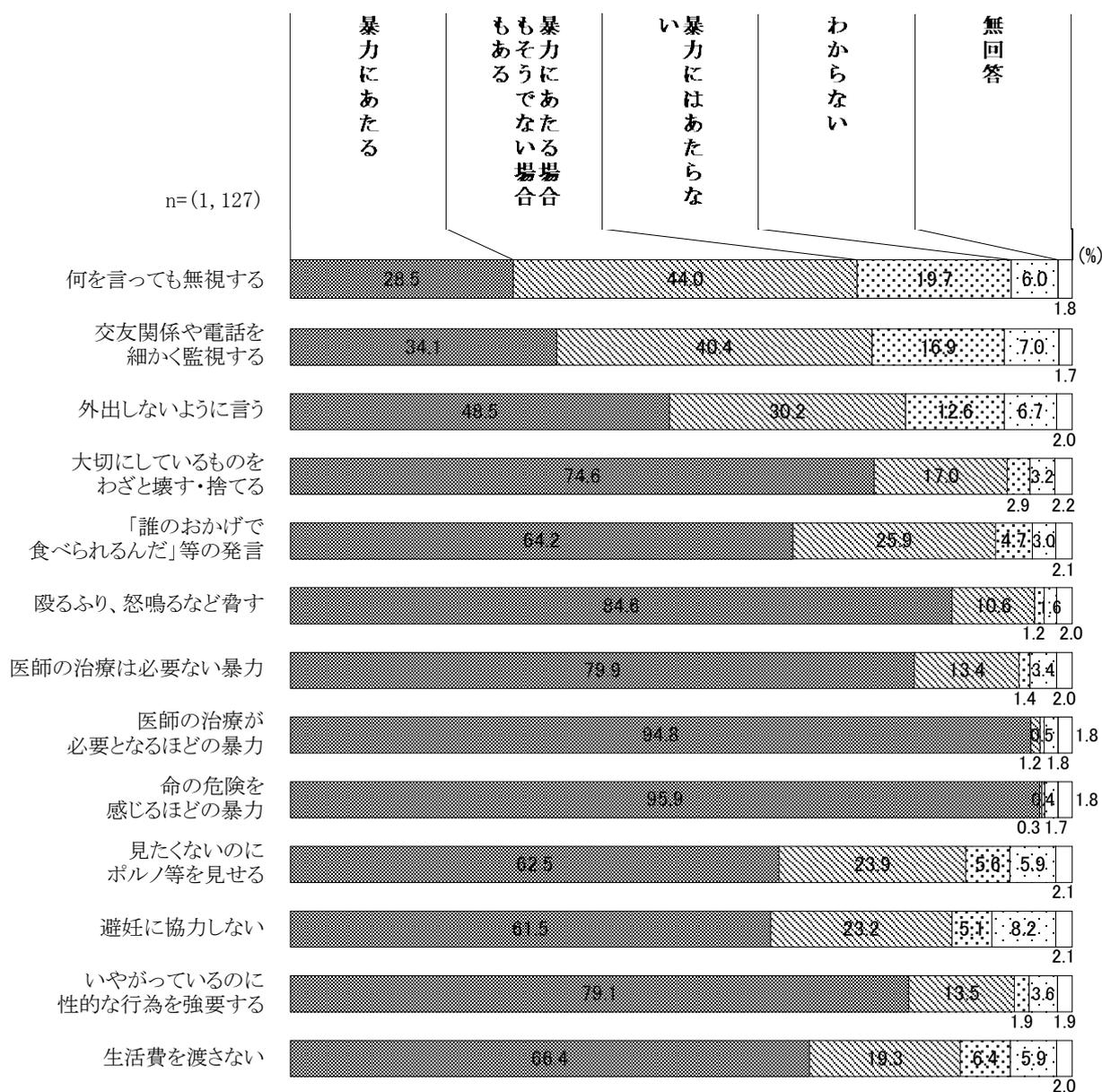
パワハラを受けた経験



前回調査では、セクハラを受けた経験は、女性の20～40代で高く、特に30代で28.1%となっている。パワハラを受けた経験は、男女ともに20～50代で1割台となっている。

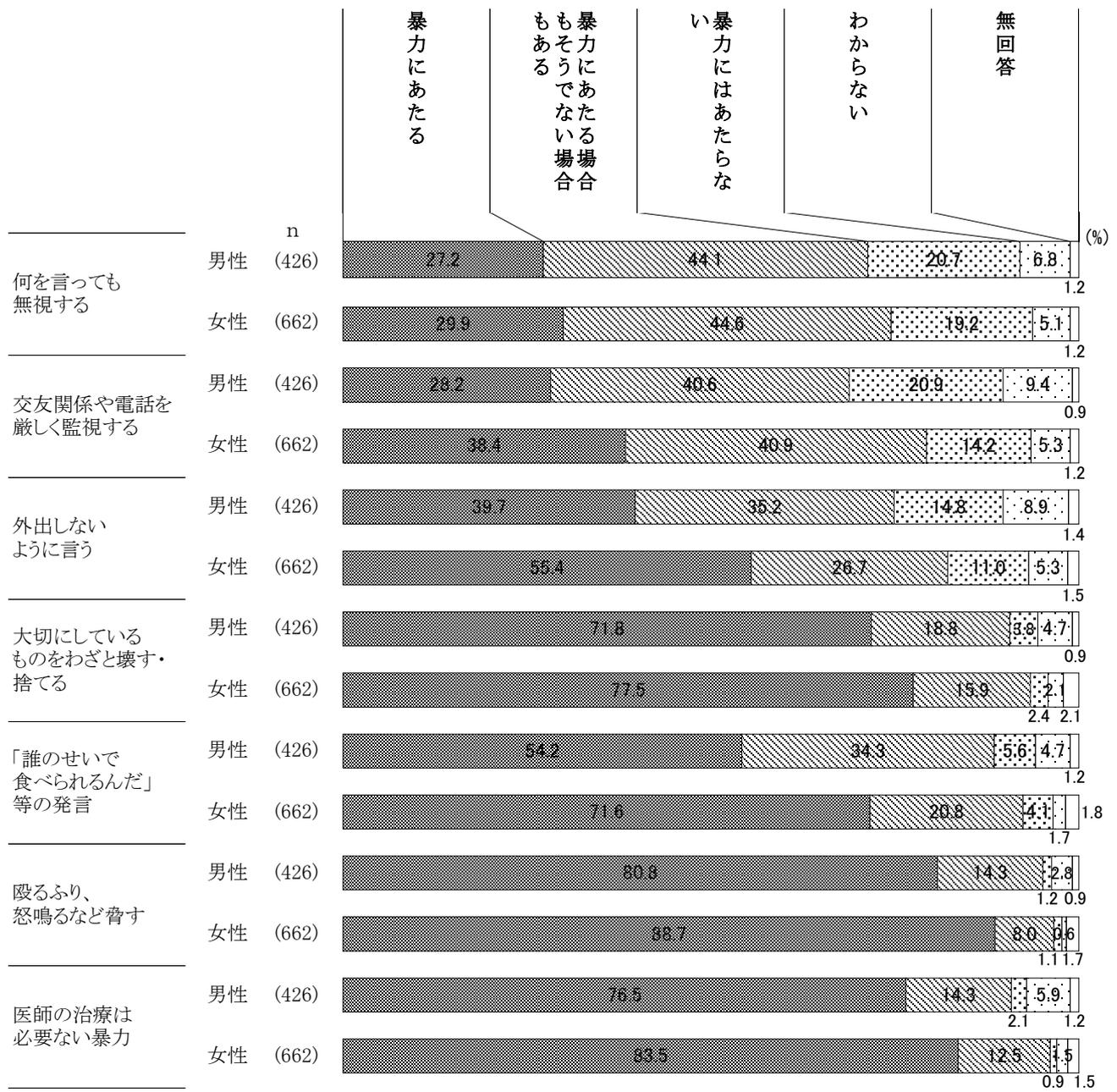
(3) 夫婦間で暴力だと思われることについて

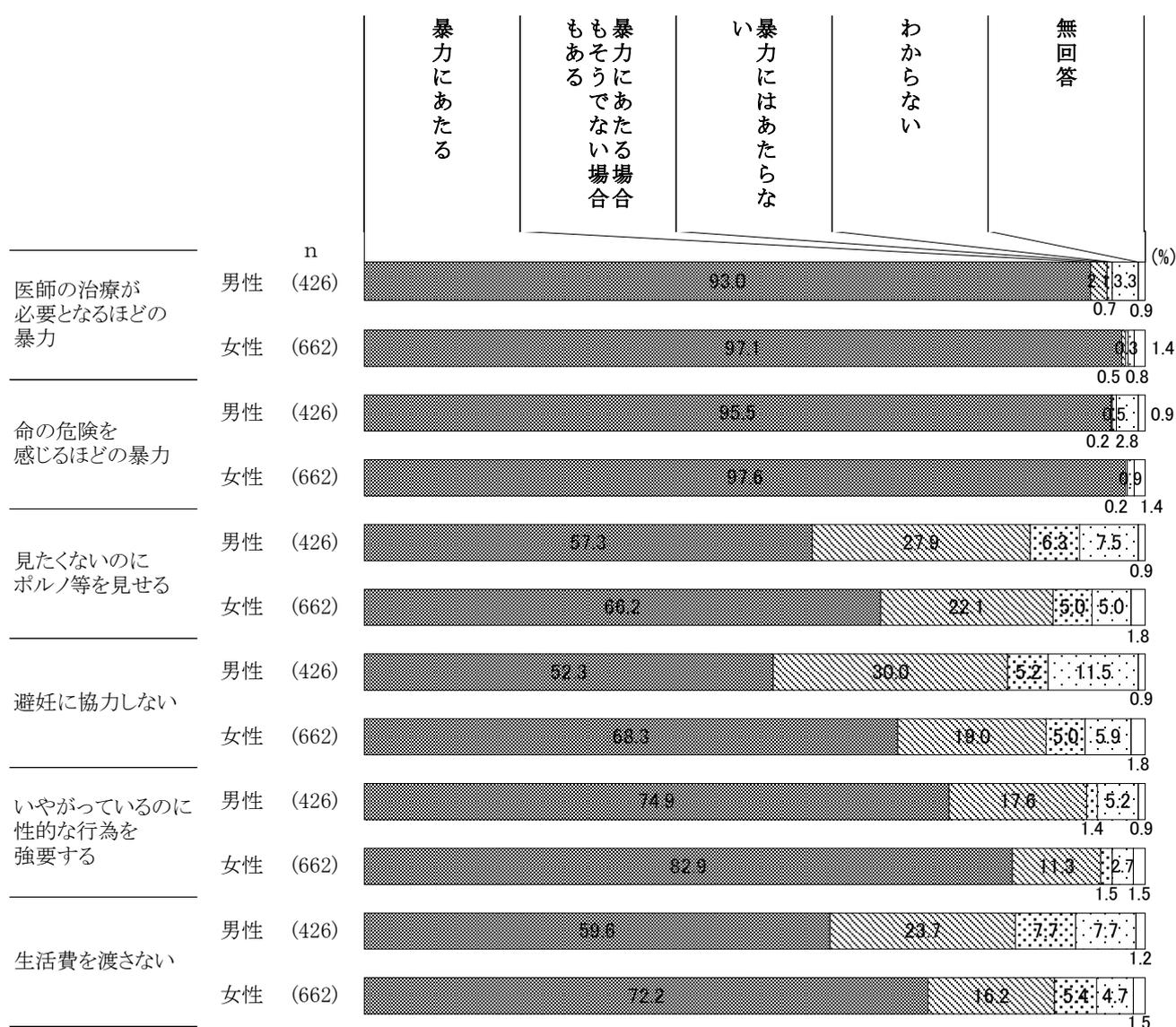
Q19 あなたは、次のようなことが夫婦の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。
 (1)～(13)の各項目について1から4のうちあなたの考えに近い番号を1つずつ選び、○をお付けください。



夫婦間で暴力だと思われることについては、全体では、「暴力にあたる」「暴力にあたる場合もある」が、すべての項目で7割以上を占めており、特に「暴力にあたる」は『命の危険を感じるほどの暴力』で95.9%、『医師の治療が必要となるほどの暴力』で94.8%となっている。一方、「暴力にはあたらな」は『何を言っても無視する』で19.7%、『交友関係や電話を細かく監視する』で16.9%、『外出しないように言う』で12.6%と高くなっている。

第2章 調査結果の詳細

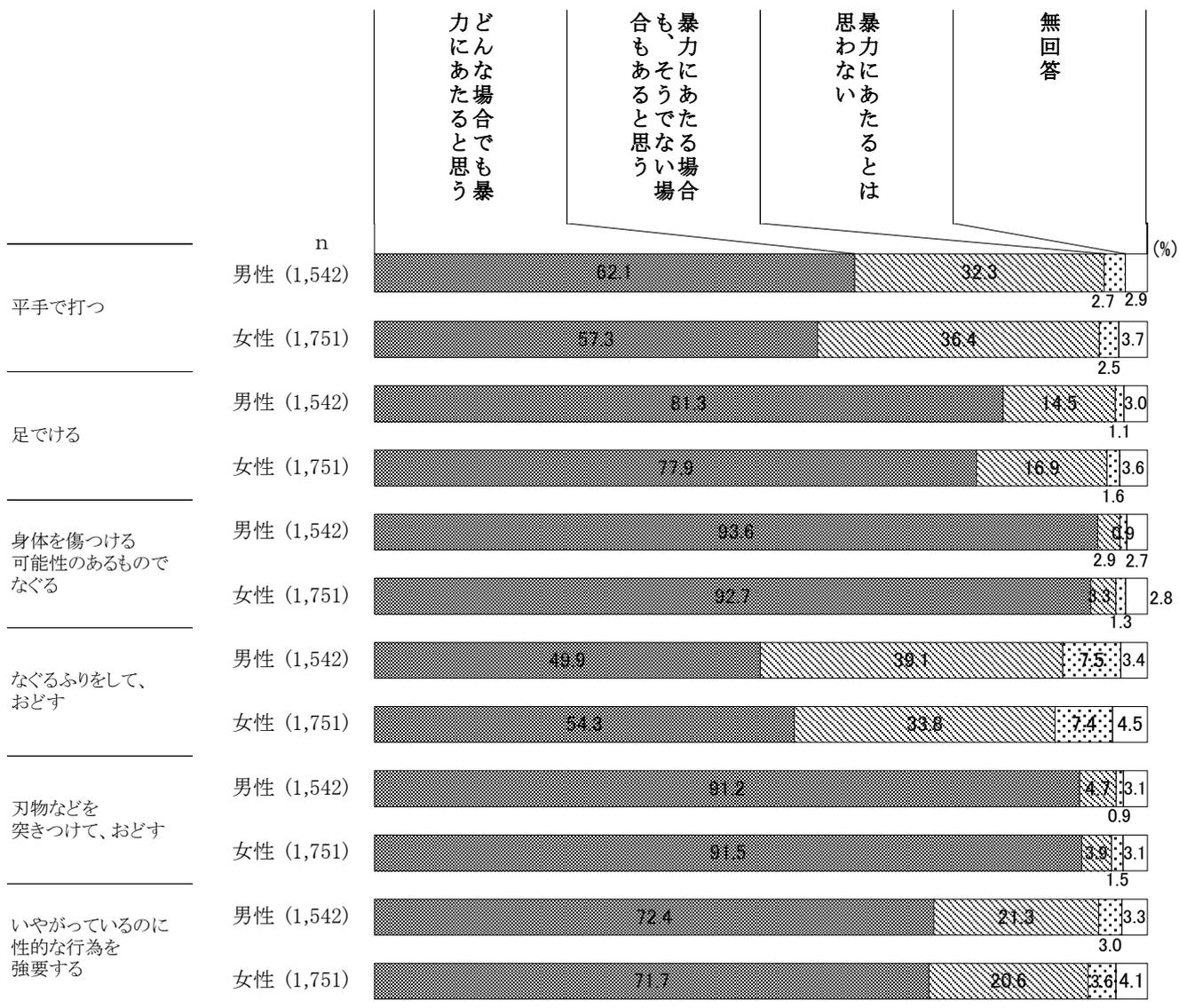


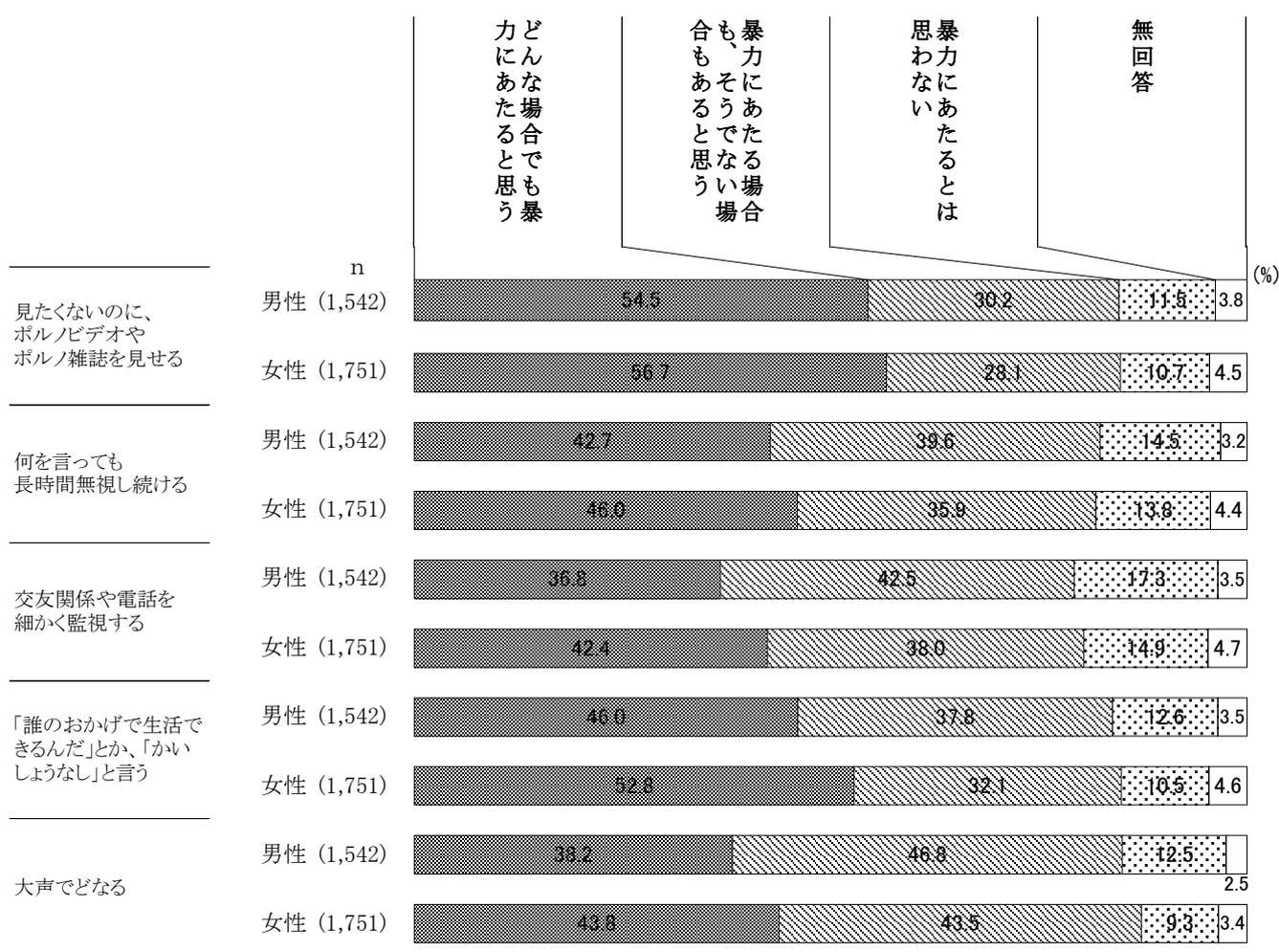


性別では、全体と同様、「暴力にあたる」「暴力にあたる場合もある」が、すべての項目で男女ともに7割以上を占めているが、「暴力にあたる」は女性の方が男性よりも高く、特に『「誰のおかげで食べられるんだ」等の発言』で女性71.6%、男性54.2%、『避妊に協力しない』で女性68.3%、男性52.3%、『外出しないように言う』で女性55.4%、男性39.7%で15ポイント以上高くなっている。一方、「暴力にはあたらない」は、『何を言っても無視する』で男性20.7%、女性19.2%で、男女ともに高く、『交友関係や電話を細かく監視する』で男性20.9%、女性14.2%と、男性の方が女性より6.7ポイント高くなっている。

第2章 調査結果の詳細

【参考】国の調査結果

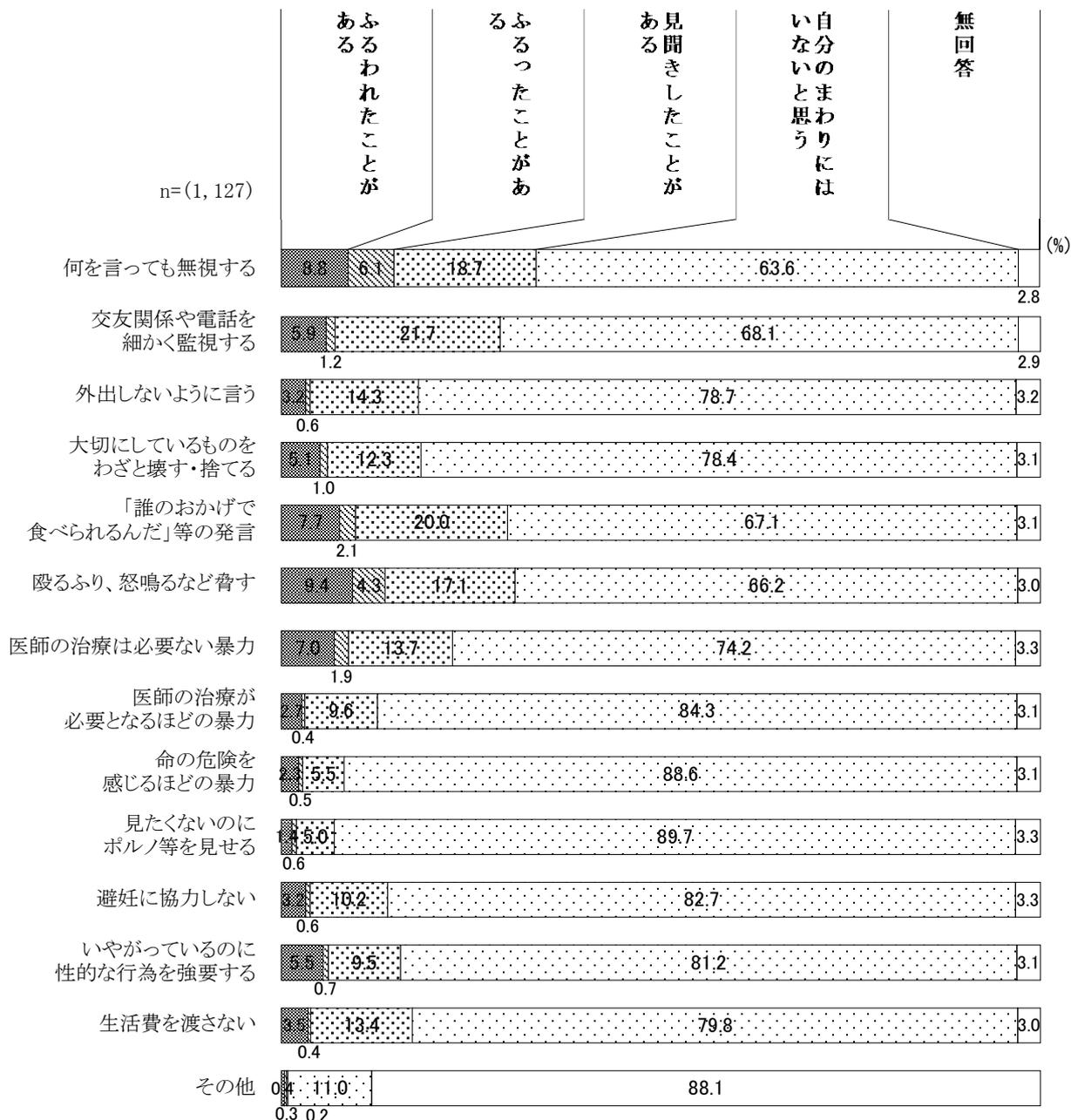




国（内閣府）の調査では、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が、すべての項目で男女ともに7割以上を占めており、特に『身体を傷つける可能性のある物でなぐる』『刃物などを突きつけて、おどす』は「どんな場合でも暴力にあたると思う」が9割台と高くなっている。一方、「暴力にあたるとは思わない」は、『交友関係や電話を細かく監視する』で男性17.3%、女性14.9%で、『何を言っても長期間無視し続ける』で男性14.5%、女性13.8%とやや高くなっている。

(4) 配偶者・恋人間で暴力を振るった、または振るわれた経験と暴力の内容

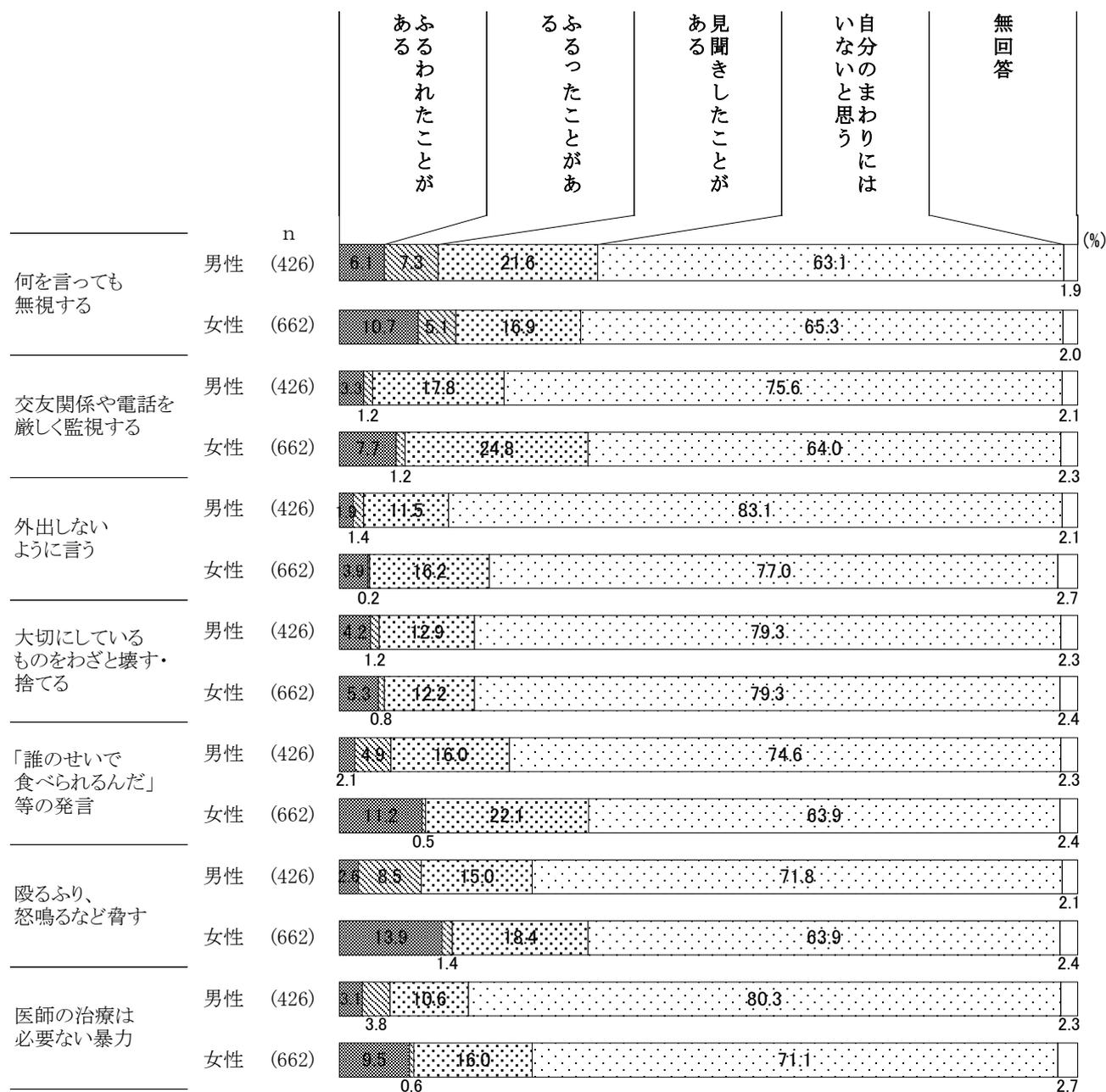
Q20 平成13年4月に「配偶者暴力防止法」が制定され、平成20年に改正法が成立した後、平成25年6月に交際相手からの暴力についても法の適用対象とする改正法が成立しました。あなたは、配偶者・恋人から、次のような暴力を振るわれたり、あるいは配偶者・恋人に暴力を振るったり、身近で見聞きしたことはありますか。(1)～(14)の各項目について1から4のうち1つずつ選び、○をお付けください。



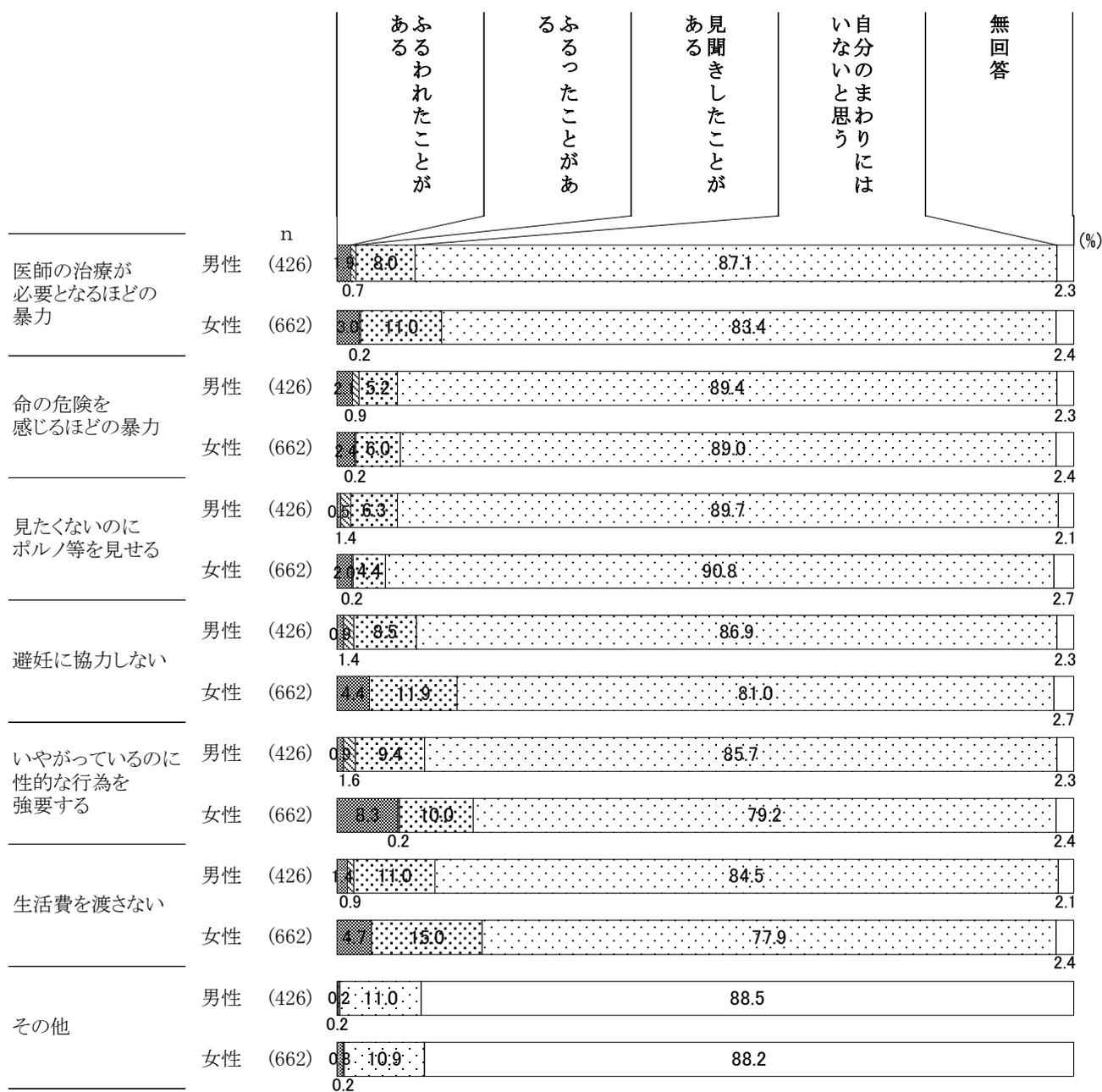
配偶者・恋人間で暴力を振るった、または振るわれた経験については、全体では、「自分のまわりにはないと思う」が『その他』以外の項目では最も高くなっており、特に『見たくないのにポルノ等を見せる』で89.7%、『命の危険を感じるほどの暴力』で88.6%、『医師の治療が必要となるほどの暴力』で84.3%、『避妊に協力しない』で82.7%、『いやがっているのに性的な行為を強要する』で

81.2%となっている。

一方、具体的な経験としては、「ふるわれたことがある」は、『殴るふり、怒鳴るなど脅す』で9.4%、『何を言っても無視する』で8.8%、『「誰のおかげで食べられるんだ」等の発言』で7.7%、『医師の治療は必要ないが暴力』で7.0%、「見聞きしたことがある」は、『交友関係や電話を細かく監視する』で21.7%、『「誰のおかげで食べられるんだ」等の発言』で20.0%、『何を言っても無視する』で18.7%、『殴るふり、怒鳴るなど脅す』で17.1%となっている。



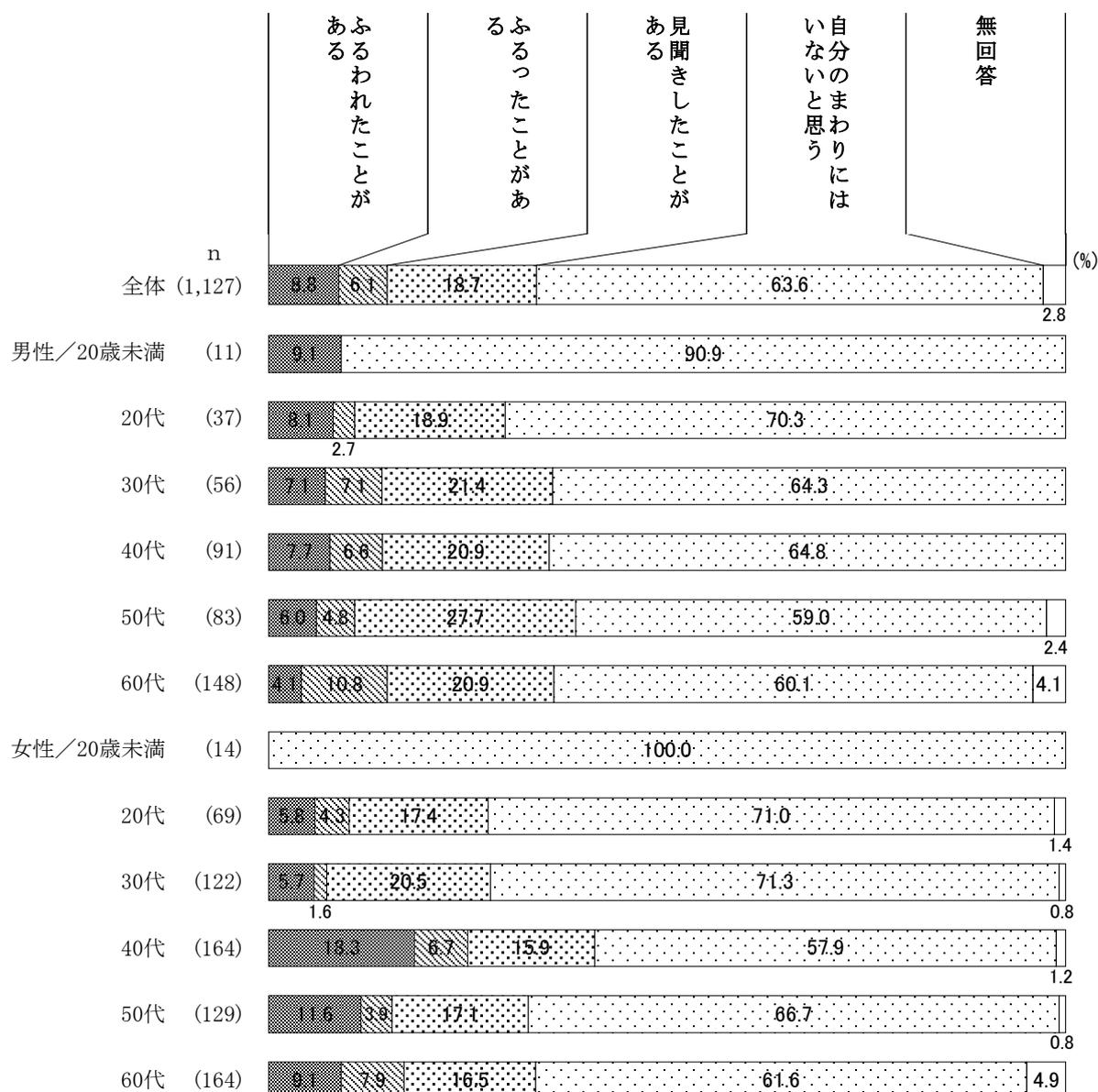
第2章 調査結果の詳細



性別では、全体と同様、男女ともに「自分のまわりにはないと思う」が『その他』以外の項目で最も高くなっている。一方、具体的な経験としては、「ふるわれたことがある」は、女性では『殴るふり、怒鳴るなど脅す』で13.9%、『「誰のおかげで食べられるんだ」等の発言』で11.2%、『医師の治療は必要ないが暴力』で9.5%、『いやがっているのに性的な行為を強要する』で8.3%、『交友関係や電話を細かく監視する』で7.7%となっており、男性よりも高くなっている。また、『何を言っても無視する』は女性で10.7%、男性で6.1%と男女ともに高い。「見聞きしたことがある」は、『「誰のおかげで食べられるんだ」等の発言』で男性16.0%、女性22.1%、『交友関係や電話を細かく監視する』で男性17.8%、女性24.8%と、それぞれ女性の方が男性よりも5ポイント以上高い。

性年代別

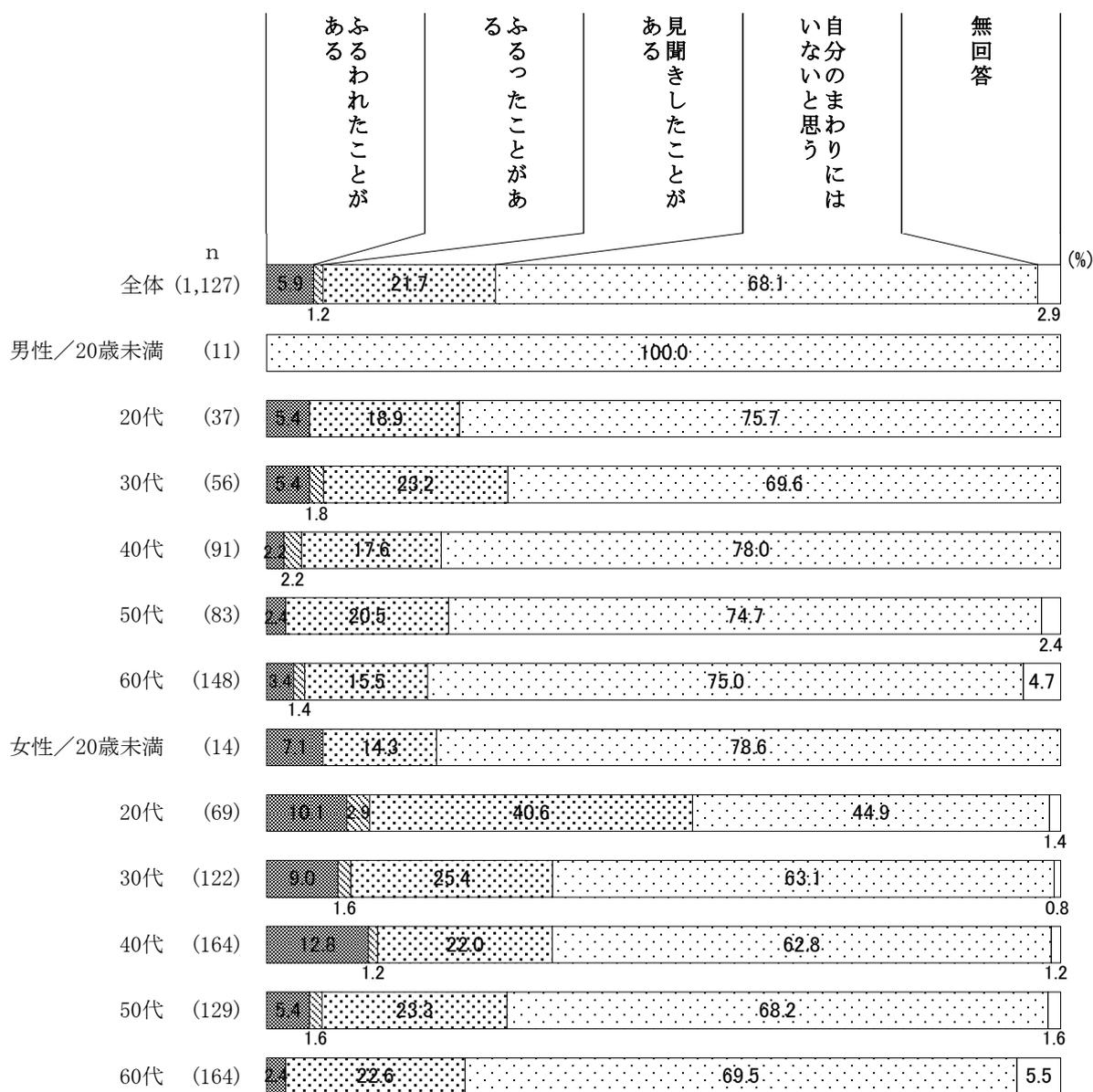
何を言っても無視する



性年代別では、男女ともにすべての年代で「自分のまわりにはないと思う」が最も高い。「ふるわれたことがある」は、女性の40～60代で男性より高く、40代で18.3%、50代で11.6%、60代で9.1%である。一方、「ふるったことがある」は男性の60代で10.8%である。また、「見聞きしたことがある」は男性では30～60代で2割以上、女性では30代で20.5%となっている。

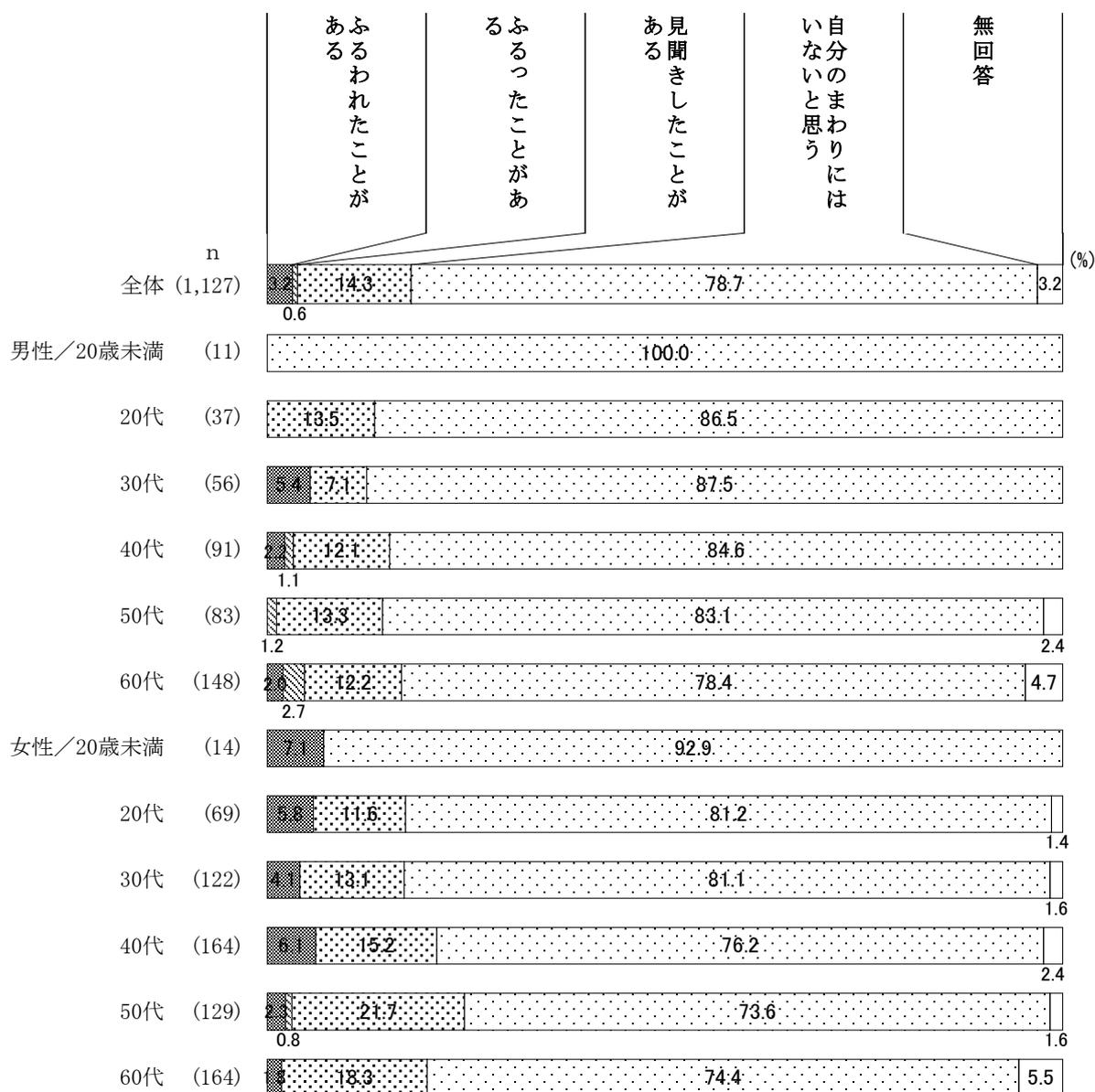
第2章 調査結果の詳細

交友関係や電話を細かく監視する



性年代別では、男女ともにすべての年代で「自分のまわりにはないと思う」が最も高い。「ふるわれたことがある」は、女性の20～40代で男性より高く、40代で12.8%、20代で10.1%、30代で9.0%である。また、「見聞きしたことがある」は女性の20～60代で2割を超えており、特に20代で40.6%となっている。

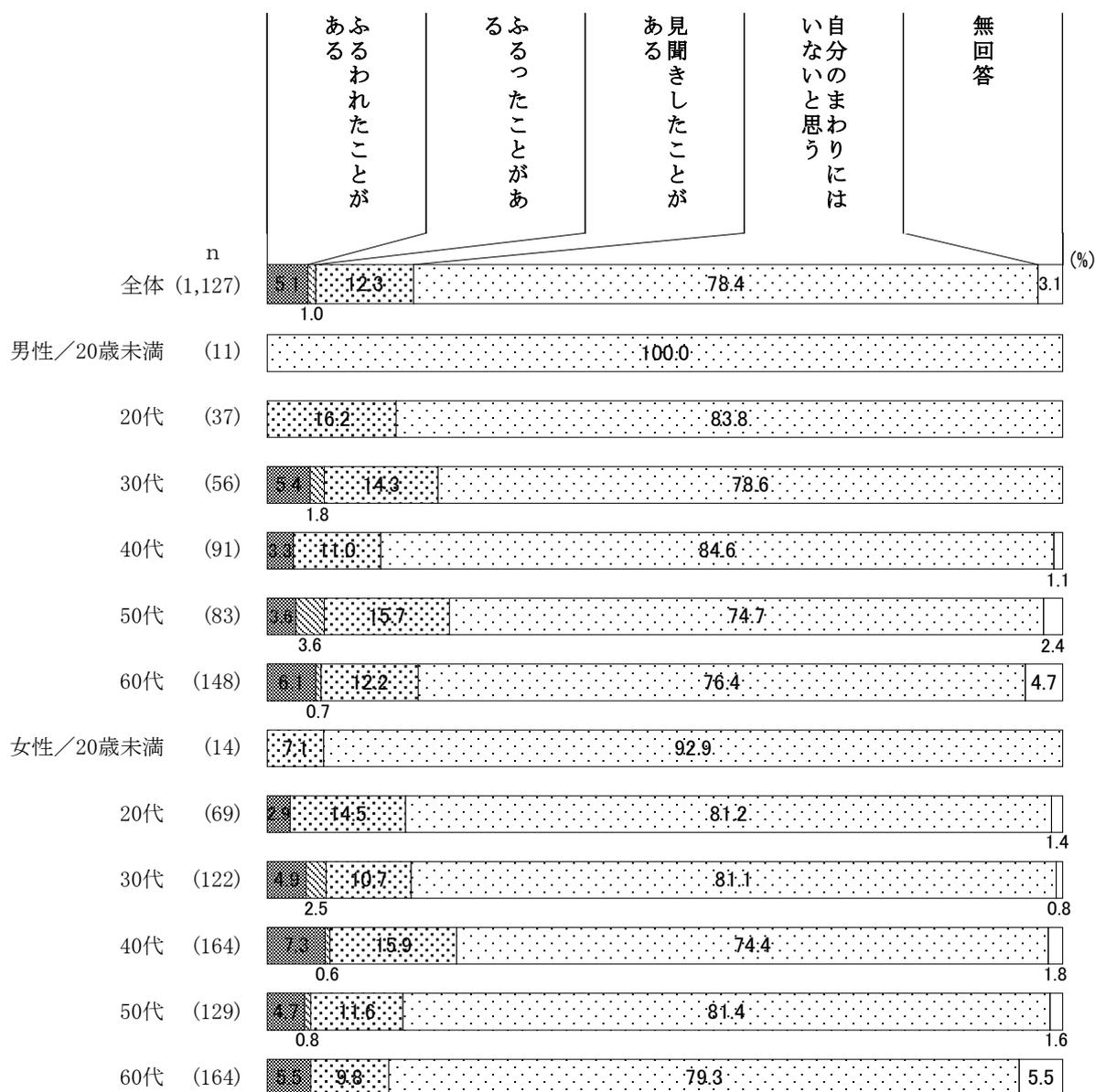
外出しないように言う



性年代別では、男女ともにすべての年代で「自分のまわりにはないと思う」が最も高い。「ふるわれたことがある」は、女性では40代で6.1%、20代で5.8%、男性では30代で5.4%である。また、「見聞きしたことがある」は女性では50代で21.7%、60代で18.3%、40代で15.2%となっている。

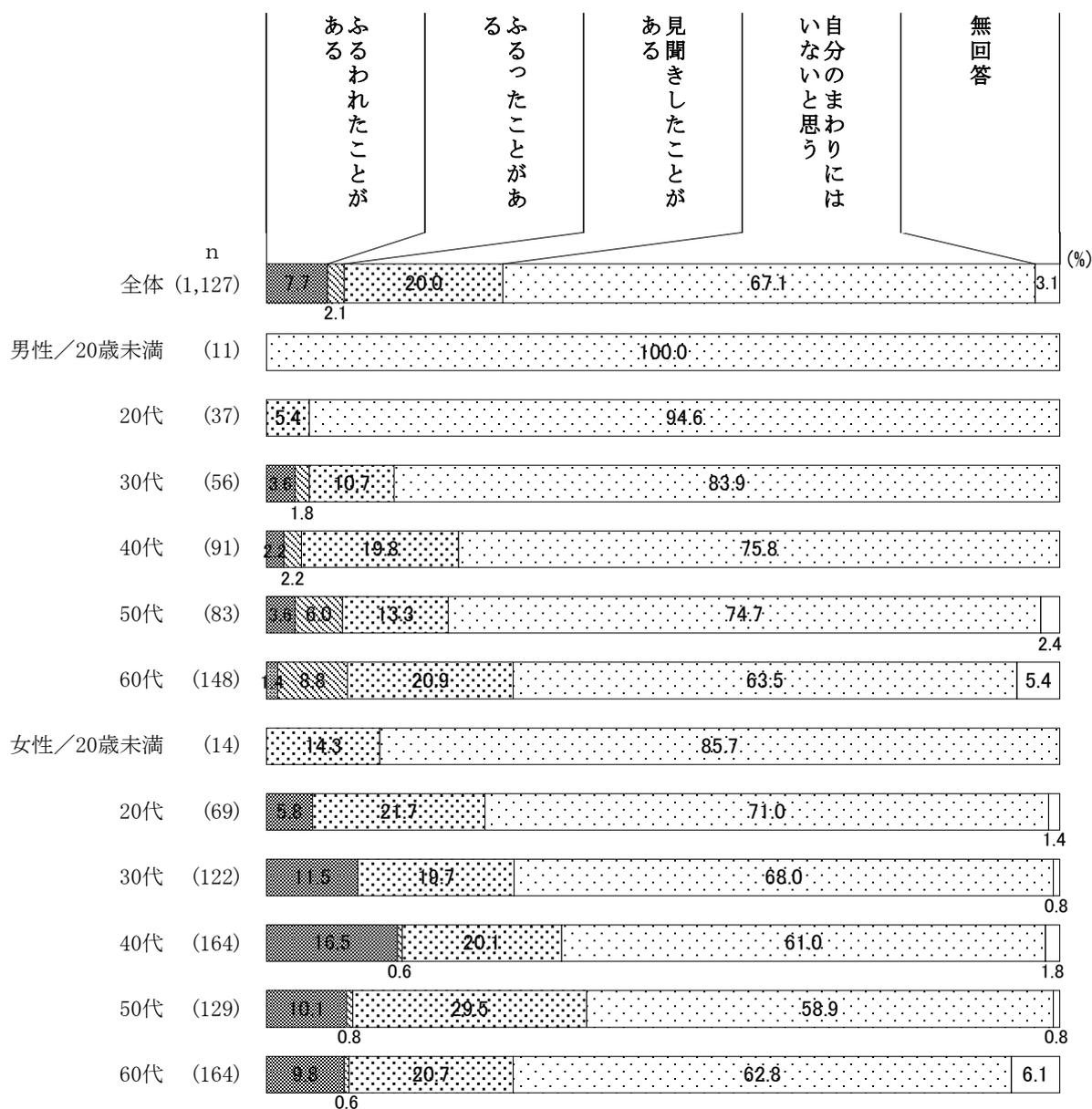
第2章 調査結果の詳細

大切にしているものをわざと壊す・捨てる



性年代別では、男女ともにすべての年代で「自分のまわりにはないと思う」が最も高い。「ふるわれたことがある」は、女性では40代で7.3%、男性では60代で6.1%である。また、「見聞きしたことがある」は男性では50代で15.7%、30代で14.3%、女性では40代で15.9%、20代で14.5%となっている。

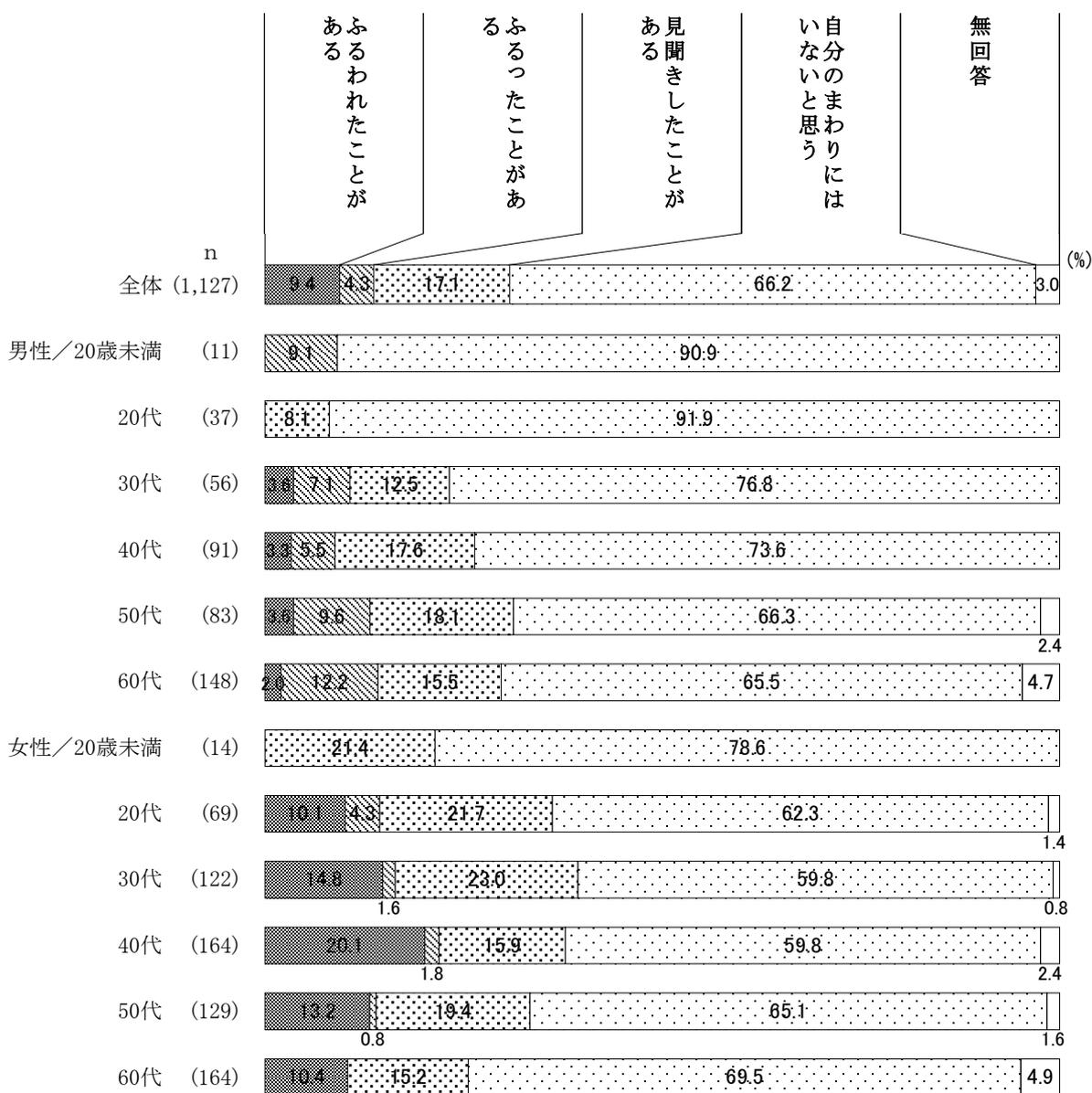
「誰のおかげで食べられるんだ」等の発言



性年代別では、男女ともにすべての年代で「自分のまわりにはないと思う」が最も高い。「ふるわれたことがある」は、女性の20～60代で男性よりも高く、40代で16.5%、30代で11.5%、50代で10.1%である。一方、「ふるったことがある」は男性の60代で8.8%、50代で6.0%である。また、「見聞きしたことがある」は女性の20～60代で高く、特に50代で29.5%となっている。

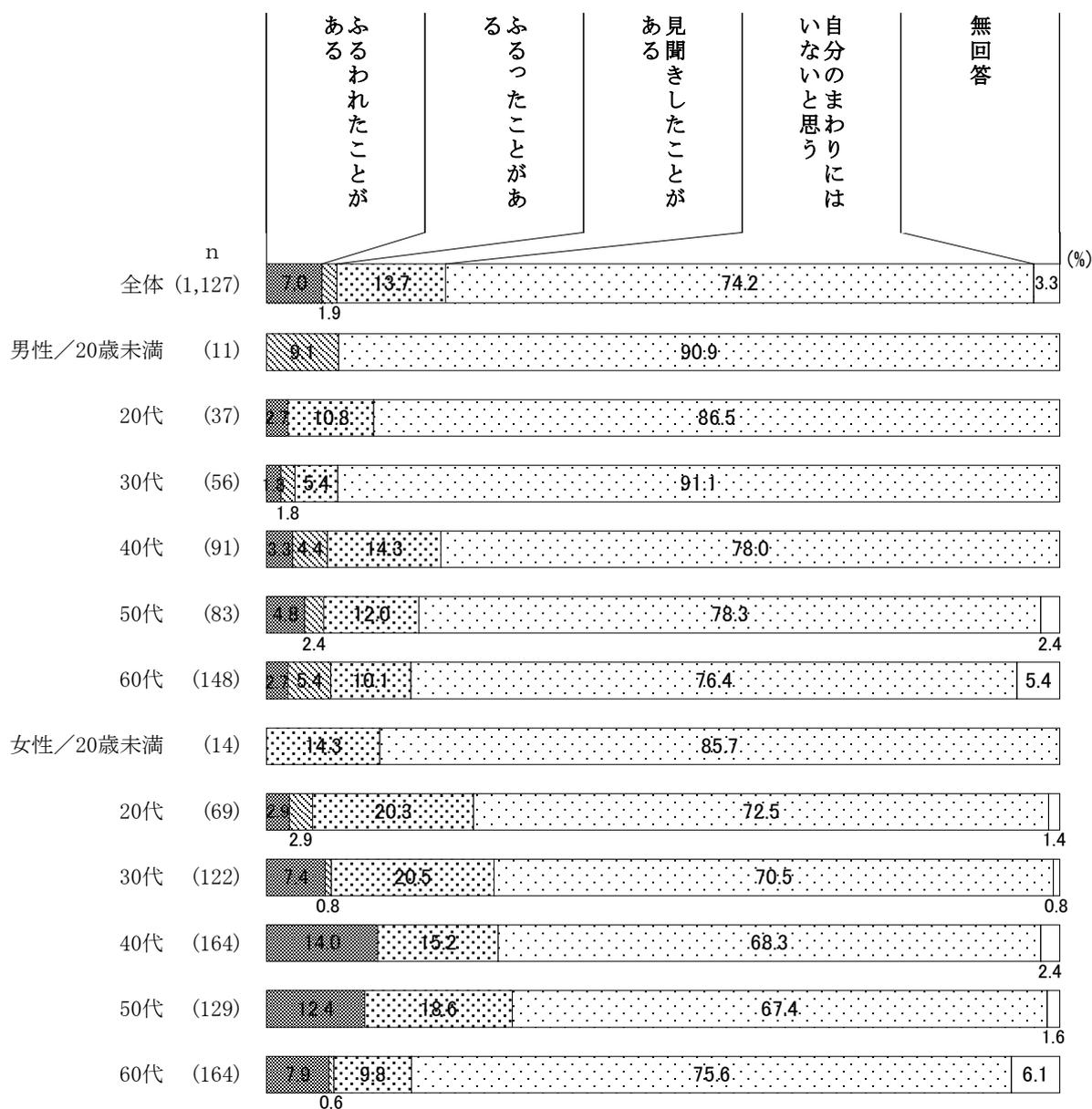
第2章 調査結果の詳細

殴るふり、怒鳴るなど脅す



性年代別では、男女ともにすべての年代で「自分のまわりにはないと思う」が最も高い。「ふるわれたことがある」は、女性の20～60代で男性よりも高く、40代で20.1%、30代で14.8%、50代で13.2%である。一方、「ふるったことがある」は男性の60代で12.2%、50代で9.6%である。また、「見聞きしたことがある」は女性の20～30代で2割台と高くなっている。

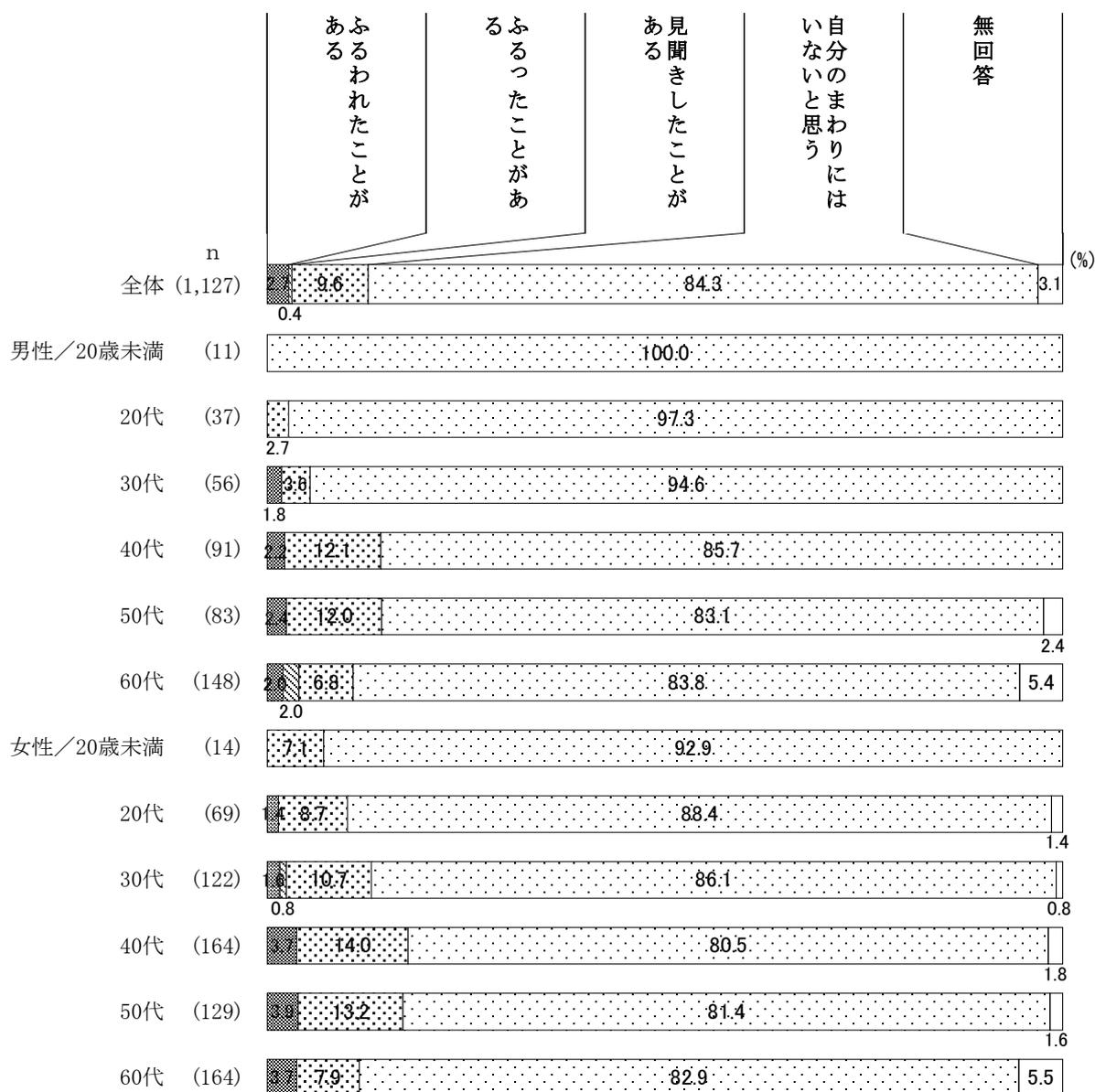
医師の治療は必要ない暴力



性年代別では、男女ともにすべての年代で「自分のまわりにはないと思う」が最も高い。「ふるわれたことがある」は、女性の30～60代で男性よりも高く、40代で14.0%、50代で12.4%である。一方、「ふるったことがある」は男性の60代で5.4%である。また、「見聞きしたことがある」は女性の20～30代で約2割と高くなっている。

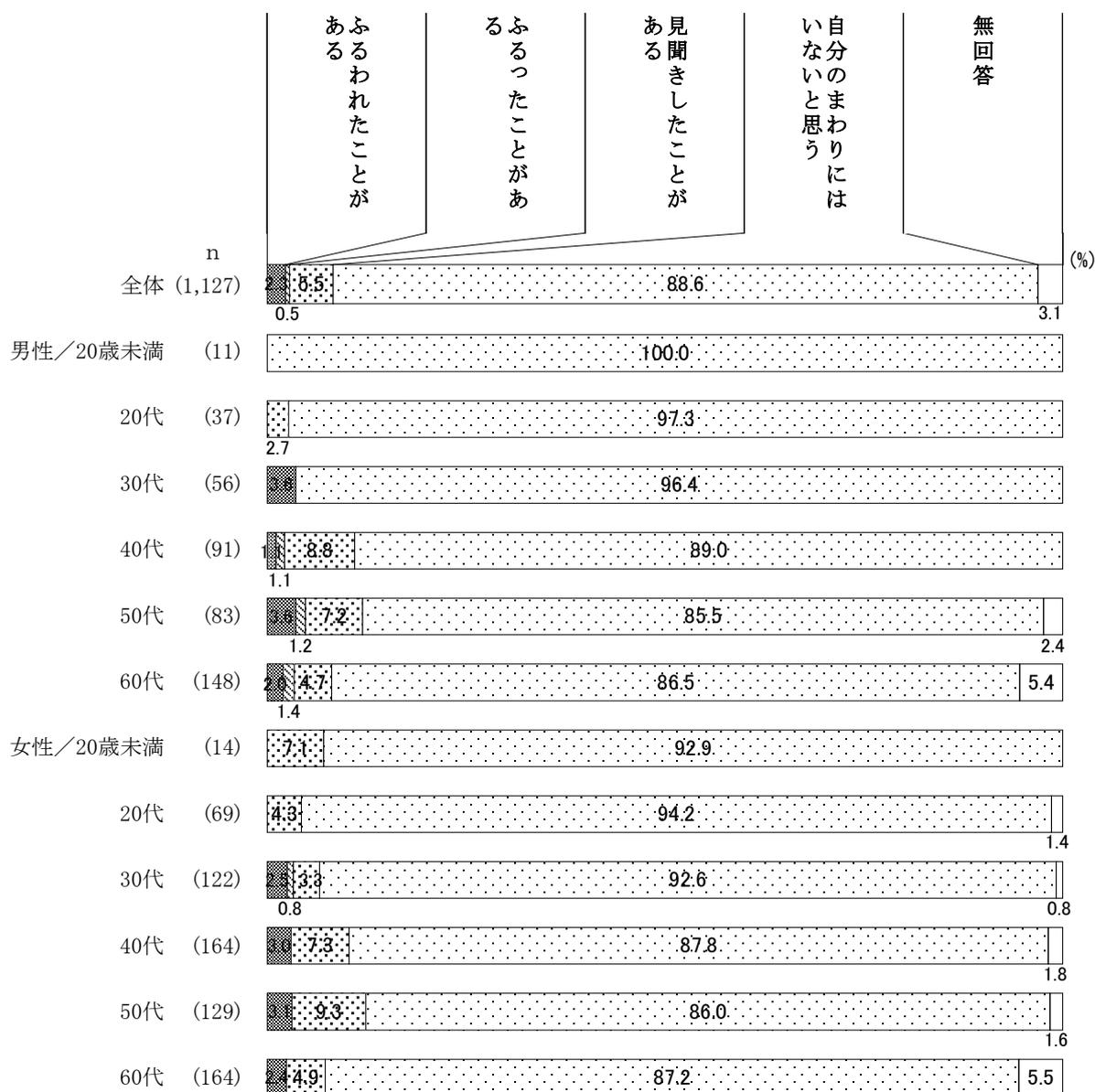
第2章 調査結果の詳細

医師の治療が必要になるほどの暴力



性年代別では、男女ともにすべての年代で「自分のまわりにはないと思う」が最も高い。「ふるわれたことがある」は、女性の50代で3.9%、40代と60代とともに3.7%である。また、「見聞きしたことがある」は男性の40～50代、女性の30～50代で1割台となっている。

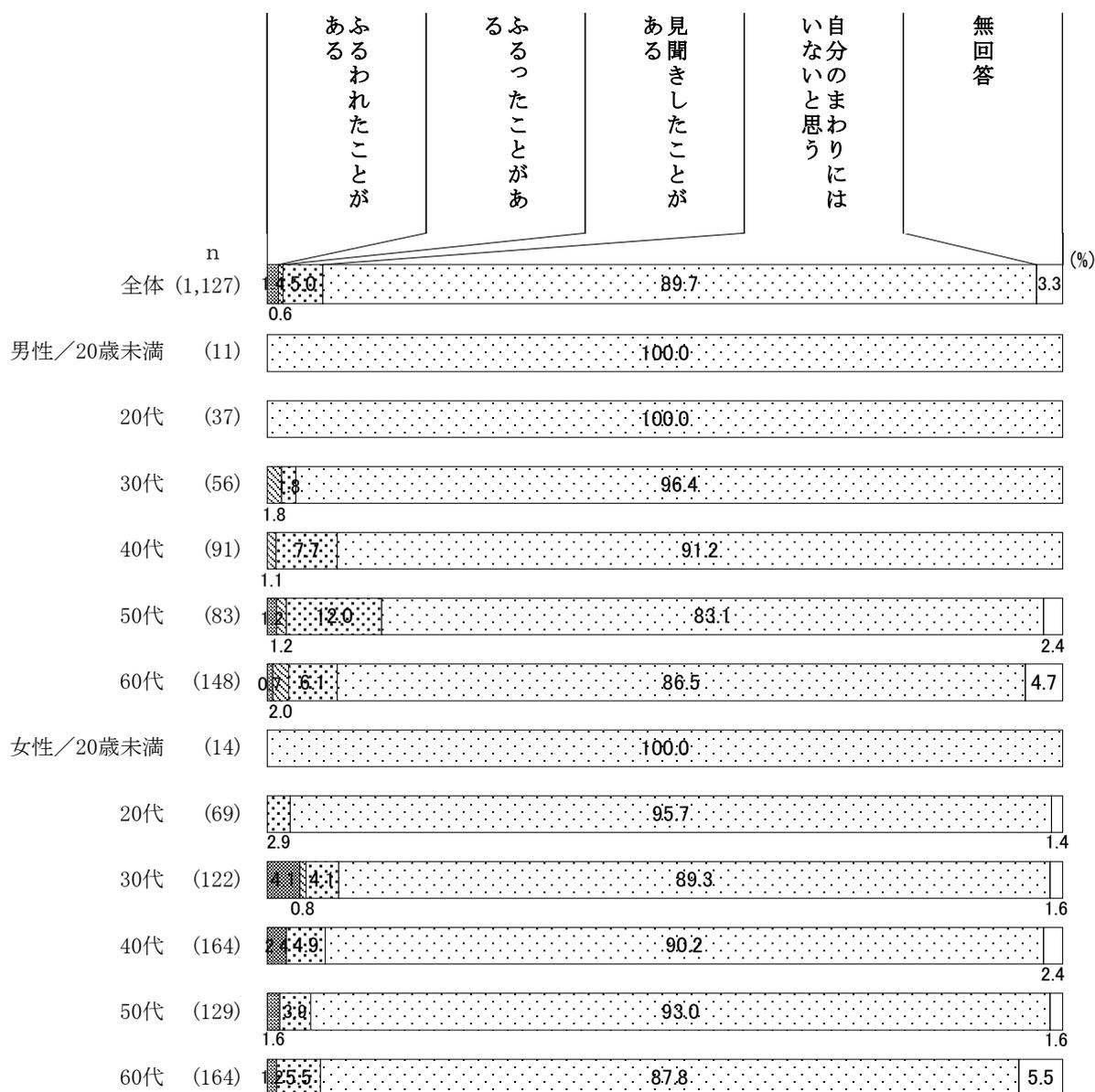
命の危険を感じるほどの暴力



性年代別では、男女ともにすべての年代で「自分のまわりにはないと思う」が最も高い。「ふるわれたことがある」は、男性では50代で3.6%、女性では50代で3.1%、40代で3.0%である。また、「見聞きしたことがある」は男女ともに40～50代でやや高くなっている。

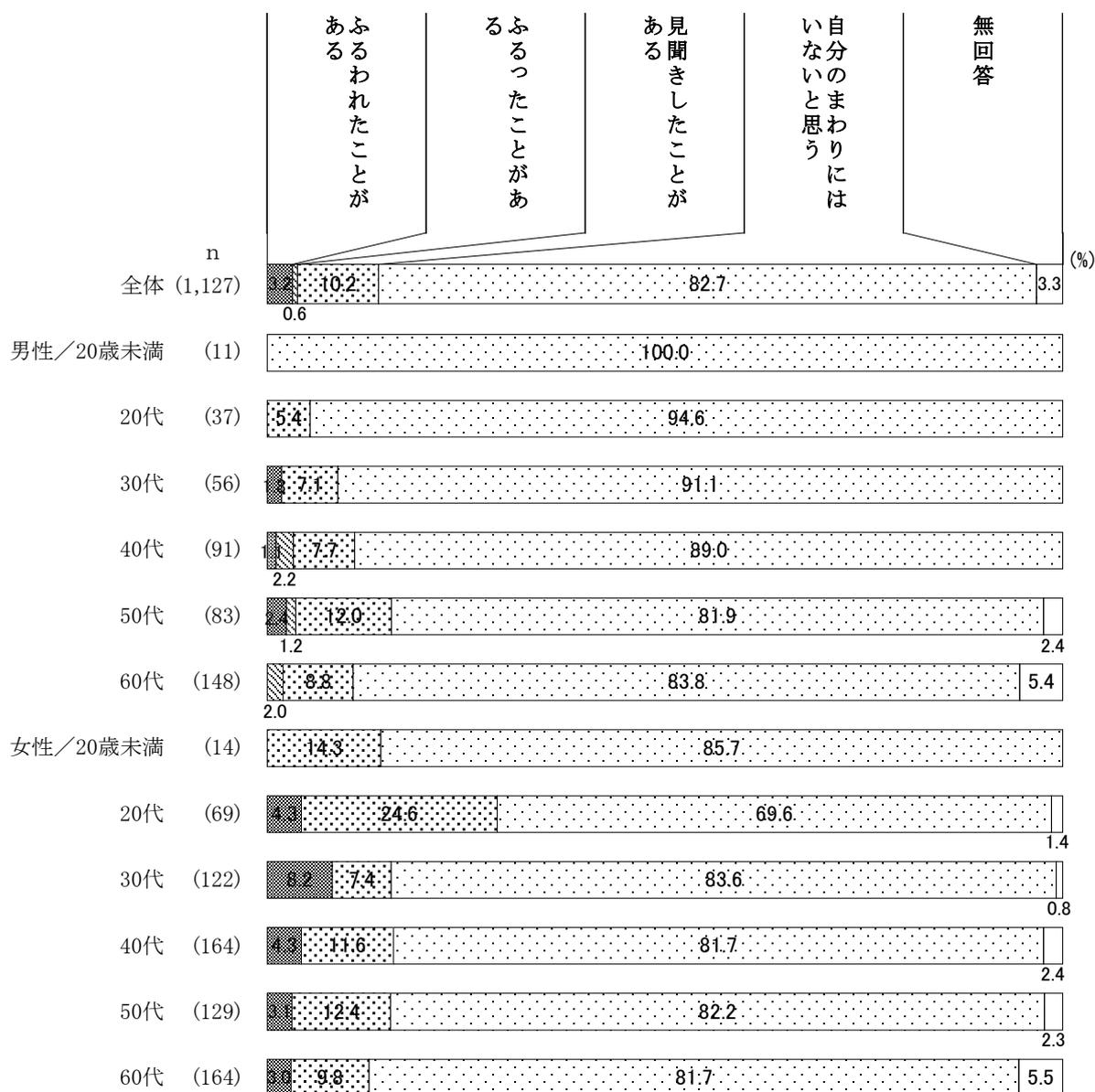
第2章 調査結果の詳細

見たくないのにポルノ等を見せられる



性年代別では、男女ともにすべての年代で「自分のまわりにはないと思う」が最も高い。「あるふられたことがある」は、女性では30代で4.1%、40代で2.4%である。また、「見聞きしたことがある」は男性では40～60代で高く、特に50代で12.0%となっている。

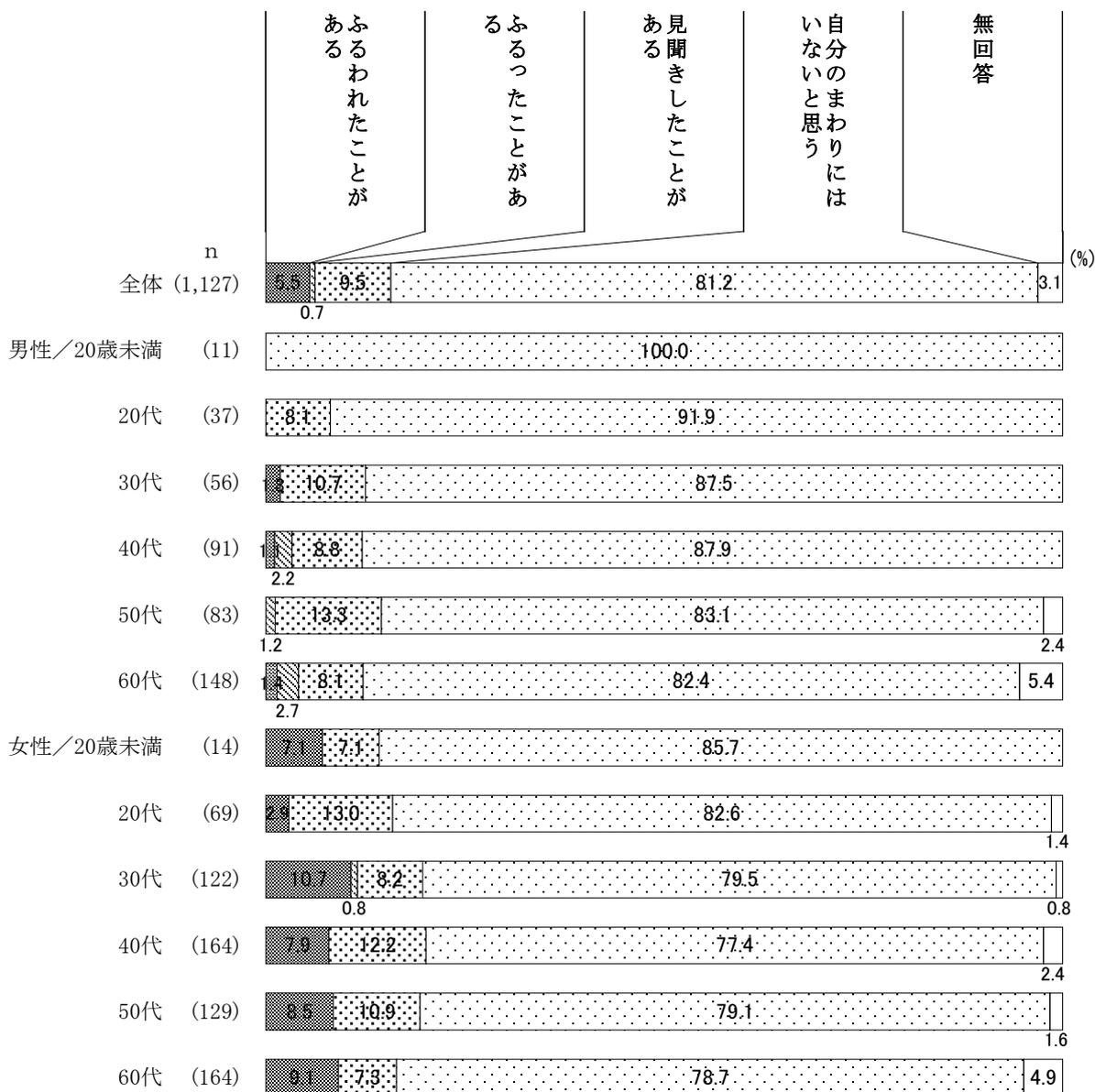
避妊に協力しない



性年代別では、男女ともにすべての年代で「自分のまわりにはないと思う」が最も高い。「ふるわれたことがある」は、女性では30代で8.2%、20代と40代でともに4.3%である。また、「見聞きしたことがある」は女性の20代で24.6%と高くなっている。

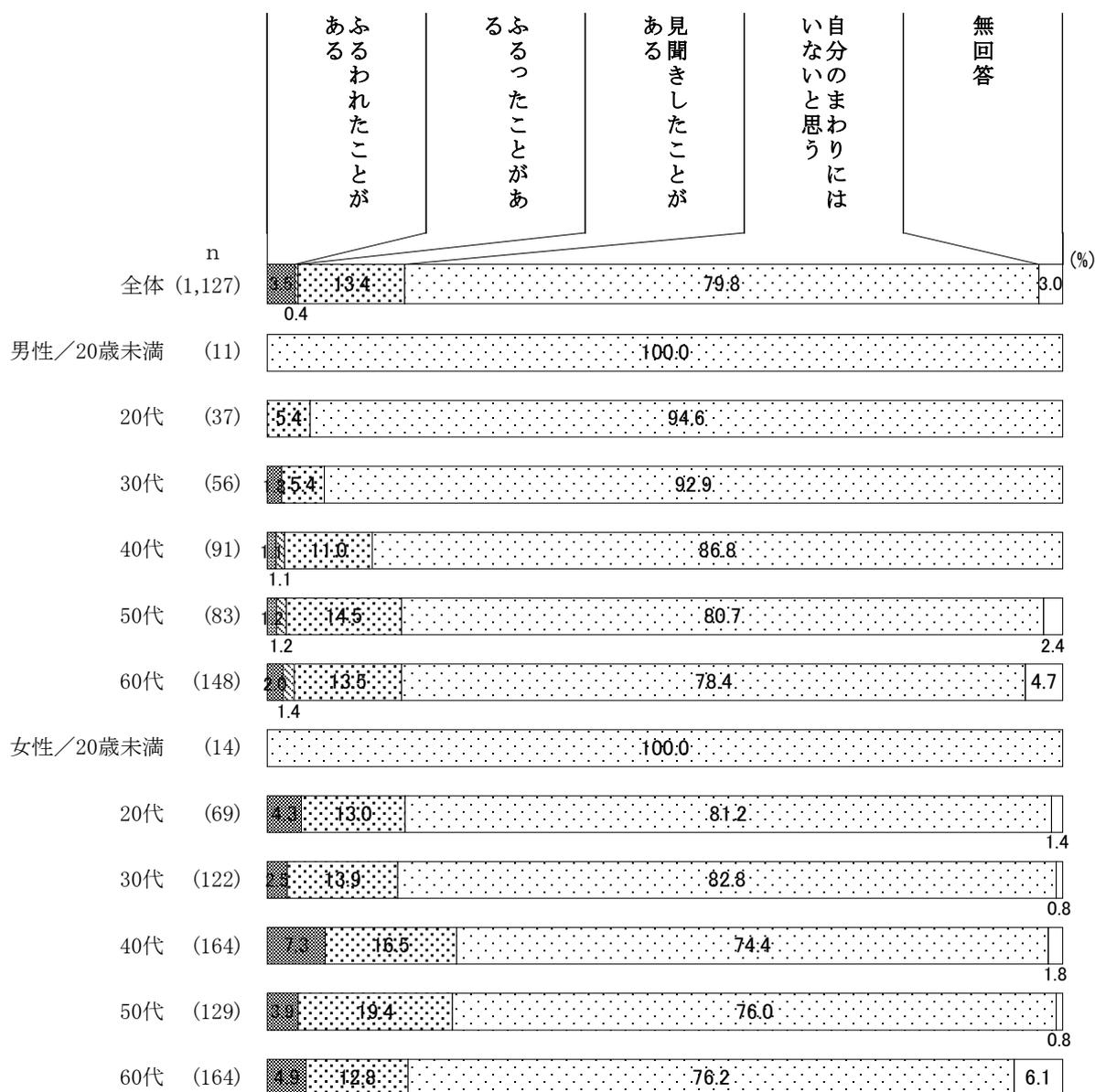
第2章 調査結果の詳細

いやがっているのに性的な行為を強要する



性年代別では、男女ともにすべての年代で「自分のまわりにはないと思う」が最も高い。「ふるわれたことがある」は、女性の30～60代で男性よりも高く、30代で10.7%、60代で9.1%である。また、「見聞きしたことがある」は男性では50代で13.3%、女性では20代で13.0%、40代で12.2%となっている。

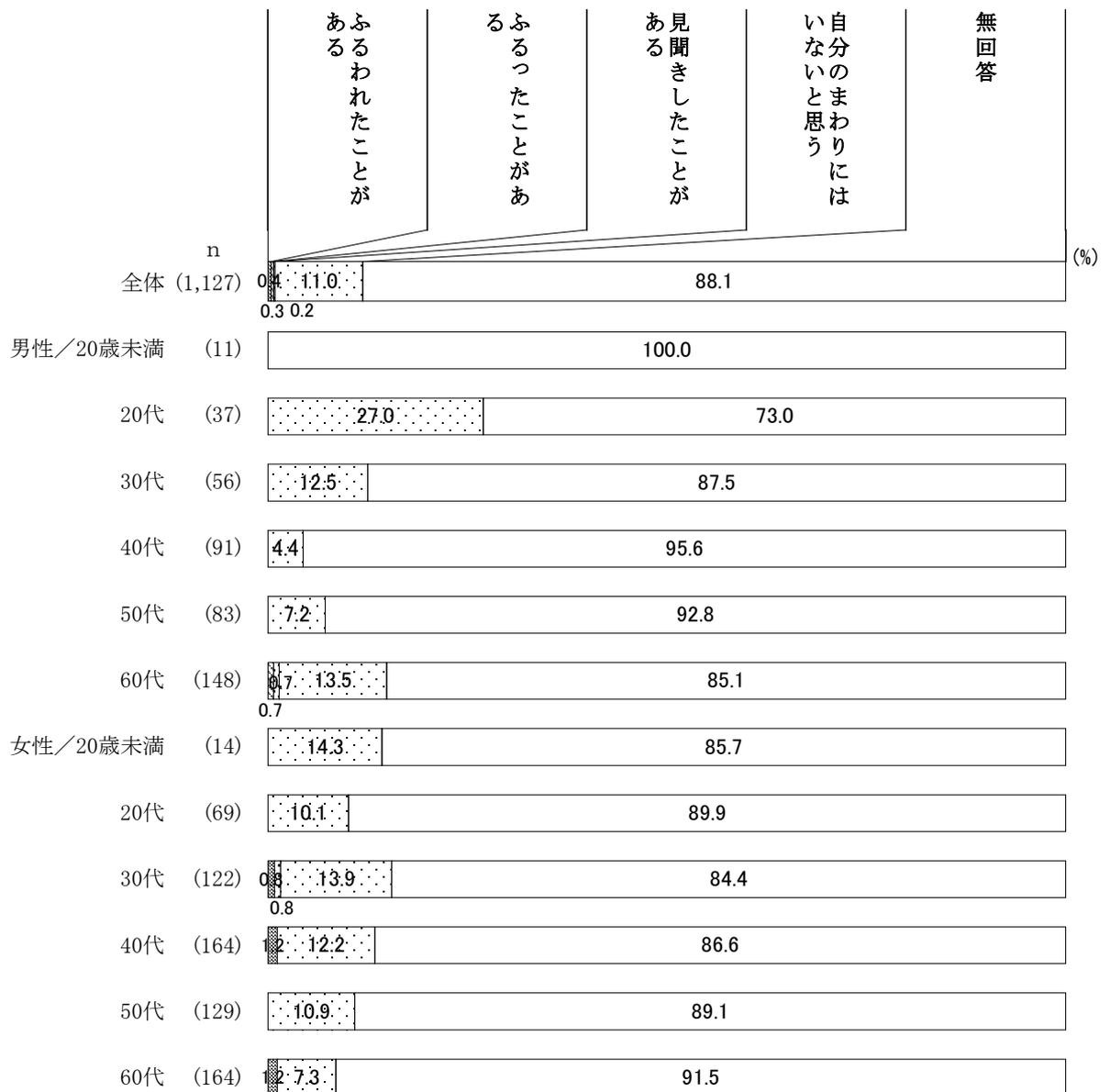
生活費を渡さない



性年代別では、男女ともにすべての年代で「自分のまわりにはないと思う」が最も高い。「ふるわれたことがある」は、女性の20～60代で男性よりも高く、40代で7.3%、60代で4.9%である。また、「見聞きしたことがある」は女性の50代で19.4%、40代で16.5%と高くなっている。

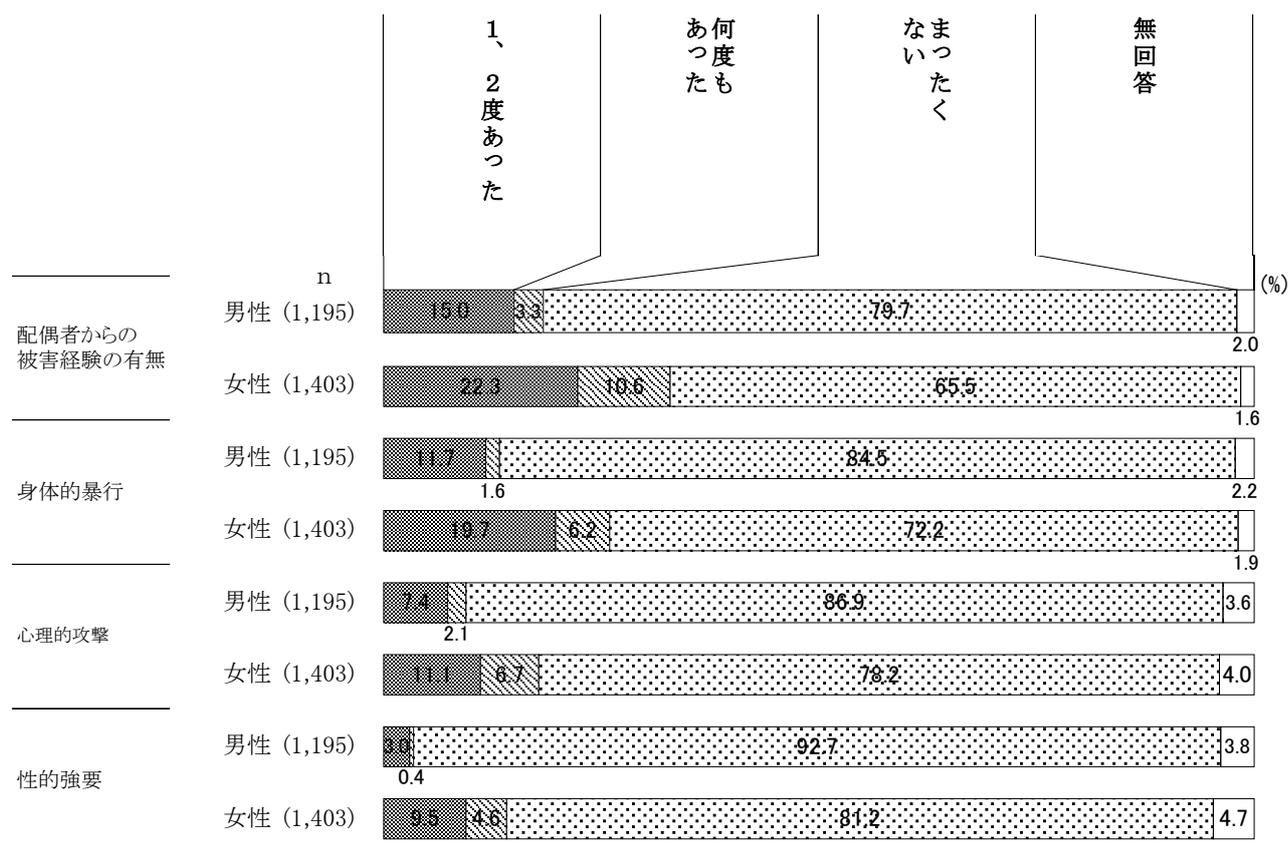
第2章 調査結果の詳細

その他



性年代別では、「見聞きしたことがある」は男性の20代で27.0%と高く、女性では20～50代で1割台となっている。

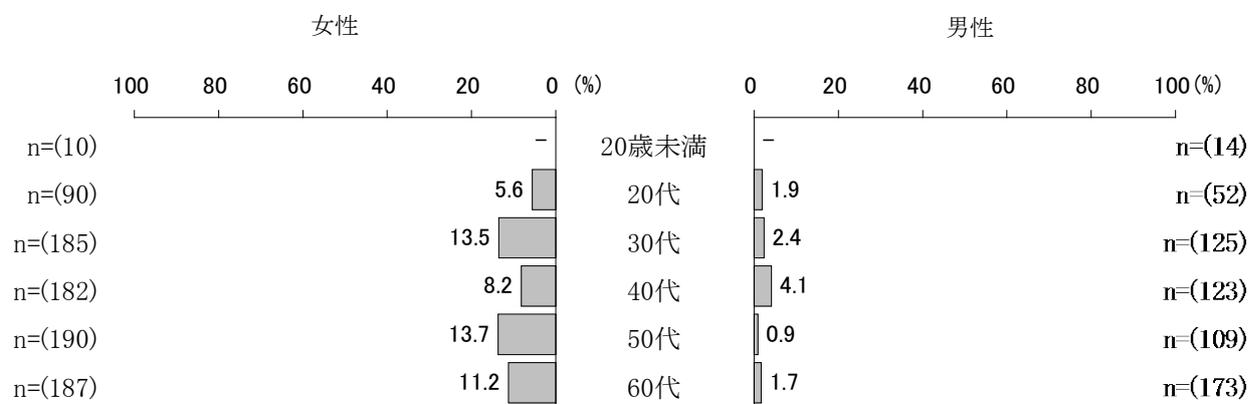
【参考】国の調査結果



国（内閣府）の調査では、『配偶者からの被害経験の有無』は、「1、2度あった」「何度もあった」は男性18.3%、女性32.9%で、女性が男性よりも14.6ポイント高い。それぞれの暴力種別にみても、『身体的暴力』で12.6ポイント、『性的要求』で10.7ポイント、『心理的暴力』で8.3ポイント、「1、2度あった」「何度もあった」は女性が男性よりも高くなっている。

【参考】前回の調査結果

暴力を振るわれたことがある

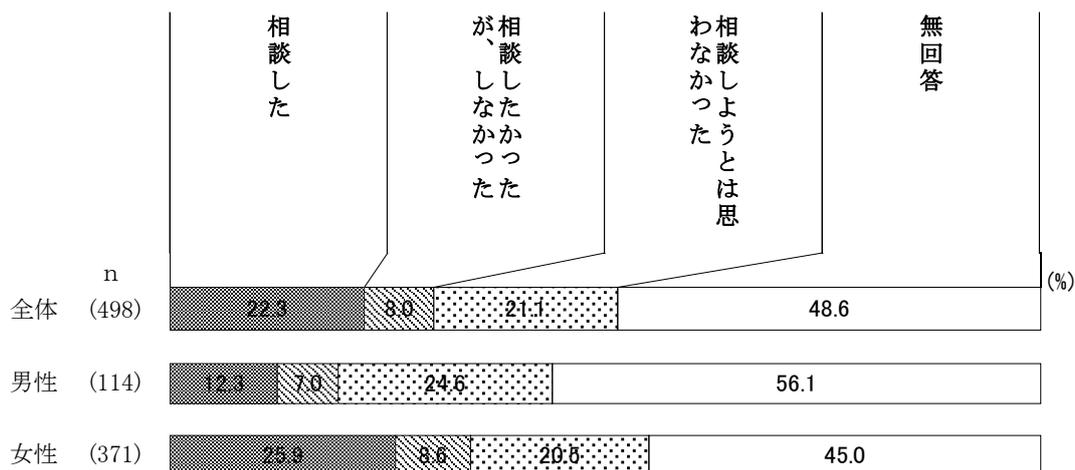


前回調査では、暴力を振るわれた経験は、女性の30~60代で高く、50代で13.7%、30代で13.5%となっている。

(5) 相談の有無、相談先、相談しなかった理由

■相談の有無

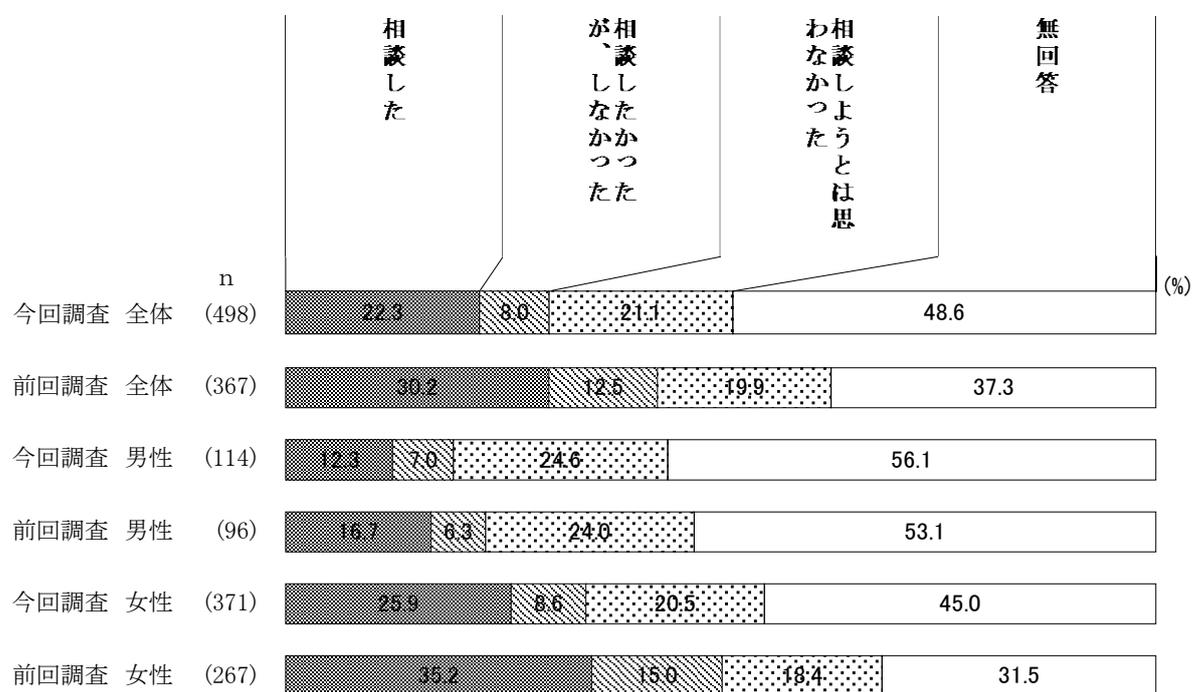
Q21 Q18でセクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントを「1. 受けたことがある」、ならびにQ20で暴力を「1. ふるわれたことがある」とお答えの方におたずねします。あなたは、このような行為を受けていることについて、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。1つだけお選びください。



セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの被害経験がある人に、相談したことの有無をたずねたところ、全体では、「相談した」が22.3%、「相談したかったが、しなかった」が8.0%、「相談しようとは思わなかった」が21.1%となっている。

性別では、「相談した」は、男性12.3%、女性25.9%と、女性の方が男性よりも13.6ポイント高くなっている。一方、「相談しようとは思わなかった」は、男性24.6%、女性20.5%となっている。

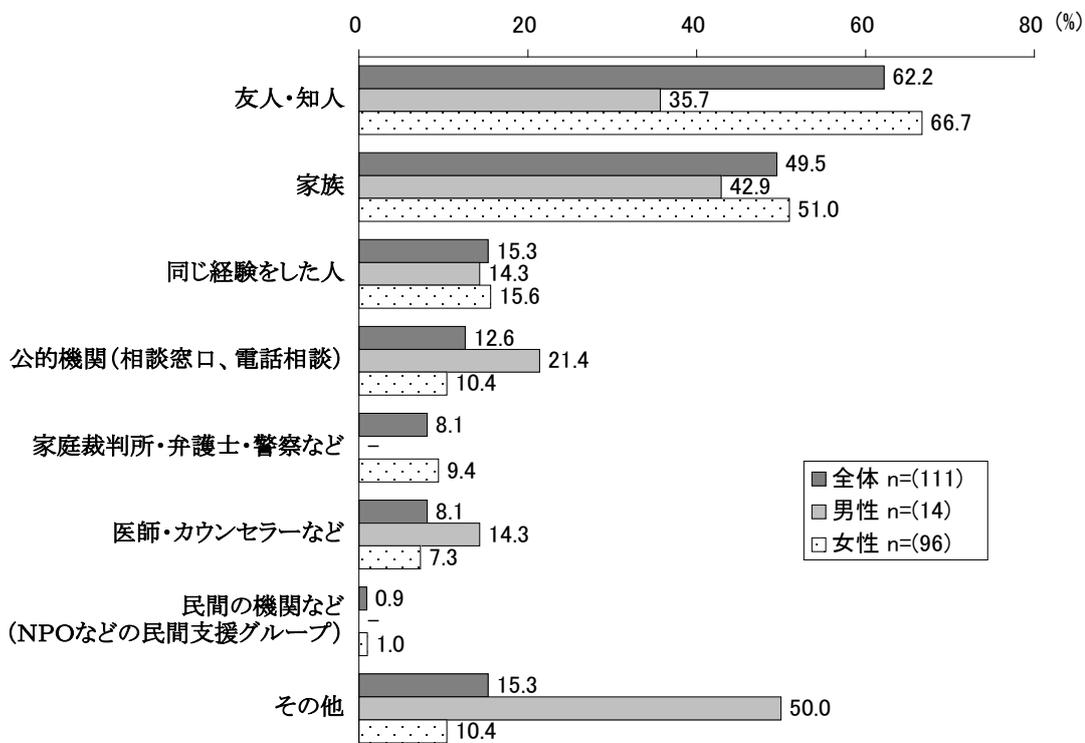
経年比較



前回調査と比較すると、全体では「相談した」は前回調査より7.9ポイント減少しており、男性で4.4ポイント、女性で9.3ポイントの減少となっている。また、女性では「相談したかったが、しなかった」は前回調査より6.4ポイントの減少となっている。

■相談先

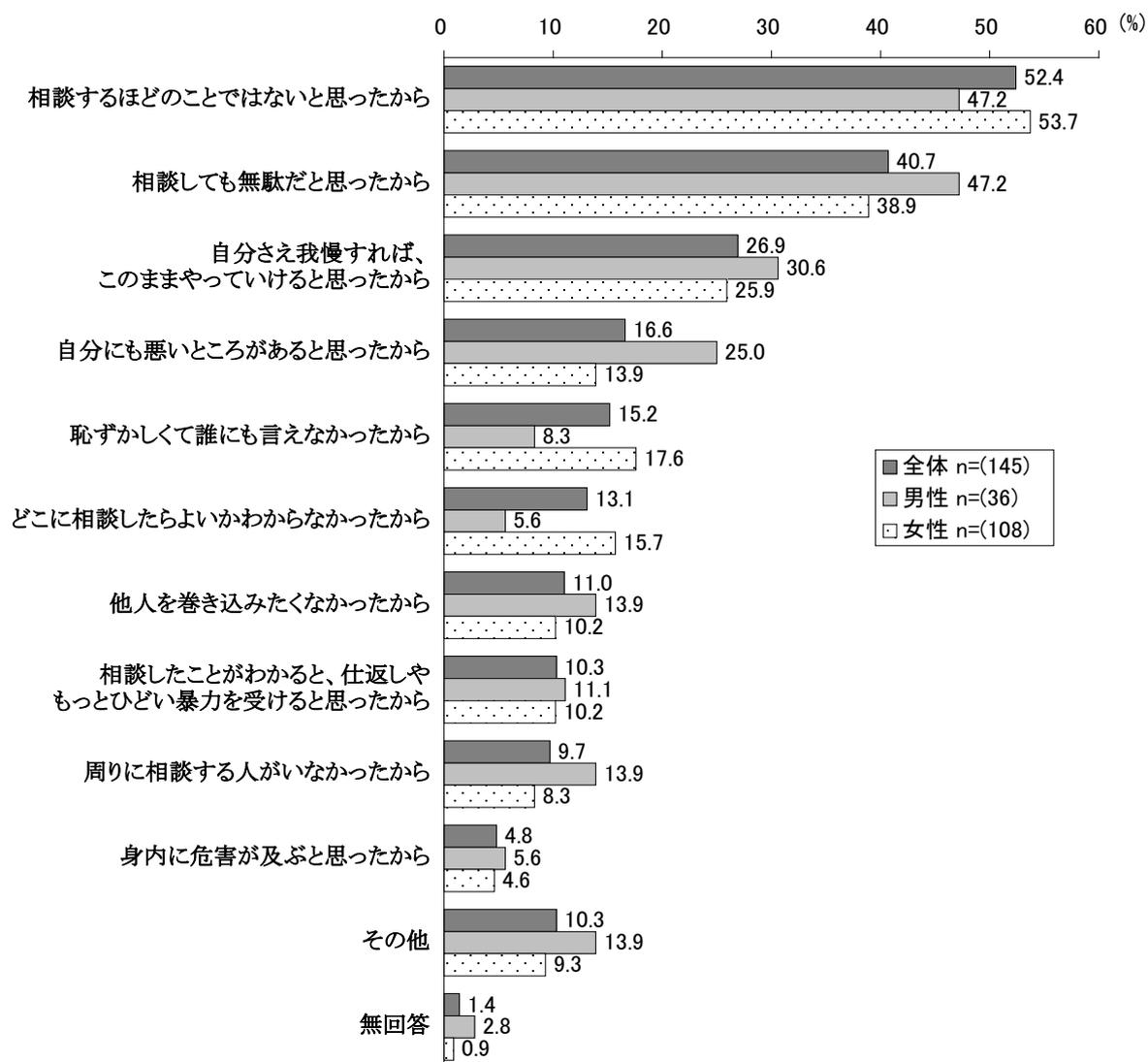
Q21-1 Q21で「1. 相談した」とお答えの方におたずねします。実際に、どこ（だれ）に相談しましたか。あてはまるものをすべてお選びください。



セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントを受けていることの相談先は、「友人・知人」が全体で62.2%、女性66.7%で最も高く、次いで「家族」となっており、全体49.5%、女性51.0%である。

■相談しなかった理由

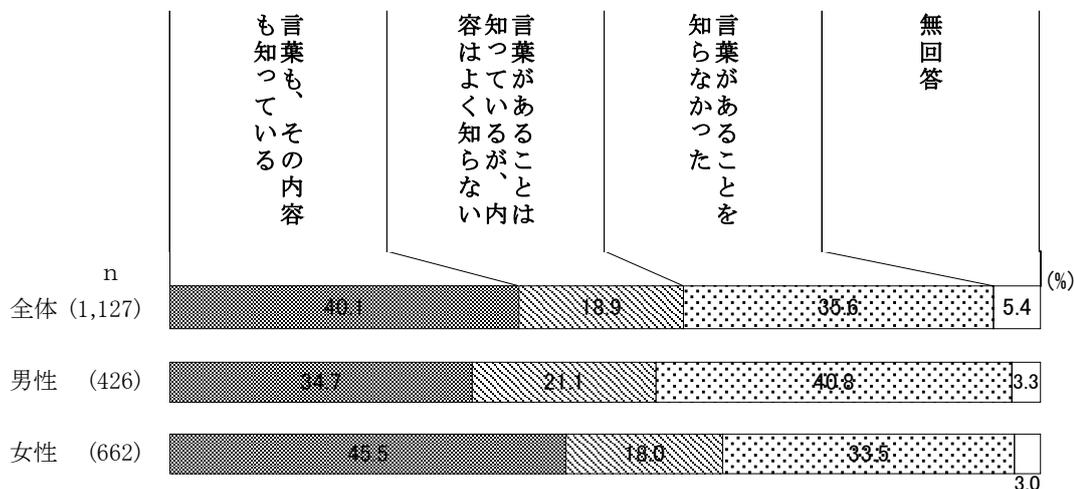
Q21-2 Q21で「2. 相談したかったがしなかった」、「3. 相談しようとは思わなかった」とお答えの方におたずねします。実際に、どこにも相談しなかったのはなぜですか。あてはまるものをすべてお選びください。



相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が全体で52.4%、女性53.7%、男性47.2%と高い。次いで「相談しても無駄だと思ったから」が全体40.7%、男性47.2%、女性38.9%となっている。「自分にも悪いところがあると思ったから」は男性25.0%、女性13.9%で11.1ポイント男性の方が高い。

(6) 「デートDV」という言葉の認知状況

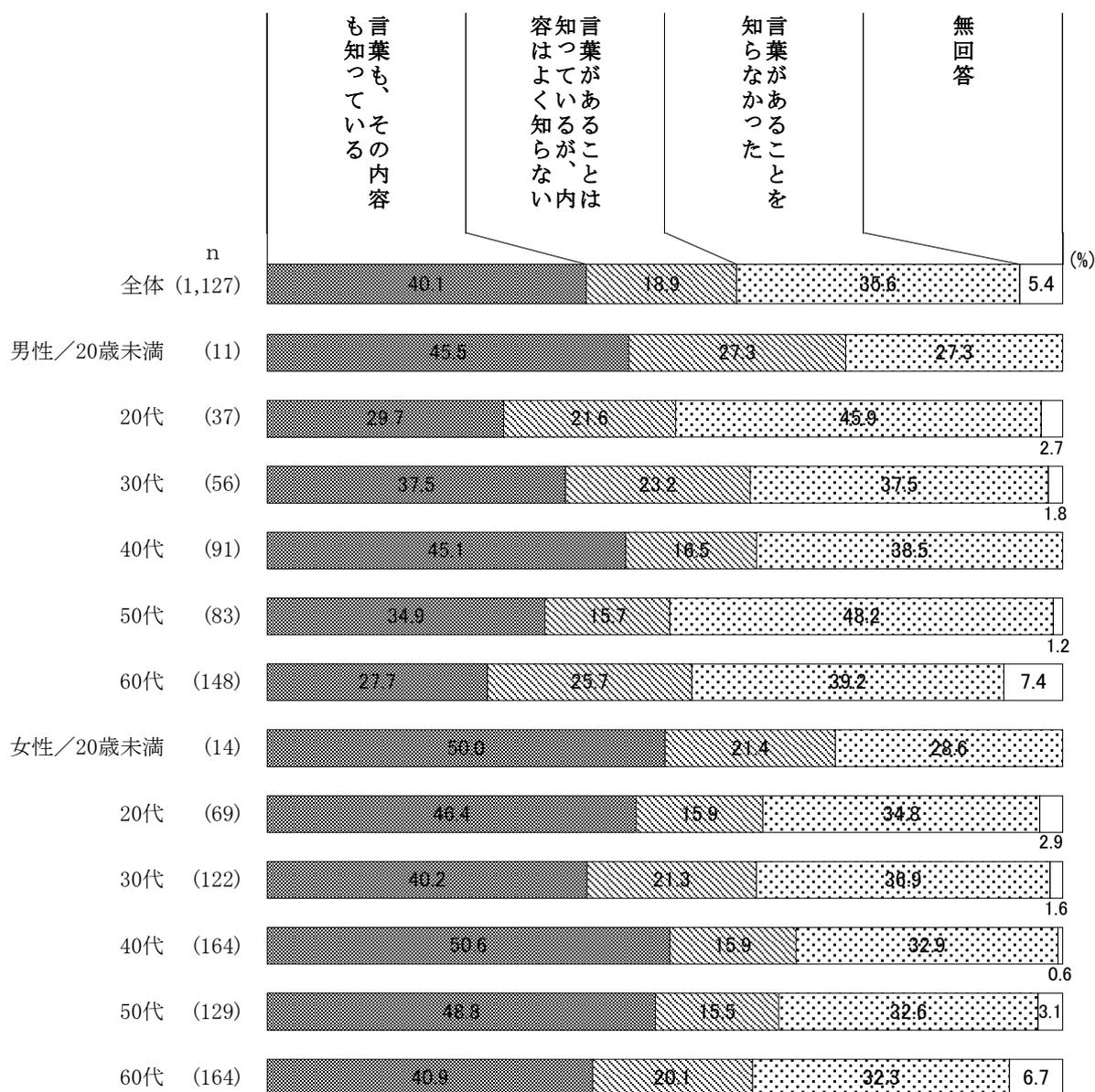
Q22 あなたは、「デートDV（交際相手からの暴力）」ということばを知っていますか。1つだけお選びください。



「デートDV（交際相手からの暴力）」という言葉については、全体では「言葉も、その内容も知っている」が40.1%、「言葉があることを知らなかった」が35.6%となっている。

性別では、「言葉も、その内容も知っている」は女性45.5%、男性34.7%で女性が10.8ポイント高く、「言葉があることを知らなかった」は男性40.8%、女性33.5%で男性が7.3ポイント高い。

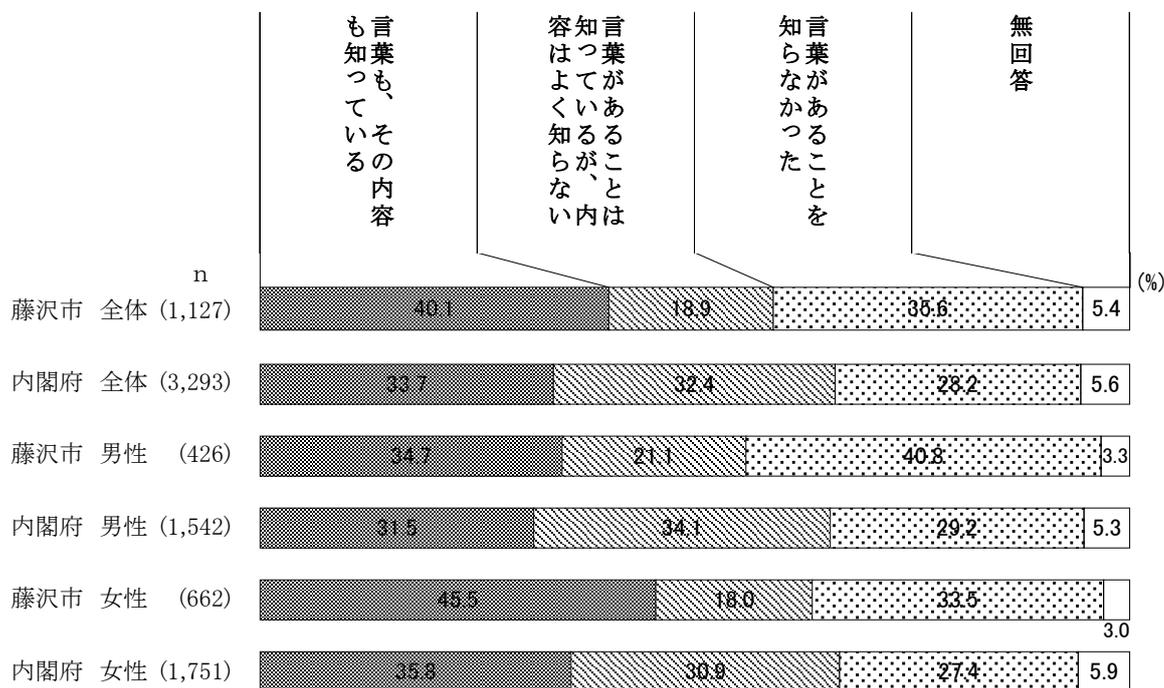
性年代別



性年代別では、「言葉も、その内容も知っている」は女性では20～60代で高く、特に40代で50.6%、50代で48.8%となっている。男性では40代で45.1%と高い。「言葉があることを知らなかった」は男性の50代で48.2%、20代で45.9%と高くなっている。

第2章 調査結果の詳細

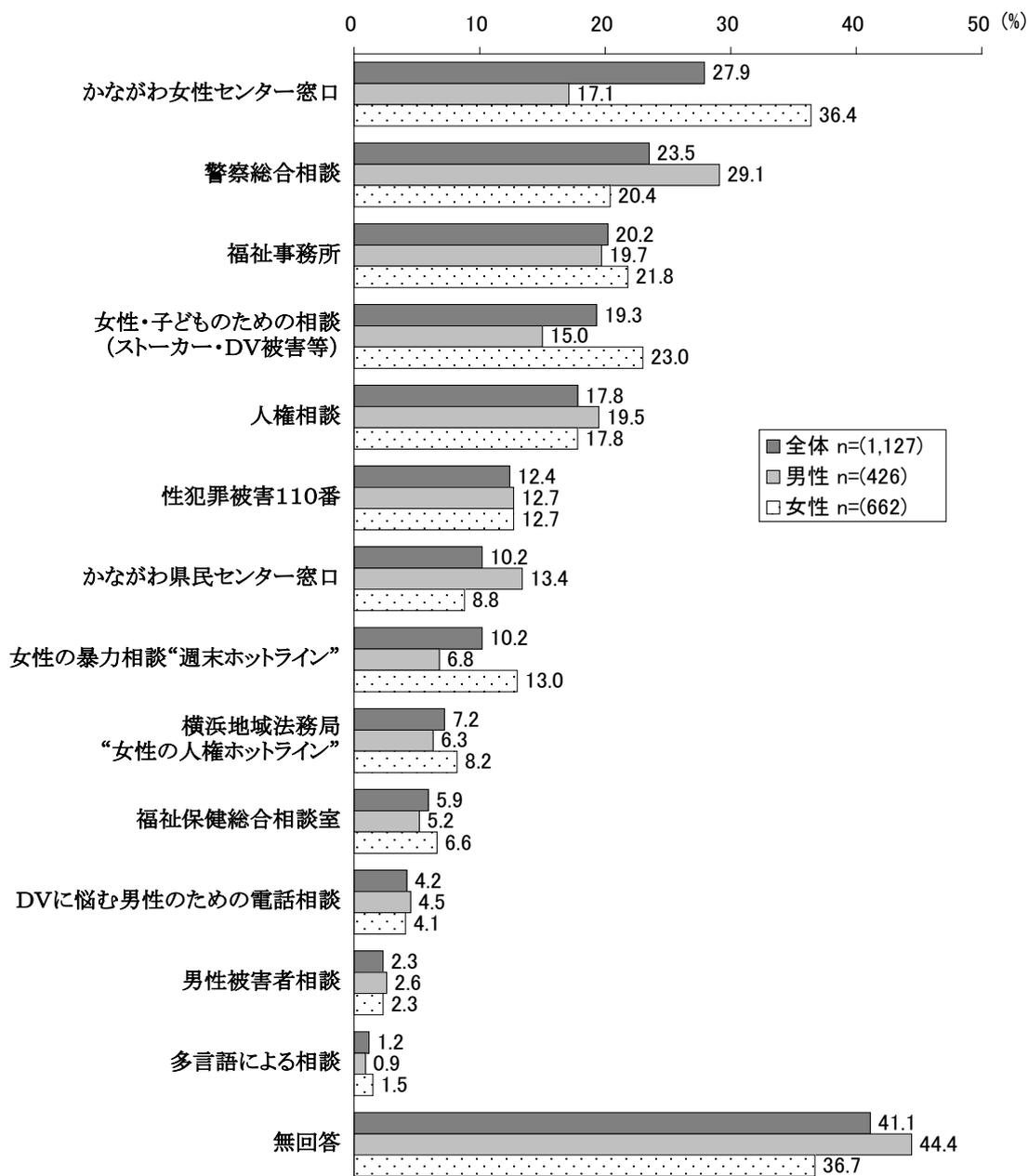
国との比較



国（内閣府）の調査と比較すると、「言葉も、その内容も知っている」は全体では藤沢市40.1%、内閣府33.7%で、藤沢市が内閣府よりも6.4ポイント高く、女性では藤沢市が45.5%、内閣府35.8%と、9.7ポイント高くなっている。一方、「言葉があることを知らなかった」は、男性では藤沢市40.8%、内閣府29.2%となっており、藤沢市が内閣府よりも11.6ポイント高くなっている。

(7) DV等の相談窓口の認知状況

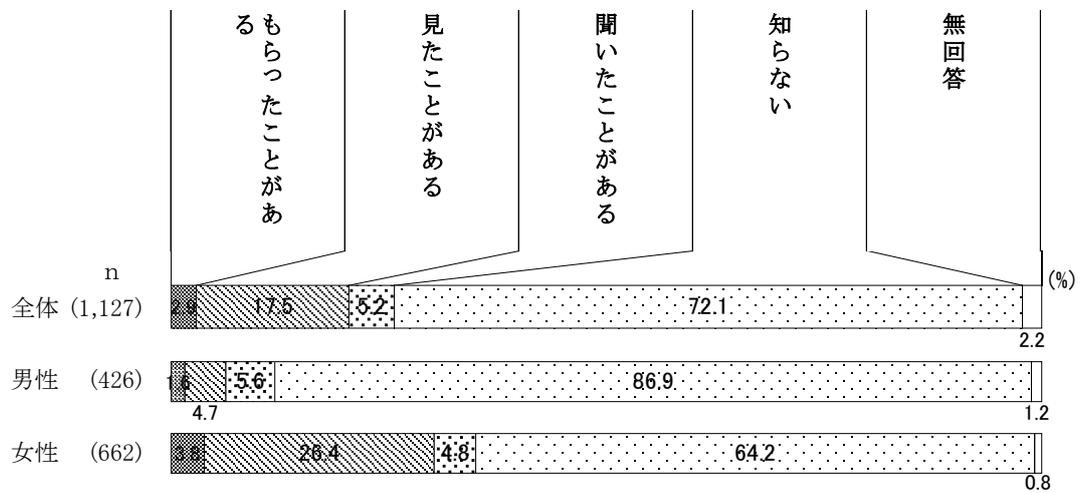
Q23 あなたは、DV等の相談先として次のような窓口をご存じですか。1から13のうちご存じのものすべてに○をお付けください。



DV等の相談先として知っている窓口については、「かながわ女性センター窓口」が全体27.9%、女性36.4%で最も高く、男性では「警察総合相談」が29.1%で最も高い。また、女性では「女性・子どものための相談（ストーカー・DV被害等）」が23.0%、「福祉事務所」21.8%、「警察総合相談」20.4%となっている。

(8)「DV相談窓口案内カード」の認知状況

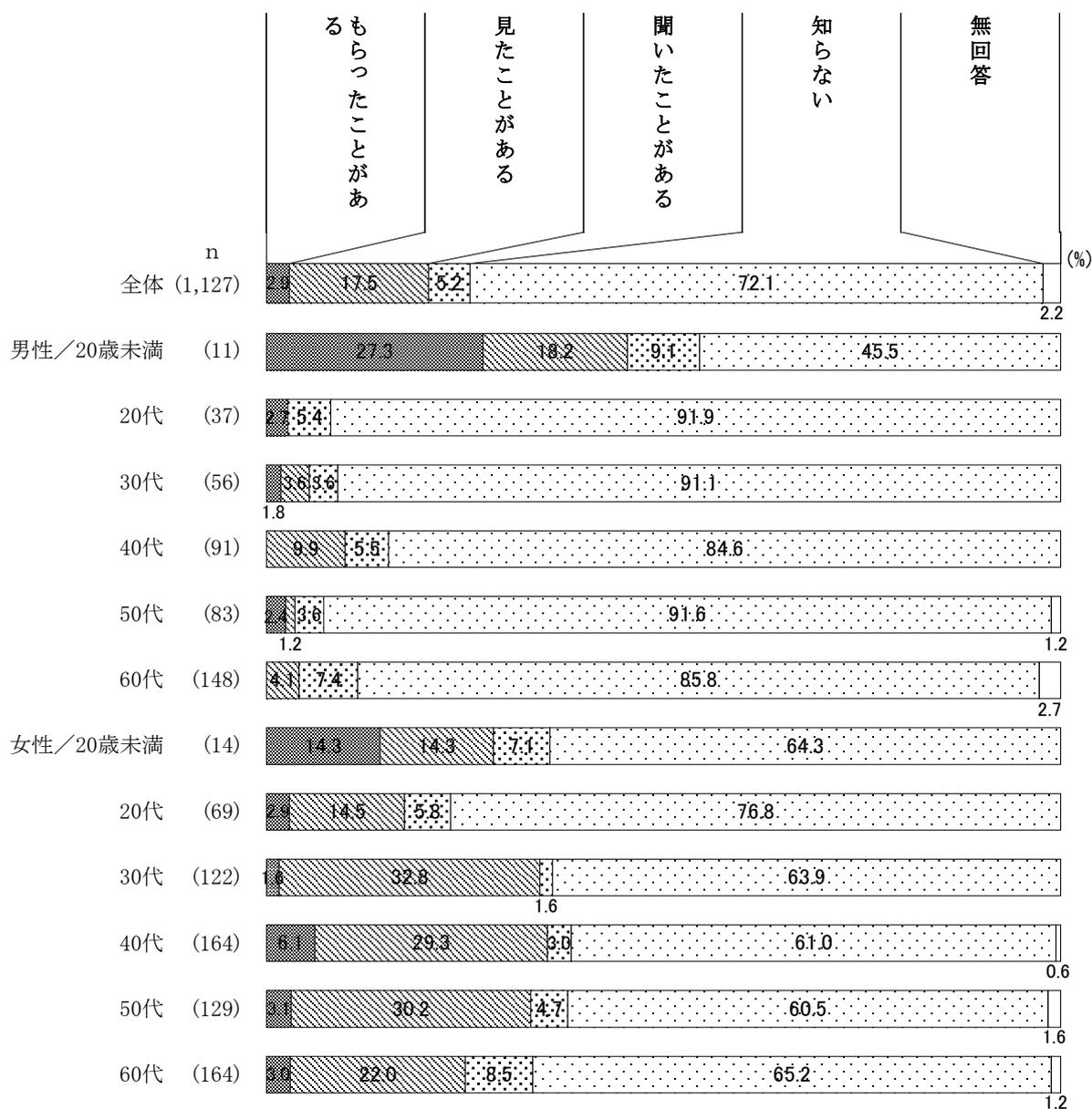
Q24 あなたは、「DV相談窓口案内カード」をご存じですか。



「DV相談窓口案内カード」については、全体では「知らない」が72.1%で7割を超えており、「見たことがある」「聞いたことがある」は22.7%で認知度は低い。

性別では、「知らない」が男女とも最も高く、男性86.9%、女性64.2%で男性が22.7ポイント「知らない」割合が高い。「見たことがある」「聞いたことがある」は女性31.2%に対して、男性はわずか10.3%となっている。

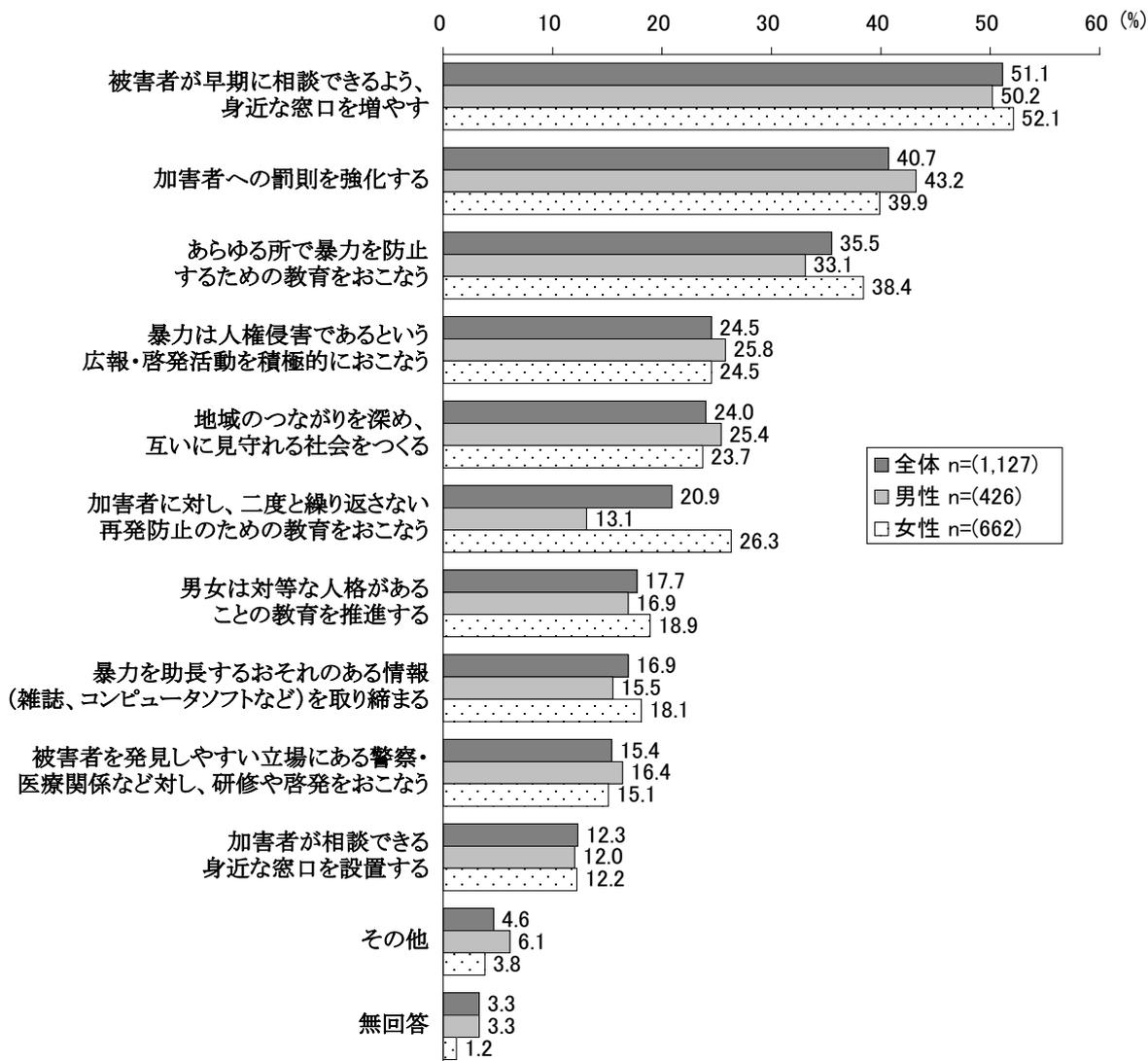
性年代別



性年代別では、「知らない」は男性では20～60代で8割以上と高く、女性では20代で76.8%と高くなっている。「見たことがある」「聞いたことがある」は女性の30～60代で3割以上となっており、「もらったことがある」は女性40代で6.1%となっている。

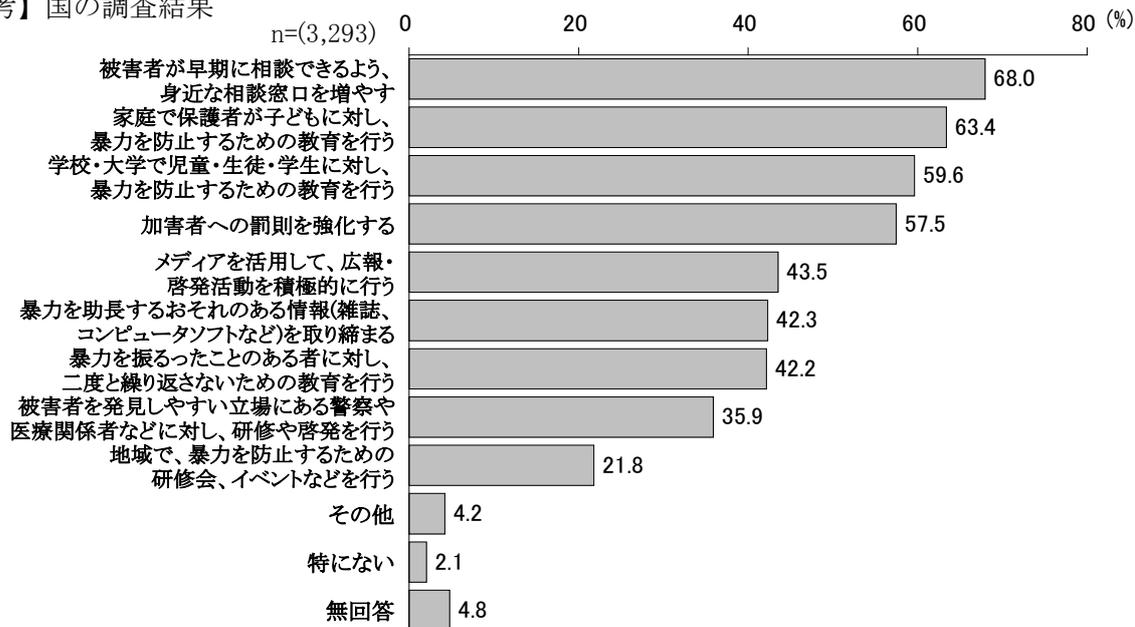
(9) DVを防ぐために重要だと思うこと

Q25 DVを防ぐには、どのようにしたら良いとお考えですか。重要だと思われるものを3つまでお選びください。



DVを防ぐために重要だと思われることは、「被害者が早期に相談できるよう、身近な窓口を増やす」が全体51.1%、女性52.1%、男性50.2%で5割を超えて最も高くなっている。次いで「加害者への罰則を強化する」が全体で40.7%、男性43.2%、女性39.9%となっている。また、女性では「あらゆる所で暴力を防止するための教育をおこなう」38.4%、「加害者に対し、二度と繰り返さない再発防止のための教育をおこなう」が26.3%で男性13.1%に対し、13.2ポイント高くなっている。

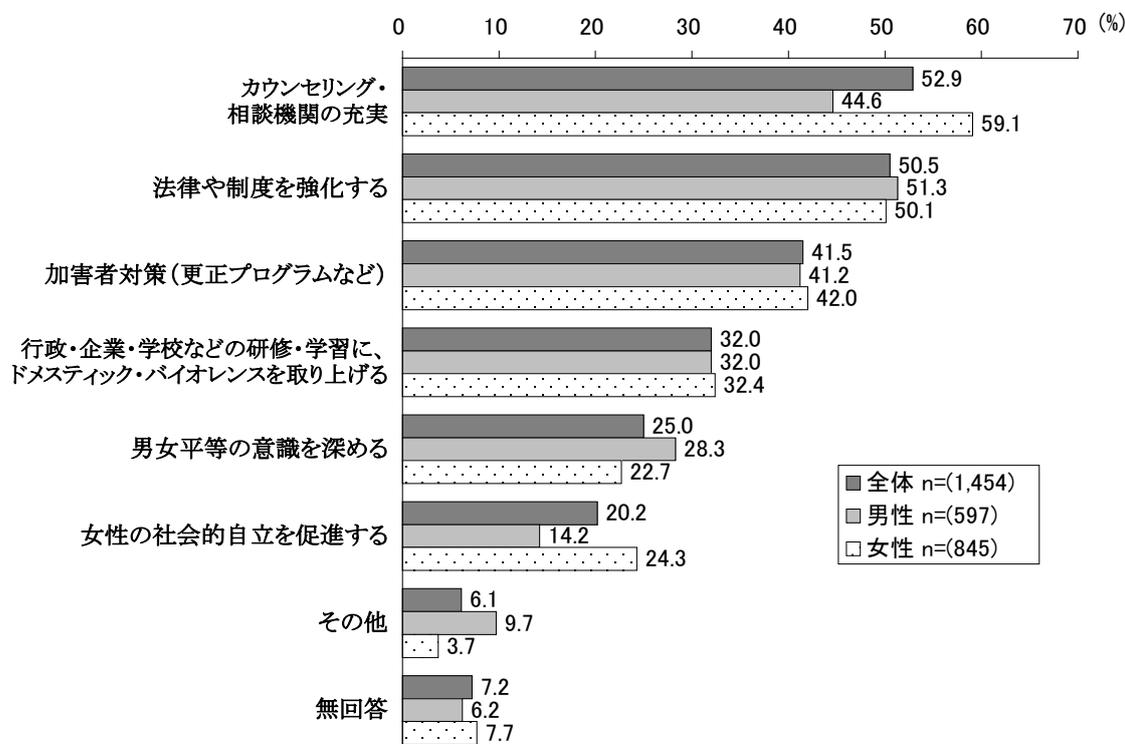
【参考】国の調査結果



国（内閣府）の調査において、男女間における暴力を防止するために必要なことを聞いたところ、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が68.0%で最も高く、次いで「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が63.4%となっている。

【参考】前回調査の結果

DVを防ぐために重要だと思われること

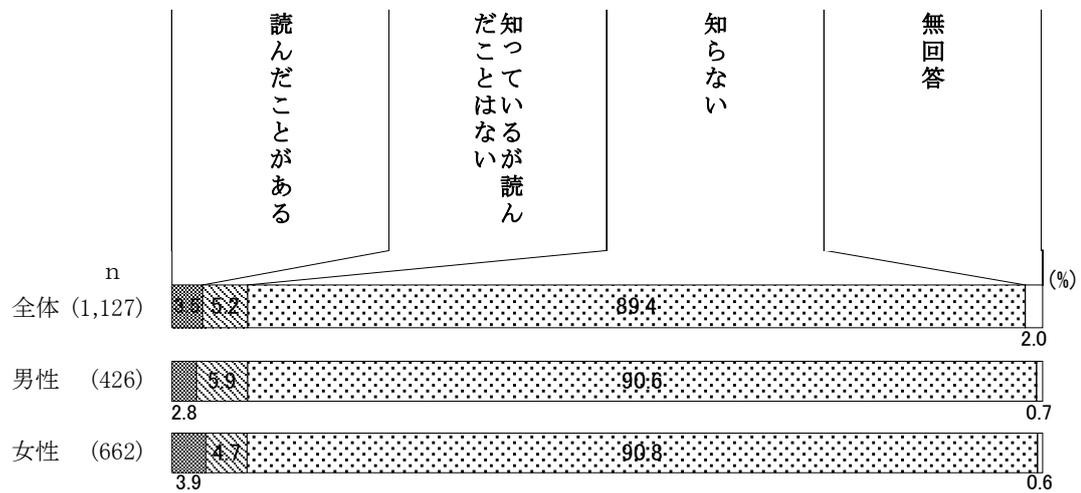


前回調査では、「カウンセリング・相談機関の充実」が全体で52.9%と最も高く、特に女性で59.1%となっている。次いで、「法律や制度を強化する」は全体で50.5%、男性51.3%、女性50.1%となっている。

F 男女共同参画に必要な施策について

(1) 「男女が共に生きる情報紙 かがやけ地球」の認知状況

Q26 あなたは、「男女が共に生きる情報紙 かがやけ地球」をご存じですか。

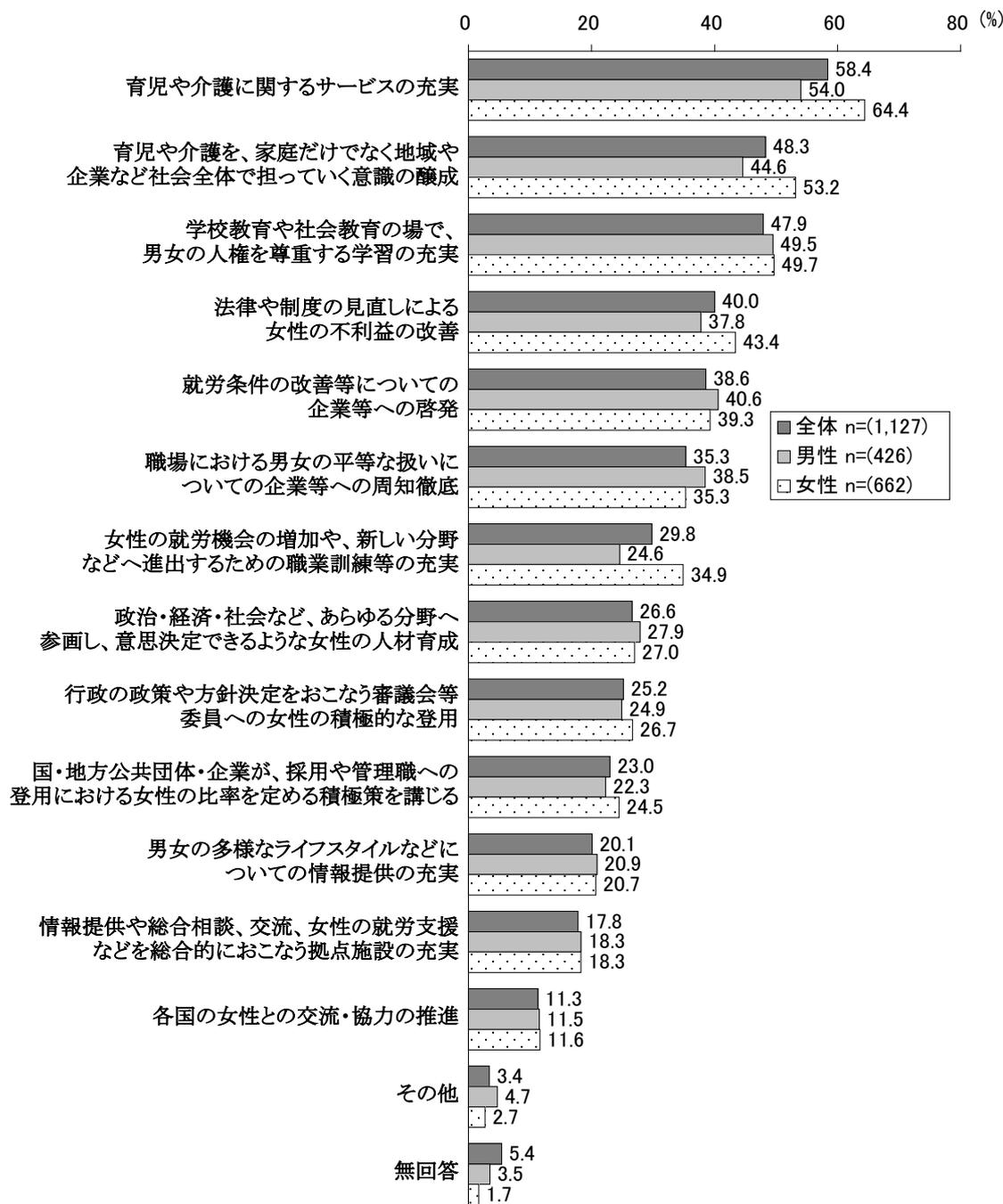


「男女が共に生きる情報紙、かがやけ地球」については、全体では「知らない」が89.4%で約9割と高い割合になっている。

性別でも同様に「知らない」が男女共に約9割となっている。

(2) 男女共同参画社会を実現していくために行政に望むこと

Q27 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、あなたは行政に対してどのようなことを望みますか。いくつでもお選びください。

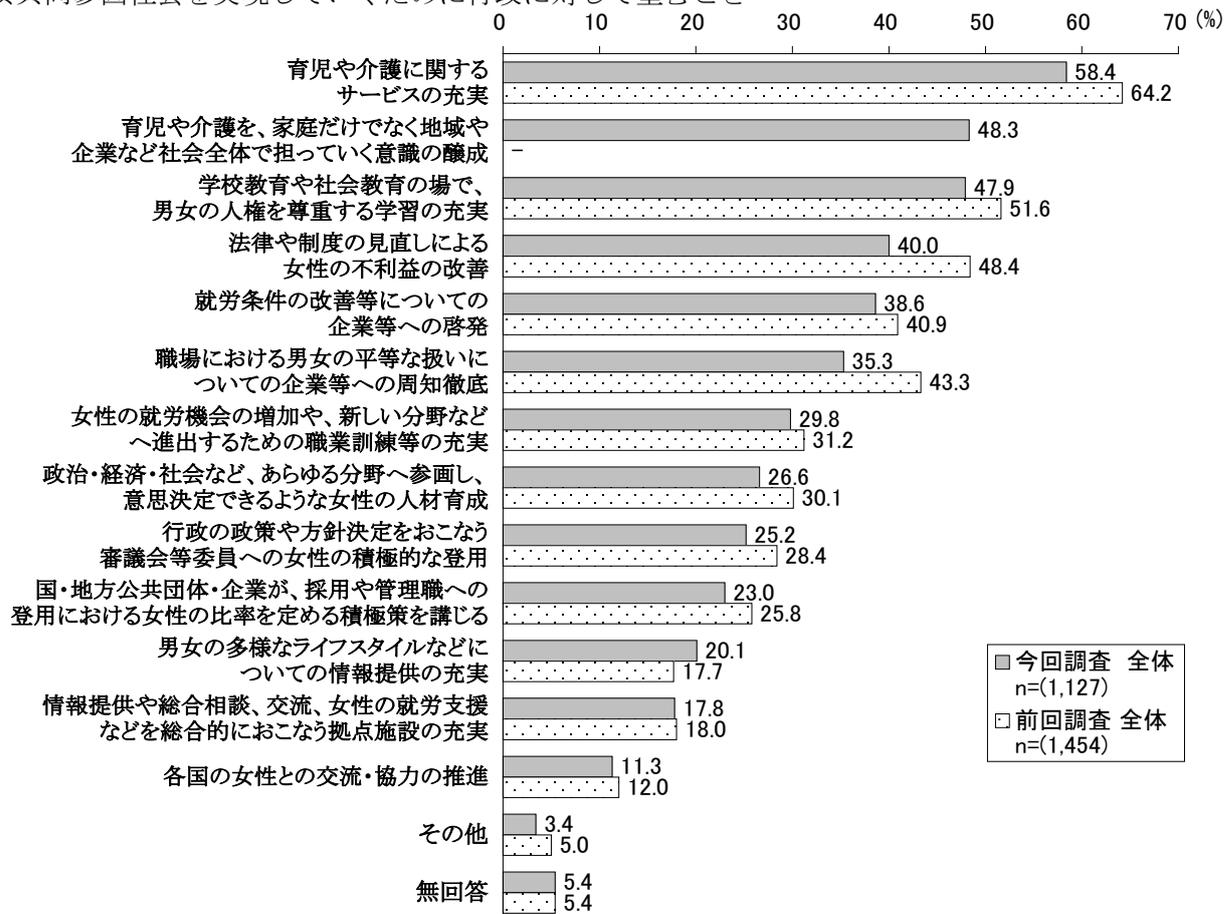


男女共同参画社会を実現していくために、行政に対して望むことは、「育児や介護に関するサービスの充実」が全体で58.4%、女性64.4%、男性54.0%で最も高く、女性の方が男性より10.4ポイント高くなっている。次いで「育児や介護を、家庭だけでなく地域や企業など社会全体で担っていく意識の醸成」が全体48.3%、女性53.2%、男性44.6%で男性と比較して女性が8.6ポイント高い。「学校教育や社会教育の場で、男女の人権を尊重する学習の充実」は全体47.9%、男女とも約5割となっている。

第2章 調査結果の詳細

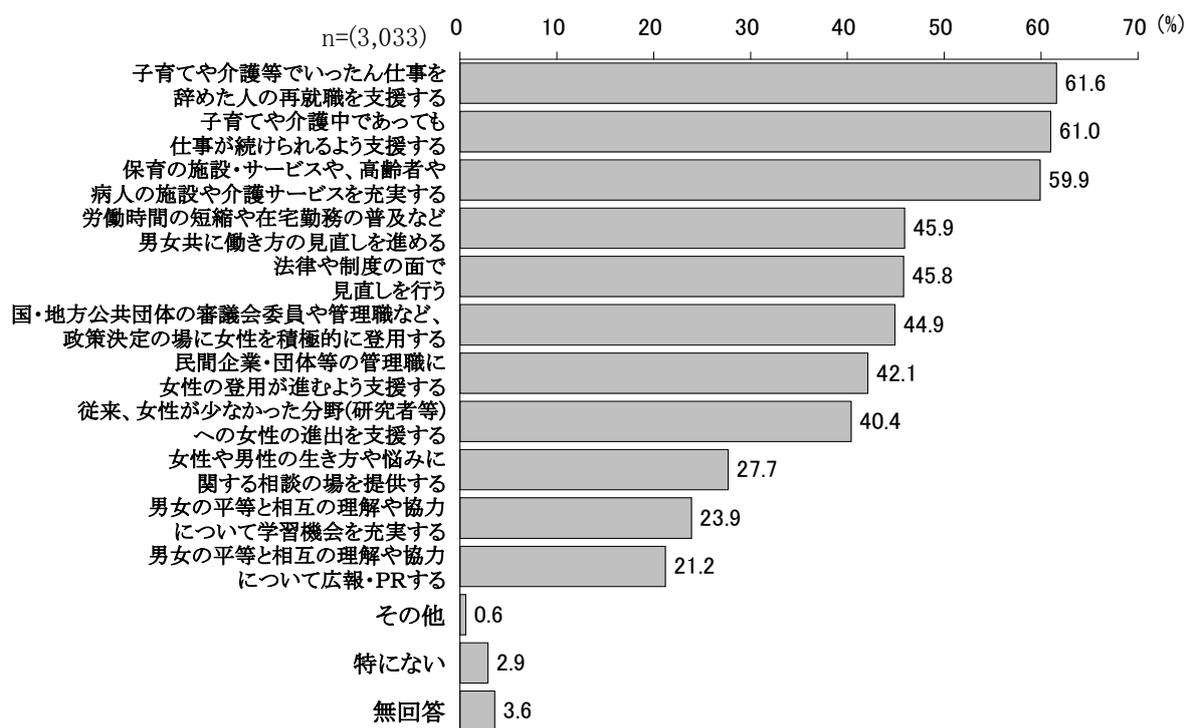
経年比較

男女共同参画社会を実現していくために行政に対して望むこと



前回調査と比較すると、今回調査では「育児や介護に関するサービスの充実」が前回から5.8ポイント減少しているが、同様に最も高くなっている。また、「学校教育や社会教育の場で、男女の人権を尊重する学習の充実」「法律や制度の見直しによる女性の不利益の改善」も前回から減少しているが、それぞれ高い割合となっている。

【参考】国の調査結果



国（内閣府）の調査において、「男女共同参画社会」を実現するために、今後行政が力を入れていくべきことを聞いたところ、「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が61.6%で最も高く、次いで「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が61.0%、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が59.9%となっている。

(3) 男女共同参画を実現していくために、社会の一員としてできること

Q28 男女共同参画を実現していくために、社会の一員としてあなたはどんなことができると思いますか。

男女共同参画を実現していくために、社会の一員としてできることを聞いたところ、285件の意見が寄せられた。1人の回答者が複数の内容を記入している場合もあるため、件数は延べ件数となる。

男女共同参画の意識向上・取り組み	
男女共同参画意識の向上・理解の醸成	42
男女共同参画の学習・意識改革	20
意見・意思の表明、受入れ	9
男女共同参画の取組への参加	5
家庭での取り組み	
家庭での教育	39
家事・育児・介護の協力	18
ワーク・ライフ・バランスの実践	1
働く場での取り組み	
仕事を通じた貢献・成果・経済的自立	15
女性が働きやすい社会づくり	10
就労環境の整備・職場での働きかけ	10
社会・地域での取り組み	
地域での交流・支援・ボランティア	28
周囲への働きかけ・相談対応	12
選挙・パブリックコメントへの参加	7
その他	
経済的・意識上の自立	1
できることはない	8
男女の違いを尊重すべき・性別による特性を生かすべき	20
その他	22
公的な施策の必要性に関する意見	
学校・社会教育の充実が必要	9
子育て支援・介護支援が必要	4
法制度の見直しが必要	3
情報提供が必要	2